



関東支部忘年会 於 東京凌霜クラブ
 昭和63年12月5日 (名前は本文参照)



京阪神地区忘年会 昭和63年12月9日
 於 ニューミュンヘン
 (後列) 佐藤、橋本、石井、古賀、山野、杉野夫人
 (前列) 岡田、藤岡、松田、柴川、北村、堂本、杉野



金メダルを首に祝福を受けられる小山会長
世界マスターズ水泳大会にて



全国 6位入賞
国公立戦



関カレにて
力泳する笠田



全 国 国 公 立 職 に て

左より
 東、山崎、井上聡、井上達、井上謙、小南、小谷、染谷、田中、安居、小笠原 奥村、羽瀬、柴田、小島、戸井、守沖
 坂東、三宅、一越、植松、岡崎、笠田、林、小沢、寛
 当麻、村田、村上、川上、枝沢、大江、宮下、黒田

目 次

(表紙題字 藤井正太郎先生)

「凌泳七十年史」刊行に向って始動	編集委員会		
スポーツ対談「ソウルオリンピック」	前日水連会長	藤田 明	1
を前にして	日水連監事	小山賢之助	
田口寛治先生を悼む	凌泳編集幹事	石井 義章	6
「凌泳七十年史」刊行について(折込年表)	編集委員会		7
わたしの邪馬台国	昭34理	前田 修	11
田淵さんを囲んで	昭33法	岡見 晴児	13
岸先生を姫路に迎えて	昭38教	平岡 昭朗	13
フェスピックと身障者水泳	昭27学	石井 義章	15
昭和63年度 凌泳総会	法3	笠田 幸介	17
// 月見の宴	教4	岡崎 憲之	18
// 初泳ぎ	営4	古谷 拓裕	19
支部だより			
関東支部夏季総会	昭59法	呉竹 正人	20
関東支部忘年会	昭59法	呉竹 正人	22
京阪神地区忘年会	昭30法	佐藤 一夫	23
会員からのお便り			
凌泳総会案内状返信より			24
月見の宴案内状返信より			34
マスターズコーナー			
小山会長、世界新で2種目制覇	昭30営	田淵 五郎	46
短水路大会(神戸、大阪、東京)			48

長距離リレー大会	昭46理	岩切 博	52
ジャパンマスターズ'88	昭46理	岩切 博	52
日本ランキング短水路10傑入賞者			54
マスターズへのお誘い	事務局	石井 義章	55
現役部員寄稿			
～部員達に対して一言～「大学生だからこそ…」	主将	岡崎 憲之	56
強くなるためには	競泳主任	小笠原朝隆	57
水球への意欲	水球主任	林 均	58
マネジメントの重要性について	主 務	古谷 拓裕	58
卒部の辞	平成元年	卒部者一同	60
現役部員紹介		二回生一同	64
1988年度 活動報告			74
現役部員自己ベスト一覧表			96
歴代10傑表			98
凌泳会会則			103
凌泳会役員名簿			107
凌泳会会員名簿			109
「商神」「応援歌」			140
編集後記			146



「ソウル・オリンピックを前にして」(スポーツ対談)

(前日水連会長) 藤田 明

(昭7学) (日水連監事) 小山 賢之助

藤田—小山さんとは50年来の水泳の友達ですね。

小山—そう、昭和12年に学連が出来た時からですよ。

会長は当時の水泳界の元老であった末弘殿太郎先生で、名誉主事に藤田さん、私は名誉会計で、それ以来、現在も水連の監事、財務委員を務めていますから、50年のお付き合いということですね。

先日、39年ぶりに目録だけもっていた全米選手権において大活躍した古橋君達6名に、立派な花瓶が贈られた記事が写真入りで新聞に載りましたね。あの時の顔ぶれは、古橋、橋爪、浜口、田中、村山の5名と……1人亡くなられましたでしょう？

藤田—丸山君ですよ。

小山—先ず、これらの諸君の活躍ぶりからお願いしましょうか。

藤田—当時の古橋、橋爪両君は、ほんとに素晴らしかった。泳ぐごとに記録を更新して、我々関係者のもとより、当時の混乱と低迷の中に沈滞しきっていた日本の社会、特に青少年の士気をいかに鼓舞したか、計り知れないものがあったと思います。

戦後はじめてオリンピックが再開されたのは、昭和22年のロンドン大会でありました。しかし、それには日本と西ドイツは残念ながら出場することが許されなかったのです。ひたすらそれへの出場をめざして練習を重ねて来た当人はもとより、関係者一同は残念でならなかったのです。そこで思案の揚句、ロンドンオリンピックで水泳競技が行われる日程に合わせて明治神宮のプールで日本選手権を開くこととなったのです。

その結果は、古橋君の健闘ぶりは、400と1500mの記録において、いずれもロンドンの本舞台で米国選手の出したものを大巾に上回るもので、堂々我々の期待に応えてくれたのですね。

小山—そうですね。しかも、その翌年の24年のロスアンゼルスでの全米選手権における、先に申しした6名の諸君の活躍は素晴らしく、1位を失ったのは、確か100m自由形だけであったと思いますが。

藤田—そうです。この圧倒的な勝利をまのあたり見た米国在住の日系市民の喜びようは、たとえばありませんでしたね。しかも、このニュースがブラジル在住の日系市民に伝わると、当時、現地では日本の敗戦を信じない、所謂“勝ち組”は、勝ってるからこそ、水泳で古橋達

があんなに勝ったのだと、“負け組”との間で論負されたのです。

そこで、こうした事態を憂慮した人達は、日本チームを現地に招いたのです。その歓迎は大変なもので、これはブラジルにおける水泳熱を煽り、ブラジル日系市民のオカモトは、ヘルシンキでのオリンピックの1500mにおいて、1位の米国日系市民のコンノ、2位の橋爪に続いて3位に入賞しました。

小山—うれしいことですね。ところで、話はロスアンゼルスに戻りますが、現地に滞在した一行は同市の日系市民のフレッド・和田さんに大変なお世話になりましたね。

—昨年でしたが、当協会（日本産業退職者協会）の役員が同市を訪れた折にも和田さんにお逢いして昔話を聞いたそうです。

藤田—先日、来日された和田さんにお逢いしました。

当時、チームの一行は和田さんの家に泊り、日本食をいただき、お子さん達と遊んだアットホームな暖いもてなしは、一同をリラックスさせて、その折の勝負に充分な力を出し得たことになったと思います。立派な方ですね。

小山—和田さんは現在、同市の高齢者事業に携わっておられ、既に2回ほどその活躍ぶりは本誌にも紹介されております。

藤田—ついでに、この折の一行の渡米に際してのもう一つエピソードを申し上げます。

当時、日本は米国の占領下にあつて、海外旅行の許可はなかなかおらず、2、3ヶ月かかるのは普通でした。ところが、当時の司令官マッカーサー元帥のはからいで、この選手団の渡米には即座に旅券は交付され、関係者をホッとさせました。そのうえ、出発の前日、一行はマッカーサーの招待まで受け、その席上、同元帥より選手一同に対して、“勝って驕らず、負けて臆せず”という言葉が贈られたのです。

“In defeat, be natural and composed. If you win, be modest.”

この言葉は、極めて印象的でしたね。

—勝利の栄光は努力の結晶—

小山—話は昔に遡りますが、お互いに若かった時代の戦前のオリンピックでは、色々の場面がありましたね。

藤田—そうですね。本誌の読者の皆さんと一緒に、当時の印象に残るシーンを回想しましょうか。

昭和7年のロスでの大勝は、日本中を沸かせ、世界を驚かせた快挙でしたね。100の自由形での金が宮崎、銀は河石、1500では北村が金、牧野が銀、100の背泳では、清川、入江、河津によって金、銀、銅を独占、200の平泳ぎでは前回のアムステルダムに続いて鶴田が金、小池が銀、男子800mリレーも世界新記録で金、金を逃したのは400の自由形だけで、それ

にも大横田が銅をとったんです。

男子の6種目のうち5種目の金メダルを手にしたのは、文字通りの快挙でしたよ。

私は当時、水球の一員として観戦しましたが、次々にメインボールにあがる日章旗には、全く感激しましたね。

次いで4年後の昭和11年のベルリンは、男子の金は1500と200の平泳ぎ、それに800mリレーでした。

しかし、この大会で前畑(兵藤)さんが日本女性として初めて1位で日章旗をかかげたことは、今でも忘れられない感激です。この時のNHKの河西アナウンサーが身を乗り出して叫ぶ「前畑がんばれ」のセリフは、実況放送というより、応援放送でしたね。

小山—そう。前回のロス・オリンピックで僅か10分の1秒の差で優勝を逸して2位になった前畑さんは、この勝利にかけて4年間「10分の1秒、10分の1秒」と自分にいいかせて毎日練習を重ねた、とっていましたよ。

藤田—たしかに、努力の人ですよ。

今1人、努力家として記憶に残る人に、鶴田さんがいます。鶴田さんは僕達より年長でした。当時、多分、27か8でしたでしょう？

小山—そうでしたね。当時は、陸上でも藤田さんの仲間が頑張りましたね。

藤田—そう。中学の先輩であった織田さんはアムステルダム三段跳で金をとり、ロスでは南部さんがこのタイトルを守り、ベルリンでも田島さんが優勝して三連覇を為しとげました。棒高跳では西田さんがロスとベルリンで銀を2回にわたってもらいましたよ。しかも、この栄光を克ちとるまでの言い尽くせない努力には頭がさがりますね。

司会—ところで、その後の水泳界は低調ですが。

藤田—言い訳はしたくないんですが、先ず大きな原因は、いまの学校制度にあると思うんです。

昔は大学のインターカレッジ、旧制中学のインターミドルの選手が日本の水泳界を支えていたのです。

先の話でもお判りのように、ロスのオリンピックでのメダリストには、当時、14歳であった北村君をはじめ、100mの宮崎君、平泳の小池君は共に16歳で少年選手の活躍が目立っていました。これは外国選手にもみられるところで、東京でのオリンピックを例にとりますと、米国、オーストラリアの10代選手の活躍は特筆すべきものがあつたのに対して、日本は20代選手で、若手選手が育っていなかったのです。若手選手が育たなかったといえます。

また、日本の社会が余り豊かになりすぎたことも、その要因であると思います。スポーツにしても余り多様化して、一つに打ち込む気持ちに欠けていることも見逃せません。スポーツ

の世界にもハングリーが無くなっています。スポーツにハングリーの精神がなくなったら終わりです。スポーツは何によらず、総てが自分との闘いであると考えています。

貧欲なまでに自分との闘いに徹し、努力を重ねた者にこそ勝利の栄光は与えられるもので、結果的にたとえ、その努力は他から認められない場合でも、黙々と努力の人こそ立派なスポーツマンであると思います。環境が豊かになればなるほど個人の自分との闘いは苛烈になっていくでしょう。

—スポーツは国境を越えて—

司会—近年、オリンピックが政治に利用され、最近のソウルの大会をめぐって、ますますその傾向が見られることは、まことに残念に思います。

小山—私もそう思います。

藤田—私は、この源は第11回のベルリン大会の折にナチスが点火したスポーツ・ナショナリズムの妖火にあると思います。それは、第2次大戦によって一旦は消えたかのように見えました。モスクワでのオリンピックが、「ソビエトのアフガン進駐はけしからん。ボイコットだ」という主張がまかり通った時点で、再び燃え広がりを見るようになったのです。

小山—藤田さんは、あの時ずいぶん頑張られましたね。

藤田—ええ。今でも私は、あのボイコットは間違いであったと思ってます。オリンピックは、宗教や人種、まして政治に左右されちゃいかんですよ。

小山—同感ですね。そもそもギリシャにおける古代オリンピックは、水泳競技こそ無かったが、オリンピックの時だけは、当時、絶え間なく続けられていたシティ同志は戦いを止めて、お互いにスポーツを楽しんだ、と伝えられています。

藤田—そう、そう。

小山—2500年の昔の知恵が忘れられ、折角のスポーツの祭典といわれるオリンピックが政治に毒され、テロの恐怖におびえながら開催されるということは愚の骨頂というべきで、現代人は、2500年前に学ばなければなりません。

—高年者のマスターズ大会—

司会—高齢化時代が進むに伴い、最近が高年者によるスポーツが盛んになりつつありますね。

藤田—小山さんも私も、共に今年80歳になりましたよ。小山さんはマスターズ大会の大選手で、出れば金メダル、出れば金メダルですよ。(笑)

小山—いやあ、平泳をする人がいないんですよ。(笑)

確かに昔に比べると年輩者のスイマーは増えましたね。マスターズ水泳は、日本では10年程前から始まったのですが、米国やオーストラリアでは古く、国際マスターズ水泳協会(MSI)

が1982年に出来ました。先の話に出たロスのオリンピックの金メダリストの北村君が、日本のマスターズ水泳協会の会長です。

1985年、カナダのトロントで開かれたマスターズ国際大会には、水上をはじめ、陸上、テニス等、22種目の競技に、世界60カ国から8000人の人々が参加しました。その中で、日本からは60数名が出場し、高齢者層の日本の成績は良かったんです。特に横浜の寺尾敏夫さんは、75歳でありながら5種目全部の金メダリストとなり、話題を撒きました。私は平泳で金2個、銀1個をいただきました。

今年10月、オーストラリアのブリスベインで開かれます。

藤田一行かれるそうですね。

小山—藤田さんは？

藤田—私はJOCのメンバーですので、ソウルでのオリンピックには応援に出掛けますので、オーストラリアの方は失敬しようと思っています。

今年も頑張ってください。

—ソウルの大会について—

司会—終わりに、目前に迫ったソウル大会について一言お願いします。

藤田—韓国では、日本の動向に非常に関心を持っているようですね。日本には負けたくない、というのが本音ではないですか。オリンピックは従来21種目あるんですが、今度はそれにテニスと卓球が加わって23種目の競技が行われる予定です。

日本はサッカー、ホッケーとバスケットボールが予選で負けたので出られません。従って、20種に対して約330人ぐらいの選手団で行くのですが、米国は880人というし、ソ連もそれに近いものとなるでしょう。当事国韓国は600人で、その他カナダ、中国もそれぞれ330ないし340、日本並のデレゲーションを送るのではないのでしょうか。

そこで水泳についての予想は、メダルを1つ、決勝進出を6つぐらいとみえています。

小山—そのくらいは期待したいですね。

藤田—勿論これ以上の結果を望みますが、伝統あるオリンピックの舞台で、各選手がベストを尽くし、立派に戦ってきてほしいですよ。

司会—どうもありがとうございました。

ご成功を祈ります。

(日本産業退職者協会編集「マチュリティ」より)

田口寛治先生を悼む

(凌泳編集幹事) 石井義章

元神戸大学水泳部副部長(神戸大学名誉教授)田口寛治先生には、平成元年1月21日、肝不全のため西宮市内・兵庫医科大学病院に於て死去されました。御葬儀は、23日午後1時より、東灘区住吉本町の阿弥陀寺に於て執り行われ、凌泳会からは小生が、又水泳部からは岡崎主将と古谷主務が参列、最後のお別れをして参りました。

神戸大学教養部で頂いた資料によれば、先生は昭和21年9月、京都帝国大学文学部哲学科を御卒業、同22年3月、神戸経済大学附属経営学専門部の教官として赴任され、その後、学制改革に伴い新制神戸大学文理学部助手を経て同33年5月、文学部助教授、同44年3月、教養部助教授となられました。以後、同62年3月、停年御退官まで実に40年間、その御生涯の大部分を神戸大学に捧げられました。御退官後は神戸大学名誉教授の称号を受けられますと共に、園田学園女子大学の特任教授として引続き教壇に立っておられました。

先生の研究面に於ける御専攻は、論理学研究、ヴィットゲンシュタイン研究、哲学史研究の三つの領域に亘っておられました。

論理学研究に於ては、当時の我が国では新しい学問であった記号論理学の研究に新進の研究者として従事され、その成果を数々の論文や著書で公にされております。

ヴィットゲンシュタインの研究では、我が国に於けるパイオニア的役割を果たされました。特にヴィットゲンシュタインの「論理・哲学論稿」に関する論文「ヴィットゲンシュタインの哲学」(昭和23年)は、このテーマについての我が国最初の本格的論文として注目を集めました。

更に、ギリシャ、ヨーロッパ哲学全体に対しても、又東洋思想に対しても幅広い関心を示され、その成果である「哲学とは」(昭和53年)は、単なる哲学史の叙述にとどまるのではなく、先生の哲学観と方法論によって構想された個性ある作品となっており、現在に於ても尚多くの版を重ねております。

一方、昭和40年代半、大学紛争の嵐が吹き荒れた頃は、教養部補導委員として随分御苦労されました。そして常に学生を理解し、その気質を知ろうと、答案用紙の裏に何でも自由に書かせ、それらを基に書かれた「らくがき大学生」はじめ「現代学生気質」、「当世学生事情」等は、当今の若者を知るユニークな本として評判になりました。

又、先生はその属される人間学研究の業績に対し、昭和48年には日本民間放送連盟より民間放送連盟賞を、又同50年には兵庫県知事より兵庫県文化賞を受賞されております。

先生と水泳部との関係につきましては、水泳部長・山田幸男先生がアメリカに出張(昭和37年)

されることになったため、その代行として副部長をお願いしたと聞いております。その後もヨーロッパ出張（昭和41年）、法学部長就任（同43年）と御多忙の山田先生を助け、水泳部の為に種々御尽力頂きました。

副部長というお立場と、ひかえ目な御性格からプールサイドに姿をお見せ頂く機会は少なかったように思いますが、何度かお目にかかった印象は、その御温顔が示すように、おだやかな温いお人柄で、やさしい兄貴といった感じでした。65歳との事ですが、今日ではまだまだ御活躍頂けるお年ですのに、真に残念に存じます。

ここに先生の計をお報せし、皆様と共にその御冥福を心からお祈り致したいと存じます。先生、やすらかにお休み下さい。

合 掌

凌泳七十年史 刊行について

「凌泳七十年史」編集委員会

本誌表紙裏に掲載の通り、予て構想を練っておりました「凌泳七十年史」が、いよいよその刊行に向かって活動を開始しました。

即ち、平成元年1月8日、恒例の初泳ぎ会に参加のOBの中より、石井、橋本、堂本、佐藤、前田の5人が残り、年史発行について相談、この5人を編集準備委員として今後定期的に会合を持ち作業に取りかかる事としました。

その後1月20日、2月15日の2回、神戸KUCに集まり今後の進め方、基本方針等をまとめ、上記5人に三宅、岡田の2人を加えて編集委員会を結成した次第です。唯佐藤は4月からニューヨークへ転勤する事となり、残念ながら参加出来なくなりました。

さて発行の方針は決まったものの、何分素人集団の悲しさ、版の組み方、字の大きさ、レイアウト、費用見積等々分らね事ばかり。次回会合には外部経験者にも参加頂き、意見を聞かせて頂く事にしております。

しかし何はともあれ、原稿、写真等資料を集める事が先決問題です。下記の通り募集致しますので、奮って御応募、御協力をお願い致します。

＜お願い事項＞

- ①特別会員、旧制OBは全員に寄稿をお願いします。当時の時代背景、練習、或いは試合の様子、その他思い出の記事をお寄せ下さい。
- ②新制のOBは各年度の主将が、その年度の事を取りまとめて記事にして下さい。

③前記①②共、横書 400 字詰原稿用紙 5 枚以内を原則とします。ワープロ使用の場合は、横書 1 行 40 字として下さい。

④写真提供をお願いします。特に古い時代のものを含めて沢山欲しいのです。写真は後日お返ししますから、必ず裏面に卒年と氏名を明記願います。

⑤締め切り日 平成元年 9 月末日

⑥送り先 前田 修(昭 34 理)

〒564 吹田市円山町 30 番 4-441

電話 06-384-4752

御意見、御要望、御質問等ありましたら、遠慮なく編集委員までお申し出下さい。

「凌泳七十年史」編集委員

三宅 林(昭 21 学) 石井 義章(昭 27 学)

橋本 力(昭 30 工) 堂本 直正(昭 30 工)

前田 修(昭 34 理) 岡田 重義(昭 37 営)

記憶をたどる一助のもと、別掲年表を作りました。御参考になれば幸いです。



わたしの耶馬台国

(昭34理) 前田 修

奇しくも年号が平成に変わった1月8日(日曜日)、近年恒例の「初泳ぎ」が兵庫県立健康センタープールで行われた。二次会といっても喫茶店でのことであるが、「凌泳70年史」の編集準備委員を依頼された。私ごときはどう頑張ってもたいしたことはできないと思うが、ワードプロセッサを使ってのデータベースづくりを申し出た。出版予定は2年先の平成3年(1991)であるが、早速年表に取り組んだ。凌泳に書かれた膨大な記事を読んでいると、「青谷の池とは一体どこにあったのだろう」との疑問が湧いてくる。

白山源三郎先生の「神戸大学水泳部の成立」(凌泳昭和48年度号)が「魏人伝」、その中の「青谷温泉の下にある」の一行が頼りである。これから「青谷の池」を再発見しようというのである。神戸高商水泳部創設期の先輩からは固有名詞「青谷池」ではなくて、必ず「の」の入った形容詞で聞かされてきた。

まずは、神戸市灘区役所に電話で問い合わせた。大正から昭和の初め頃まで、青谷川一帯は田畑ばかりであったから、多数ある農業用水池の中の一つであろう。池々がいつまで存在、つまり、いつ埋め立てられたかは、「灘神戸市遍入五十周年記念誌」にも不明である。山口幸治郎翁を紹介してもらった。平成元年2月5日(日曜)訪問、85才だそうだ。

候補の池は三つある。

(1) 「桜池」-比較的大きく、土手は桜並木、ゆえに「サクラ池」と呼ばれる。春は天幕、ほんほりの花見酒、ボートを浮かべて、「西の堂谷兆(須磨寺)、東の桜池」と並び称せられる名所であったそう。青谷橋停留所のバス道を昔は「勝田道」といったが、それより東の山側、今日の「城の下通り2丁目3~4番地」一帯にあったらしい。

桜池のすぐ上に「亀池」という小池があった。その名のとおり亀がたくさんいる浅い池で、とても泳げたものではない、という。

(2) 「原田池」またの名を「原田の池」「松本の池」-青谷川と松蔭中学校・高等学校に挟まれた中程にある。昭和5年に「神戸乗馬倶楽部」が移転してきたが、池がそっくり馬場になっている。現在の番地、神戸市灘区青谷町3丁目2-28

灘区に合併以前の青谷川流域は、「武庫郡西灘村字原田」であった。現在も狭い町名「原田通」として残っているが、西灘村の頃はずっと広がった。それゆえ「原田池」または「原田の池」といわれる。池の東隣に素封家・松本寅之介氏の別荘があった。「松本の池」はそれに由来する。

(3) 前記とは別に「原田大池」と道を隔てて「原田小池」がある。一緒に「大池小池」—この池だけが平坦な地にある。昭和4～5年に埋め立てられ、現在は福住小学校と福住公園になっている。灘区福住通7丁目1番地。

池の位置を書き込んだ地図から、また山口さんのお宅に伺うまでに原田大池の周辺を歩いてもみたが、候補の三つの池の中、原田大池と小池は上筒井の水泳部員が泳いだ池ではないことがわかった。高森安夫(大14高)先輩の「上筒井のプール建設」(凌泳同号)中に、「青谷の池、それは学校から三十分か四十分位の丘のふもとにあったが、……」とあったが。山裾から離れ過ぎている。生活排水も混入したであろう。泳ぐ雰囲気の良い池ではないように思われる。

山口さんに案内してもらって、桜池のあったらしい場所を一周する。北側はひどい傾斜になっており、急な、かなり長い階段が現在も使われている。周囲も、池の底に相当する場所も住宅が建て込んでいる。それでも池の土手を思わせる盛土上の住宅の庭から一気に落ち込む様子は、いかにも池があったことを物語っている。

「原田池」これこそわれらが「青谷の池」。青谷温泉からの方角もよし、距離もよし。「溝口先輩取材記」(凌泳同号)に記された青谷の池での練習方法「先ず一ヶ所に飛込台を作り、そこから50mの所に池を横切って見通し線を作り……」ともビタリ合いそうな面積である。土手を思わせる台地、桜の木も二三本残っている。南側に堤防の石垣と排水溝の跡がある。決定的要因とはなり得ないとしても、周囲の状況も何とはなしに泳ぐには良さそうだ。

覚 書

- (1) 明治43年測図同44年製版の大日本帝国陸地測量部(国土地理院)の二万分の一の地図には、「高等商業学校」、「関西学院」がある。名前は書いてないが、桜池と亀池、原田池、原田大池小池の存在が認められる。現神戸大学の敷地には建物はなく、単なる丘である。ちなみに、東海道本線(JR)と阪神電気鉄道(阪神電車)は描いてあるが、今日の阪急電車はまだ敷設されていない。
- (2) 山口さんは神戸高商の水泳部員が「青谷の池」で泳いでいるのを実際に見たことがない、といわれる。
- (3) 「青谷の池」をこれだと決定するには、この池で泳がれた先輩を乗馬倶楽部にお連れして確認してもらい方がない。それでも今は住宅が建て込んでいるので困難ではないだろうか。
- (4) そういえば、小山賢之助会長から「青谷の池は、いま乗馬倶楽部だよ」と聞いたような気がする。

田淵さんを囲んで

(昭33法) 岡見晴児

数年振りの邂逅であっても、ビールを飲みながら、ものの5分で30年～40年のタイムトンネルを通り抜けることができる。たとえ時代は異なっても、六甲台の水で“洗礼”を受けた凌泳人にとって六甲台プールの水は、まさに魔法の水である。

石井先輩(昭27)の呼びかけで、田淵先輩(昭30)の来神を機に5月21日、KUC(神大クラブ)に榊原、佐藤、橋本(以上、昭30)の諸先輩と岡見(昭33)の6名が集まった。

凌泳諸氏の近況に、マスターズ水泳の話題に、合宿の思い出、凌泳会の運営に等々硬軟とりまぜての話題は尽きることがない。

披山女史(参院議員)の凌泳会総会に寄せられた祝電には、眼鏡をかけて読む人、外して読む人さまざまではあっても、松蔭女子水泳部の往年の美少女達を語るときの諸先輩の眼は、いきいきと輝き、まさに青春の眼そのものであった。楽しい一夜であった。

我等が六甲台の青春に乾杯!

小さな集いであっても、今後は凌泳に投稿しようではないか。今日のことはお前書け、との厳命で筆をとりました。各地でそれぞれに集まることもあると思います。投稿を期待いたします。

岸先生を姫路に迎えて

(昭38教) 平岡昭朗

昭和63年4月、岸楡夫先生が、26年間の永きに亘る天理大学の教授生活を終えられ、姫路市に新設された独協大学にご栄転になり、姫路に帰って来られました。帰って来られたと申しますのは、先生は、それ以前に神戸大学姫路分校におられましたからです。その当時、私達は大変お世話になりました。先生はプールへよくお顔を出され、時折、プールサイドの有刺鉄線の金網に干してある赤フン(当時は、水泳パンツは試合のときだけで、練習はもっぱら赤色の六尺フンドシで泳いでいました)を拝借し泳いでおられました。綺麗なフォームの平泳ぎ、特に水中の1かき1けりの伸びのよさは(先生は潜水泳法の第一人者)緑色の水中に(浄化装置がなく粉末のカルキを水に溶いて入れていましたので、プールの水の色は緑色でした)白い裸身と赤フンが映え、その印象が強烈でいまでも思い起こされます。

先生がご栄転なさることについては、1月の神大体育科11回生同窓会の席上で神吉さん(神大体育科11回生 神大教授)から聞きました。そして「歓迎会をやろうじゃないか」といわれ、それで

は凌泳会の方とも思い、神大体育科(大学関係)と凌泳会の合同では、と提案しますと、「同じ神大やし、大勢の方が先生も喜ばれるのでは」と賛同され、また、凌泳会の方も石井先輩にお電話して賛同していただきまして、5月23日、姫路駅前「サンルート姫路」で岸先生の歓迎会を行いました。出席者は、この歓迎会が突然のことでもあり、ご都合の悪い方もおられまして、下記の14名の方々でございました。(凌泳会の皆様には、姫路近くにお住まいの方々、そして岸先生お馴染みの方々にご案内を差し上げたつもりですが、ご案内がいてなかった方がおられましたらお許し下さい)。当日、独協大学へ岸先生をお迎えに高岡先輩(昭37教)とまいりました。歓迎会場へ行く途中、先生から「姫路分校へ寄っていかないか」といわれ、3人で立ち寄りました。姫路分校は今は県立姫路短期大学になっており、随分変わっております。白朮寮は跡形もなく取り壊され、正門、本館校舎、講堂等数少なくなっていますが、プールは健在でした。有刺鉄線の金網に藤棚、東側にある木小屋(私達の頃にできて、更衣室であったのが、今は浄化装置室になっている)。私達3人は懐かしく昔のことを語り合いました。それから本館西側に赴き体育教官室に行ったのですが、教官室と職員用テニスコートは取り壊されておりました。校内の木々はそのまま残っていたのでそれをたよりに先生は、教官室はこの辺で、テニスコートはこの辺で、としきりに思い出されて、時折無口になられては懐かしんでおられました。歓迎会の方は、先生にはお馴染みの方々であっても、出席者同志では初めての顔合わせのこともあり、2~3分の自己紹介を兼ねたテーブルスピーチをしてもらい、後は先生の姫路分校時代から天理大学、そして現在のお話しにと話がはずみ、時間が過ぎるのも忘れてしまい、予定時刻をオーバーしてしまいました。

岸 檜 夫 (特)	岩 田 教 (神大教授)
石 井 義 章 (昭27学)	五 島 裕次郎 (神大教授)
榑 原 修 造 (昭33営)	寺 岡 敏 郎 (兵教大教授 神大教3)
橋 本 力 (昭30工)	野 村 治 夫 (神大教授 神大教9)
山 口 仁 郎 (昭32営)	神 吉 賢 一 (神大教授 神大教11)
高 岡 保 宏 (昭37教)	敬称略
米 田 啓 祐 (昭37教)	
丸 山 昱 也 (昭40工)	
平 岡 昭 朗 (昭38教)	

フェスピックと身体障害者水泳

(昭27学) 石井義章

最近、神戸市内のあちこちで五色のシンボルマークと共に「フェスピックを成功させよう」という垂幕、或はポスターが目につくことと思います。FESPICとは、The FAR EAST and SOUTH PACIFIC GAMES for the DISABLED の略で、その第5回大会が来年(平成元年)9月神戸市で開かれるのです。この種の競技としてはパラリンピックがありますが、その極東、南太平洋版として昭和50年大分市での第1回を皮切りにオーストラリア、香港、インドネシアを経て来年の神戸大会で第5回となる訳です。

神戸市はスポーツイベント都市を宣言し、昭和60年のユニバーシアードを始め各種の競技会を積極的に誘致していますが、身体障害者の国際大会は初体験です。水泳部門を担当する兵庫県水泳連盟としても同じ事とその準備の一環として、本年9月10日、11日、東京で開催された第5回日本身体障害者水泳選手権大会を視察し、運営のノウハウを見てくるようにと、私他2名が派遣されました。

会場は、東京都北区十条台にある東京都障害者総合スポーツセンター内のプールです。先ずその施設の広大な事と立派さに驚き、当然ながら総て身体障害者の為に親切に作られているのに感心しました。それに引き換え神戸のボーアイプールは、一般プールとしては立派ですが、身体障害者の為には不都合な点の多いことに気が付きました。

次に感心したのは、出場の選手が皆一様に明るく朗らかなことです。それぞれ厳しいハンディーを背負いながら、屈託なく強く逞しく生きようとする態度です。

三重県から来た全盲の青年はこう語ってくれました。

「自分は20歳の時に事故で両眼の視力を失いました。今はマッサージ師で生計を立てていますがなんの不自由も感じません。健常者のやることは何でもやります。只、妻の顔を見たことが無いのです。熱烈な恋愛の末結婚したのですが、それだけが唯一の心残りです。」

そばで健康そうで美しい奥さんが、控えめにほほ笑みながら聞いていました。

別れ際に彼はこう言いました。

「皆さんも気を付けて下さい。健常者は全員障害予備軍なのですから」

彼はこの日、50米平泳ぎ(視力0)に出場して見事1位となりました。

両足のきかない人は腕だけで100米を泳ぎきりました。私も練習のため手だけで泳ぐこともありますが、股にビート板を挟んだりして浮きを取ります。しかし彼らは何も付けず、きかない足をひきずって腕だけで泳ぐのです。

手先の無い人、片腕の無い人、片足の無い人、皆懸命に泳ぎます。脳性麻痺で肢体不自由な人は浮き具を腰に縛り付けて泳ぎました。障害区分は45種にも別れ、それぞれの区分の中で技を競うのです。

一方、競技役員も大変です。車椅子でスタート台まで来ても降りられない人は、二人がかりで水の中へ抱え降ろさねばなりません。視力0の人が泳ぐときは、ターンやゴールの時、壁に激突しないようビート板等の緩衝物を当てがわねばなりません。

プール両サイドには日赤の公認救助員が水着着用、何時でも飛び込める態勢で待機しています。これも大変な苦痛だと思います。何時起こるか分からない事故のために、常に緊張して立っていないわけにはいかないのです。両下肢完全障害の選手が背泳ぎに出ました。ビートが全くきかないのですから身体が浮きません。顔が水面に出たり沈んだり、まるで溺れているようです。救助の要否の判断がむづかしいと思いました。

一方、健常者顔負けの素晴らしい泳ぎをする選手もいます。ターンも見事なクイックターンです。この種の選手は聴力言語障害者です。彼らは手足には何の障害も無いのですから、スタートの合図さえ発光で確認出来れば、後は健常者と変わりなく泳げる訳です。事実、男子100米自由形の大会記録は59.2、女子50米背泳ぎのそれは36.0、と立派なものです。

最後に思いがけない出来事をお話します。

あちこち見て回っている時に、一人の青年が親しげに声をかけてきました。私は一瞬「誰かと人違いしてるな」と思い、そう言おうとした時

「凌泳会の呉竹です」

と名乗られ声を飲みました。何分、彼が学生時代に顔を合わせたきり5年ほど会ってないので、すっかり顔を忘れていたのです。それにしても、どうして彼がこんな所に現れたのか不思議に思い尋ねたところ

「私も身体障害者です。今日の競技にも出場します」

とのこと。そう言われてやっと数年前耳の不自由な部員がいたことを思い出しました。

「石井さんこそ、どうしてここに……？」

今度は彼の方が訝しげに尋ねました。事の経緯を説明し、丁度昼時だったので食堂でテーブルを囲みながら身障者水泳の事など色々聞かせて貰いました。

彼は生まれつきの難聴で、補聴器が無ければ殆ど聞こえないそうです。それが聾啞者にもならず今日健常者と変わらず会話することが出来るのは、そのことに気付かれたお母様が、声楽に造詣が深かった事もあり、3歳の頃から発声、発音の特訓をされたとの事、今日の自分が在るのはそのお陰です、と感謝を込めて語ってくれました。

彼はその後、男子背泳ぎの50米と100米に出場、聴力言語障害の部で何れも優勝、殊に50米では大会記録を更新したことを付記しておきます。

2回に亘る視察の間、数々の感動的な場面に出会いました。聾啞の青年は、自分の勝利を知ると両腕を突きあげ、声にならない雄叫びを発して全身でその喜びを表現しました。又、介助者に手を引かれて表彰台上がった少女は、メダルを首に掛けて貰いながら閉じた目から溢れる涙を拭こうともしませんでした。そのタイムは如何に遅くても、彼女にしてみれば限りない努力の結果得た栄誉であり、その涙はオリンピックの表彰台で流すそれと何等変わるものではないと思いました。そして、水泳が障害を持つ多くの人々に交流と親睦の場を提供するのみでなく、彼らに生きる喜びと自信を与えている事をひしひしと感じました。

昭和63年度 凌泳会総会

昭和63年度凌泳会総会は、昭和63年5月15日に、六甲台教官食堂に於きまして開かれました。出席者は以下の通りです。

大 童 一 男(特)	小 山 賢之助(昭7学)	三 宅 林(昭21学)
石 井 義 章(昭22学)	佐 藤 一 夫(昭30)	橋 本 力(昭30)
富 岡 道 雄(昭31)	丸 山 昱 也(昭40)	金 一 波(昭59)
田 伏 正 佳(昭58)	森 田 武 士(平 元)	(敬称略)

他 現役部員一同

小山会長の挨拶、御出席されたOBの自己紹介の後、議事が行われました。内容は以下の通りです。

I 凌 泳 会

イ、62年度経過報告

ロ、62年度会計決算報告

ハ、63年度行事予定

ニ、63年度予算案

・会費6000円を8000円にすることを可決。

ホ、凌泳会役員改正 承認

・幹 事 長 佐 藤 一 夫 氏 (昭 30 法)

・関東支部幹事 佐 敷 定 雄 氏 (昭 49 農)

呉 竹 正 人 氏 (昭59法)

浦 野 敏 明 氏 (昭60営)

・幹 事 井 上 与 志 男 氏 (昭47法) 東京転勤のため空席

II 水 泳 部

イ. 62年度活動報告、63年度活動予定報告

ロ. 62年度会計決算報告、63年度予算案

ハ. 現役部員自己紹介

尚、議事の中で凌泳会年史の作成について議論された。水泳部の創立の時期について、体育会に承認された大正10年とする説と、最古の対抗戦が行われた大正9年とする説があげられたが、平成3年を目処に「70年史」を作成することが決まった。

(笠田 記)

月 見 の 宴

昭和63年9月18日(日曜日)、若い世代から大先輩まで、合計25名のOB・OGの方々が御出席され、現役部員を混じえて盛大に会は開かれた。

まずは恒例の“OB vs 現役の水球大会”から始まり、戦績報告、幹部紹介などを経て、月見の宴へと移行した。

酒の席では、OB・OGと現役部員が入り混じり、各々が思い出話や水泳談義に花を咲かせていた。

宴も終わりに近づくと、なぜか出席者はずぶ濡れ。みんな濡れねずみになっての“商神斉唱”で宴は幕を閉じた、

今回、御多忙の中出席くださったOB・OG諸兄には心から御礼申し上げます。今後ともOB・OGと現役部員との親睦を深めるためにも、大勢の方々がお集まりくださるよう宜しくお願い申し上げます。

(岡崎 記)

出 席 者

吉 野 栄(昭15)	石 井 義 章(昭27)	田 淵 五 郎(昭30)
佐 藤 一 夫(昭30)	吉 岡 宏 之(昭59)	金 一 波(昭59)
藤 本 栄 美(昭59)	吉 田 不 二 彦(昭60)	坂 東 美 枝(昭60)
木 村 典 子(昭61)	中 川 善 雄(昭62)	日 比 勝 己(昭62)
三 好 岳(昭62)	島 崎 昌 彦(昭62)	田 中 真 司(昭62)

三 住 千 里(昭62)	德 永 守(昭63)	吉 岡 成 人(昭63)
木 下 謙 臣(昭63)	近 藤 直 明(昭63)	安 井 啓 史(昭63)
加 地 恵(昭63)	甲 野 賢(平元)	郡 幸 雄(平元)
森 田 武(平元)		

初 泳 ぎ

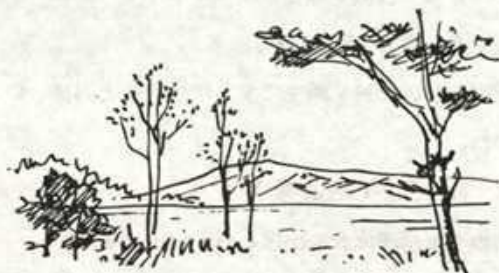
初泳ぎは兵庫県立健康センターにおいて、1月8日(日)に15名のOBの方々と現役部員の出席で行われました。当日は奇しくも平成元年の最初の日であり、まさに“初泳ぎ”となったわけです。

水の感触を1時間半ほど楽しんで後に、場所を会議室に移して会合を開きました。現役部員は、新しい時代へ向けての決意をあらたにしたのでした。

(古谷 記)

出 席 者

本 間 孝之助(昭10)	石 井 義 章(昭27)	佐 藤 一 夫(昭30)
前 田 修(昭34)	田 中 俊 哉(昭58)	杉 野 哲(昭58)
山 野 和 則(昭59)	吉 田 不 二 彦(昭60)	南 谷 昌 宏(昭60)
島 崎 昌 彦(昭62)	中 川 善 雄(昭62)	林 磨 智 子(昭62)
加 地 恵(昭63)	甲 野 賢(平元)	郡 幸 雄(平元)



[支部だより]

東京支部夏季大会

(昭59法) 呉竹正人

昭和63年7月22日、午後6時より東京凌泳会夏期総会を、新人歓迎、並びにジャパン・マスターズ'88祝勝会として東京凌霜クラブに於て開催致しました。

幹事となって初めての総会で心配しましたが、別記の通り29名の出席を得て予想以上の盛会となりました。遍に山口支部長、田淵先輩、前幹事諸兄、佐敷先輩等が精力的に活動して下さいのおかげと感謝しております。

小山会長の先日のマスターズ50m平泳ぎにおける金メダルの御披露から始まり、とても賑やかな3時間でした。初めて参加してくれた太田久美子さんの紅一点、そして新人、安井君も元気にあいさつしてくれました。

近藤君は9時15分頃にかけてくれ、彼を待った後藤信人先輩、浦野君、太田さん、安井君、私の6名で夜の街にくり出しました。

以下、当夜の寄書です。

草野嘉一 (昭7学)

昭和13年に豪州建国150年祭を見ましたが、50年後の今年、同国の200年祭を見てきました。

Australiaは水泳の天国です。

山口宗樹 (昭16学)

幹事諸氏の御努力により、31名の集会となり大盛會に感激しています。東京に会員が集まって来ていますので、大いに気勢を上げましょう。マスターズで頭張り、夜はクラブに集い、凌泳マスの発展万々オ!!

平井洋 (昭16学)

古稀もはや古稀にあらざり今年米 洋城

関山道雄 (昭28経)

新制1回、予科9回生です。学生時代と同様、のんびりと暮らしています。またお会いしたいですね。

小原祥男 (昭29営)

初めて東京凌泳会に出席しHappyです。

田淵五郎 (昭30営)

短水路、長水路のマスターズ、やっと終了。あと習志野市民大会、千葉県民大会、序でにオーストラリア(世界マスターズ)を残しております。

村田 邦夫 (昭30法)

私と同姓同名の後輩がいますが、お間違えのないように。広島県三原市から33年振りにお仕事に出て来ました。マスターズのお話を聞き、夢よもう一度と考えております。よろしく。

榊原 修造 (昭33営)

7月1日付で神戸より東京へ転勤となりました。宜しく。

石本 茂樹 (昭33経)

現役時代は、フリー、バタ、平、なんでもやっていましたが、記録は皆様がびっくりする程〇〇でした。宜しく。

鈴木 剛広 (昭38営)

横須賀は馬堀海岸在住です。夏の土日は、海水浴を楽しんでいます。つり、海水浴のお好きな方はお立寄り下さい。

丸山 卓也 (昭38工)

昨今はプールより遠ざかっていますが、8月、1カ月だけは夕方プールで泳いでいます。現役時代はプレストとボロでした。宜しく。

荒井 康之 (昭38営)

皆さんお元気で嬉しい限りです。いつまでもこの会が続くよう努力します。

武政 英幸 (昭39営)

今年は6月までにプールに45日入りました。マスターズにも参加しています。

鈴木 正弥 (昭39経)

今日は賑やかなパーティーで、なつかしい水泳部生活の思い出に浸っております。

前田 和秀 (昭40法)

昨年、凌泳会総会で20数年ぶりで泳ぐ決心をしました。昨年秋口の神戸大会、本年6月の東京短水路大会、7月の代々木大会と参加しました。6月の短水路大会では、生まれて初めて水泳大会でメダル(銀1銅2)をもらいました。今後も続けるつもりです。

山口 幸郎 (昭41工)

昭和41年、本年は私だけでした。来年は多勢さそってきますのでよろしく。

河部 洋三 (昭42工)

理想のバタフライを追求して20年+α。年齢との競争に勝利を得ながら(?)なんとかマスターズ大会に出ています。

佐 敷 定 雄 (昭49農)

凌泳会マスターズ幹事に任命され、古い先輩、若い先輩、そうでない先輩を求め、人員確保に励んでおります。「第5コース、凌泳会〇〇君」という場内アナウンスを聞くのも、ちょっと誇らしげな気分になります。水泳も仕事も頑張ってます。

北 川 敏 行 (昭52法)

61年度に来京して以来、初めて参加いたしました。今後ともぜひ参加したいと思います。

後 藤 信 人 (昭54営)

マスターズで目標は、死ぬまでにメダルを100個。今回の長水路で31個目。今32才。80才まで泳ぐとして、1年に1.5個頂ければ、軽く達成か? 乞う御期待。

呉 竹 正 人 (昭59法)

3日後のN.Z.ski でうわの空です。今日の大盛会、嬉しい限りです。

浦 野 敏 明 (昭60営)

会社の水泳部でも頑張っています。来年はマスターズで、どんなメダルでもよいですから獲得したいと思います。

太 田 久美子 (昭61文)

初参加させていただきました。“帝劇ビル”なんていう文字はどこにもありません。田舎ものの私は1時間も迷い歩きました。

安 井 啓 史 (昭63経II)

遅れて申しわけありませんでした。YHP水泳部で頑張っていこうと思います。それではまたの再会を!

(この他の御出席者)

小 山 会 長(昭7学) 井 川 俊 夫(昭20学) 中 崎 日出夫(昭24学)

井 上 与志男(昭47法) 近 藤 直 明(昭63営)

凌泳会関東支部忘年会報告

(昭59法) 呉 竹 正 人

12月5日(月)、東京凌霜クラブにて東京支部忘年会が行われました。10月にオーストラリアで開催されました世界マスターズ選手権における、小山会長の2種目世界新と、田淵先輩の入賞のお祝いを兼ねました当会は、総勢21名と賑やかになりました。神戸より御参加頂きました石井先輩か

らは、身体障害者水泳についてお話があり、また各御参会者のお話も、いつものように若年組の数倍、水泳への熱意あふれるものでした。

出席者

小山賢之助(昭7)	草野嘉一(昭7)	平井洋(昭16)
石井義章(昭27)	小原祥男(昭29)	田淵五郎(昭30)
石本茂樹(昭33)	細田忠雄(昭33)	井上隆史(昭37)
林荘八郎(昭38)	武政英幸(昭39)	鈴木正弥(昭39)
宮部高博(昭42)	阿部洋三(昭42)	岩切博(昭46)
後藤芳光(昭57)	松野圭悟(昭59)	呉竹正人(昭59)
浦野敏明(昭60)	安井啓史(昭63)	吉岡成人(昭63)

京阪神地区忘年会

(昭30法) 佐藤一夫

12月9日(金)、大阪梅田のニューミュンヘン本店を借り切りまして豪華にやりました。集いましたるは13名。古賀さんのお挨拶、石井さんの乾杯の音頭で始まり、料理は食べ放題、アルコール性飲料も飲み放題、一同楽しく談笑し、時間の過ぎるのを忘れたことでした。

杉野馨さんが坂井美奈さんと11月末結婚され、ハワイ旅行から帰国し、空港からその足で参加してくれました事に一同感激し、席は一層盛り上がりました。ささやかなお祝いの品を一同でお贈りした次第です。

[中年のオジサン胸中に思うらしく、ムムムムムム！ オレが現役の頃は、学内に女性は皆無。強いてさがせば、学生課にハイミスがおったナァ、オレも20年遅く生まれておればナァ！！！！] ながナァ！！！！ でありましょうか。

来年はこのお二人に世話人になっていただき、若い感性で企画していただくことと決まり、楽しく幕引きとは相成りました。

出席者

古賀克己(昭11)	石井義章(昭27)	佐藤一夫(昭30)
堂本直正(昭30)	橋本力(昭30)	松田司朗(昭32)
宋川泰介(昭34)	岡田重義(昭37)	藤岡治男(昭38)
杉野馨(昭58)	山野和則(昭59)	坂井美奈(松蔭女短大)
北村和子(白鷺酒造勤務)	坂井美奈さんの友人	特別ゲスト)

会員からのお便り

凌泳総会案内状返信より



岸 檀 夫 (特)

総会のご案内、有難度うございました。15日は先約があり欠席致します。ご盛会と現役諸君のご健闘を祈ります。なお私こと、3月末で天理大学を退職し、4月から姫路独協大学に勤めています。今後もよろしく。

植 木 實 就 (昭6高)

青春重ねて来らず。思い切り頑張ってください。御案内いただきながらいつも欠席申訳なし。御盛会と皆様の御健康を御祈り致します。

三 吉 吉 郎 (昭6高)

体調良好。今年もマスターズ陸上には参加の予定ですが(投擲)、水上の方は目下の処不参加。御迎えが未だ来ない様です。

宮 本 伯 夫 (昭9学)

今年も老令と遠距離の為欠席致します。残念ですが致し方ありません。傘寿も近くなりましたので……。

現役部員の皆様へ

僅か年月の学生生活です。よく練習し、且、青春をよくエンジョイして悔のない生活を送ってください。

池 谷 俊 一 (昭10学)

健康第一に大いに頑張ってください。

糸 川 義 男 (昭10学)

健康を害し外出もままならず、欠席致します。

小 池 三 郎 (昭11学)

ご無沙汰いたしております。相変わらず健康に過ごしております。特に足がおとらぬよう附近の散歩など、この頃は朝早くからやっております。ご盛会を祈る。

太 田 正 之 (昭13学)

相変わらず元気でいます。今年卒業50周年となります。健康のために水泳だけはやって

います。

大内 義 仁 (昭14学)

総会当日に当地で開催される行事に出席予約ずみのため欠席致します。盛會を祈ります。
本年は郷土チームのカーブがすこぶる出足好調にて、家内共々大いに声援しております。
六甲時代のファイト再びよみがえる、といったところです。

大西 眞 博 (昭15学)

新緑の六甲山を仰ぎ、南風を受けるちぬの海を想い浮かべる丈で青春の楽しさ、よき時代
を生きたと感謝しています。年令七十二才になり体力はありませんが、大事に大事に使っ
ています。時々温水プールで泳いでいます。三五〇m位で上がります。現役の諸兄、頑張
って下さい。

うすがすむ 大空に立つ富士の山

大きく白く 雲をかすける

中村 市 治 (昭15学)

皆様の御多幸を祈ります。

山口 宗 樹 (昭16学)

当日、東京で別の会合がありますので本年は欠席させていただきます。昨年の年末で全ての仕
事を退かせて頂きましたが、身体は元気なので、いろいろのグループから遊びやら会合の
誘いがあり、楽しく忙しく毎日を過ごして居ります。現役諸兄の御健康を祈念します。

平 井 洋 (昭16学)

この6月末で池山汽船を辞めます。人生は成りゆきまかせ七変化。

森 芳 夫 (昭16学)

来年は出席したいと思います。皆様によろしく。

前 田 寿 (昭16学)

変わらずの生活で元気しております。孫娘(小二)の泳ぎが筋が良く、楽しみにしています。

岡 本 忠 男 (昭17学)

5月15日は行事が多くて、残念ながら欠席させていただきます。土曜日の方が出席しやす
いと思っています。総会の御盛會お祈りします。本年度の予定表があれば御一報下さい。

尾 上 信 三 (昭17学)

近くに居りながら出席出来ず、失礼ばかり致して居ります。皆様の本年の一層のご活躍、
水球の飛躍を期待致して居ります。ご健康たらん事を。

富 中 暁 (昭18学)

相かわらずヘルスクラブで「学生時代より沢山」泳いでいます。小山会長殿以下マスターズ登録の諸兄に比べ、若い時の鍛練がそれ程不十分ですので、健康のため「記録」を考えない泳ぎを続けている次第です。皆様の御健康を祈り上げます。

山 川 初 雄 (昭16学)

前略、来るべき三商大戦に備え、悔いなき練習を積まれ、競泳やボロ戦で完勝されんことを希望します。

荻 野 茂 希 (昭18学)

また水泳シーズンの到来です。六甲台で泳いだのは45年前、今は懐かしい思い出です。当時バタフライが米国から伝わり、平泳ぎの種目の中に採り入れられ、また、バタフライで完泳する人はなく、ここぞと思う時に体力のある人がスタート直後又はゴール寸前に、この伝家の宝刀に切りかえた時代でした。みんな元気で頑張ってください。

井 上 清 (昭19学)

勝手続きで済みません。御盛會を祈ります。

稲 垣 信 夫 (昭20学)

皆さんお元気で何よりと存じます。時々家の近くのスポーツセンターSegalへ行って、運動したり泳いだりしていますが、マスターズまでは程遠い道のりです。

山 内 利 夫 (昭20学)

一昨年夏以来、常在の顧問(兼)インド総支配人として毎四半期に3週間づつ訪印。1年の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ はインド各地やネパール、ブータン等を巡回しています。役員当時のようなストレスも無く、元気に日印間を往復しています。

岡 庄一郎 (昭23学)

当日、会社行事で阪神を離れますので、残念乍ら欠席します。本年のご活躍をお祈り申し上げます。

小 西 信 次 (昭23学)

何とか出席をと思いましたが、相手のある行事が入ってしまて居りまして欠席します。本当に残念ですが、先輩はじめ皆様に何卒よろしくお伝え下さい。

中 井 三 郎 (昭27学)

現在、仕事がいそがしくて泳ぐ機会が少なく運動不足になっておりますが、暇が出来たら極力泳ぎに行き、来年のマスターには出場しようと思っております。

今 井 政 一 (昭24専)

戦後食糧難の時代、松蔭女学校のプールを借りて泳いでいた皆様、お会いしたいですね。

暮々も宜敷く。総々に充ち足りた現役の皆様、大いに頑張ってください。

田 淵 五 郎 (昭30営)

5月15日にはマスターズ短水路大会(東京・江戸川会場)に出場します。

堂 本 直 正 (昭30工)

15日は会社の行事があり、欠席とさせていただきます。総会と、あとの懇親会の盛会を祈ります。今年末の大阪での忘年会は、また富岡さんと小生にてお世話させていただきます。

富 岡 道 雄 (昭31営)

石井さんへ

佐藤さんに幹事長のお願いをし、短期間(1年位)で、という条件付で諒承していただいております。

松 田 四 郎 (昭32法)

5月8日、大阪マスターズに出場、200mフリー3¹11¹にて銅、200mフリーリレーにて金。小生34¹2¹でした。

岡 見 晴 児 (昭33法)

海外出張の予定あり、残念乍ら出席できません。昨年秋よりYMCAで水泳を再開しました。練習不足ですが、徐々にペースを上げるつもりです。ご出席の皆様によろしくお伝え下さい。

栄 川 泰 介 (昭34経)

本日も5/22迄北米に出張し留守をします。勝手乍ら欠席します。

岡 村 司 (昭34営)

仕事の都合上返事が遅れ、真に申し訳ございません。よろしくお願い致します。

上 村 久 治 (昭35経)

去る3月より勤務先の住所が下記の通り変わりました。当地は大正時代から当社の倉庫があったところですが、いわゆる「大川端再開発事業」の第一号として、約4万坪のオフィスビルに生まれ変わり、移転しました。

〒104 東京都中央区新川2-27-1 東京住友ツインビル東館23階 03-297-2520

野 田 浩 志 (昭36営)

残念乍ら日程が競合し出席できません。今年の御活躍を期待しております。週1~2回のプール通いは実行しておりますが、今年より営業に転じ、ヨーロッパへ3週間ばかり出張しますと元のモクアミ。また一から出直しです。

柳 本 正 雄 (昭37営)

欠席で誠に申し訳ございません。皆様の御活躍を祈念しております。

岡田 重 義 (昭37 営)

昨年5月、突然福岡への転任を申し渡され、アタフタと当地へ参りましたが、今般、再度大阪への転任を申し渡され、6月末までには大阪へ移る予定です。盛会を念じます。

高岡 保 宏 (昭37 教)

勤務先かわりました。〒670 姫路市田寺750 姫路市立安宅中学校 0792-93-2761
当日は姫路市室内選手権大会をもっています。残念ですが参加できません。皆様によろしくお伝え下さい。

萩原 武 (昭37 工)

拝復 せっかく御案内をいただきながら欠席ばかりで申し訳ありません。このところ現役諸君の御活躍もさることながら、先輩諸兄のマスターズ大会での御活躍には目を見張るばかりです。すっかり落ち込んでしまっている自分が恥ずかしく思えますが、せめてお会いした時に相づちぐらいは打てる様に、これからプールに漬ってみようかと思っております。盛会を祈ります。

井上 隆 史 (昭37 営)

皆様もご健勝のことと思います。当日(5/15)は残念ながら当地で所用がありますので欠席させていただきます。凌泳会のメンバーで世界マスターズに参加の方のご健闘をお祈りしております。

竹元 忠 彬 (昭37 営)

残念乍ら出席出来ません。小生、最近、水の方とはご無沙汰で、専らテニスに凝っております。シーズンたけなわとなって来ました。現役の皆様のご活躍をお祈りします。

米田 哲 祐 (昭37 教)

御案内をいただきながら欠席ばかりで申し訳ありません。現在は兵庫県教育委員会但島教育事務所に勤務していて、しばらくは時間的に余裕がありそうにありません。しかし、マスターズの永年選手登録をしていて、石井さんよりたびたび連絡をいただき、泳ぎたいとも思っています。

平岡 昭 朗 (昭38 教)

当日、中西橋ジュニア水泳大会があり、欠席させていただきます。参加の皆様方によろしくお伝え下さい。

藤岡 治 男 (昭38 教)

凌泳会総会公務のため欠席します。小生の仕事は、世の中の人々が休みの日に忙しい、と

全く通常では考えられない日々を過ごしております。皆様によろしく。

林 荘 八 郎 （ 昭 38 経 ）

東京凌泳会へは精週して出席しています。御盛會を祈ります。

鈴 木 正 弥 （ 昭 39 経 ）

N.Yから帰国して早1年余、東京凌泳会には2、3度出席させて頂いておりますが、神戸での総会には欠席致します。御出席のOBの皆様によろしく。最近N.Yで覚えた釣りに月2~3回、東京湾、相模湾に赴きenjoyしています。毎月、魚の種類が変化していくので、面白さは尽きぬ、といったところです。

堤 荘 祐 （ 昭 39 教 ）

昨年から神戸市総合児童センター（こべっこランド）で勤務しております。従来通り児童相談所も兼務しており、毎日走り回っています。その上、勤務日が土日出勤となり、感覚的に生活のリズムがつかめない状況です。

手 嶋 忠 之 （ 昭 41 理 ）

本年も欠席させて頂きます。日本マスターズ短水路大会は、体の調子が今ひとつ良くなかったので、今年は参加をやめました。長水路大会には出たいと思っております。

中 畑 勝 明 （ 昭 41 営 ）

いよいよ水泳シーズンの開幕も間近となりました。現役諸君の活躍を期待しています。小生、肥満防止と健康維持のため近所のプールで2~3回/月、水泳を楽しんでおります。

宮 部 高 博 （ 昭 42 文 ）

御通知有難うございます。遠方のこととて欠席させて頂かれます。久しく六甲台のプールへ行っていないので、どうなっているか気になります。皆様によろしくお伝え下さい。

阿 部 洋 三 （ 昭 42 工 ）

理想のバタフライを目指して、相も変わらず週2~3回のペースで泳いでいます。いまだに泳法上の新しい発見があるというのが驚きです。現役諸君、今年もがんばって下さい。

玉 置 明 （ 昭 45 経 ）

当地に赴任後8年目に入っており、もうそろそろ転動も近いのでは、と思っています。現役の皆様、今年も頑張ってください。凌泳会幹事の皆様、お手伝い出来ず申し訳ございませんが、よろしくお願い致します。

井 上 与 志 男 （ 昭 47 法 ）

4月1日付で東京本社へ転動になり、今流行の単身赴任で、久し振りの独身生活を経験しています。自由と孤独を味わい、半月に一度、家族の喧騒と暖かさに触れ、早くも皆を東

京へ呼ぶことばかり考えています。凌泳会のお手伝い出来なくて申し訳ありません。

以 西 吉 一 (昭48工)

多忙にて温水プールへ行くひまもございません。今年も良い成績を上げられんことを。皆様によろしく。

小 林 育 夫 (昭46工)

当日は欠席させていただきますが、よろしくお願い致します。

佐 敷 定 雄 (昭49農)

当日、東京にて日本マスターズ水泳短水路大会が江戸川区のプールにて行われます。凌泳会という名で出ています。噂の先輩、幻の先輩、気になる後輩などでリレー種目にも出場の予定です。ちょっとしたキッカケを利用して「集まり」「泳ぎ」そして「語り」「あばれる」ことを主目的にOBも頑張っております。常勝神大水泳部の活躍を楽しみに見守っております。御出席の皆様によろしくお伝え下さい。

長 谷 川 健 (昭49経)

小生、4月の異動で福岡は天神町支店勤務となりました。従って遠方の為、総会出席出来ません。当日御出席の諸先輩方に宜しくお伝え下さい。

平 石 康 (昭52教)

シーズンに入り、また何か始めたくなる季節です。昨年は、じ病でマスターズに出場できず残念でした。トライアスロンの方も無理せず、ぼちぼちやっていきたいと思います。やる気はあるけど体が……の世代ですが、現役部員は、やる気さえあれば、とことん体を燃焼し尽くして下さい。神大の健闘を祈る!

平 野 輝 雄 (昭53教)

最近ぜんぜん出席できませんが、現役諸君の活躍ぶり、とてもうれしく思います。これからはがんばって下さい。OBの方々にもよろしくお伝え下さい。

後 藤 信 人 (昭54営)

総会当日はマスターズ大会出場の為、本年も欠席させていただきますが盛会をお祈り致します。小生が所属しているスポーツクラブの中に水泳同好会が発足し、その理事に任命されてしまった為、なかなか凌泳会員としてマスターズ登録できぬことお許し下さい。

館 谷 彰 司 (昭55工)

昨年の神大の戦績を思い出せません。もしかして会費不払いの刑に処せられたのでは?
4月に送金しましたので、何卒凌泳会報をお送り下さい。盛会をお祈りしております。

大 林 良 和 (昭55医)

昭和63年4月より市立小野市民病院に勤務しております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

竹内啓子（昭56農）

委任状は「凌泳会総会に於ける議決に従います。」というような形式にはできないでしょうか？ どなたに委任すればよいのかわかりませんから。

白子靖則（昭57営）

欠席ばかりで申し訳ございません。今シーズンもご活躍下さい。

国本温代（昭58教）

先シーズン大阪6位どまりでインターハイに出場できませんでしたが、今年は100 Ba 1'06 男子、100 Br 1'15 の女子が入部してきたので、なんとかインターハイに出場したいと思っています。今年の会場は神戸ポートアイランドプールなので、現役の諸君とお会いできるのも楽しみにしています。
(東百舌鳥高校水泳部より)

金一波（昭59経Ⅱ）

本年7月16日、大阪府松原市にて念願のスポーツクラブを運営します。もちろん水泳（スイミングスクール）中心の総合フィットネスクラブです。お近くの方は、ぜひ入会して下さい。特別割引で入会して頂きます。

杉野誓（昭58工）

当日は私用のため欠席させていただきます。出席の皆様によりしくお伝え下さい。

太田雅彦（昭56工）

今年こそ関ボロ、優勝して下さい。

呉竹正人（昭59法）

昨冬は思う存分滑り、心身ともに好調です。

山野和則（昭59農）

マスターズ大阪大会で200 m平泳がは自己ベストタイムで優勝、神戸大会も100 m平泳がはV2、200 m自由形は2位でした。フィアンセが応援してくれるとがんばれるようです。

土井健治（昭60経）

本年も一層のご活躍を期待しております。

浦野敏明（昭60営）

5月15日は、あいにくマスターズ東京地区大会にぶつかり、又、距離の問題もあり出席できません。実業団でお会いしましょう。尚、引越しましたので住所が変わっています。

越智順子（昭60教）

泳ぐことからすっかり遠ざかってしまい、水泳部に籍をおかせていただいていた頃のこととも夢のような思いです。現役部員の皆様の御健闘を祈ります。

坂田 純孝 (昭60法)

一身上の都合で出席できず残念です。今年は競泳に水球に好成績をあげることが期待します。又、試合に応援に行きます。がんばって下さい。

小島 みか (昭61工)

華やいだ生活と地味な仕事を両手にかけて元気にしています。社会生活にも余裕が出てきたので、趣味や旅行など充実させた時間を送りたいと考えている今日このごろです。

太田 久美子 (昭61文)

5/3に鈴木先輩の結婚披露二次パーティーへ出席させていただき、久しぶりに諸先輩方と飲み交わり、しみじみと神戸の思い出にひたり、なつかしく思いました。ほんとうにあのころは楽しかったな〜と。そして、ずい分と年月が経ってしまったんだな〜と……。けれども年ばかりとって、中身はぜんぜんあのころと何ら成長した跡のない自分が、つくづくイヤになって横浜へもどってきたのです

三好 岳 (昭62法)

毎日殺人的忙しさですが、元気でやっています。現役の皆さん、元気ですか？ 今年も試合をできるだけ見に行きます。がんばって下さい。

中川 善雄 (昭62工)

欠席させていただきます。今の会社に配属されて半年になりますが、米田先輩がおられたので何となく心強く感じています。最近、水泳はほとんどしておらず、もっぱらエアロで汗をかいています。現役のみなさん、今年もがんばって下さい。またコンバでお会いしましょう。

林 藤智子 (昭62教)

養護学校教師としてスタートを切ってはや1ヶ月、まだまだ新しい仕事には慣れませんが忙しいながらも楽しい毎日をすごしています。いちおう夏休み(短かいけど)があるので今年こそは応援に行きたいなーと思っています。現役部員の皆さん、その時はよろしく。

吉岡 成人 (昭63工)

今年の新人もかなりの有望株ぞろいだとか。関ボロ、関国、全国etc……。がんばって下さい。 P.S. 守沖、あと少し がんばれよ。

加地 恵 (昭63法)

元気です。女子部員の倍増、頼もしい限りです。男女共、今シーズンの御活躍を期待して

います。また遊びに来て下さい。

近藤直明（昭63営）

希望通り東京勤務となったものの、首都圏のセメント、生コンの営業という、国際性とは程遠いSectionで東京中を歩き回っています。暇と金を作って神戸に帰ることもあると思うので、試合の日程や結果などもできる限り教えて下さい（現役部員の方）。それから、東京へお越しの時は気軽にご連絡下さい。4回生のみなさん、最後までがんばって下さい。P.S. 月見の宴、土曜日なら参加できます。

中塚泰弘（昭63農）

当日は仕事のため出席できません。もっとも、仕事が休みでも距離的に行けません…。工場勤務だとゴールデンウィークも日曜も関係ありません。牛に休日なし!! ちなみに5月の私の休日は、4（水）、6（金）、9（月）、12（木）、18（水）、22（日）、26（木）30（月）です。入社後間もないため、夜勤がないのがせめてもの救いです。

安井啓史（昭63経Ⅱ）

新宿副都市でバリバリに働くビジネスマンを夢見て東京へやってきました。しかし、私の住んでいるロケーションは、富士山麓の山中湖まで車で1時間30分、東京都民のいこいの場、高尾山までひと駅。でも、いいのです。金、土、日は志賀高原まで足をのばして春スキーも、あ～ら簡単です。ハイノ おかげで会社には、本場中国よりも沢山のバンドがいます。4回生の諸君、最後の1年、思いっきり燃えて下さい。それではさようなら。

井口恵理（昭63工）

積水ハウス(株)京都営業所設計課設計係に配属され、元気に過ごしています。まだまだ仕事と呼ぶには程遠く、大学時代に引き続き"建築"を頭と体で勉強中の毎日です。当日は研修中で、滋賀工場で作業服を着て家の部材を組み立てている予定です。「女性のヘルメット姿も色っほいもんや」と言われております?! 現役のみなさん、今年もがんばって下さいネ。

甲野賢（平1理）

忙しくてなかなか顔を出せませんが、現役部員の皆様、頑張っていますか。ダービーかオークスかと思ったら、また飲みに行きましょう。

郡幸雄（平1工）

関ボロまで1ヶ月。この1ヶ月が大事だから、チームまとまって練習して頑張ってください。当日出席されたOBの方々によりしくお伝え下さい。

月見の宴案内状返信より

溝口 卓郎 (大13高)

男子1部昇格、お芽出度う。今年も頑張られ度い。老生、水に浸る事は殆どないが、何とか無事消光して悟る。

植木 実就 (昭6高)

毎々御案内有難うございます。一昨年来健康を害ね静養中のため失礼致しております。立派な成績を挙げられ御同慶に存じます。一層の御健闘を御祈り致します。

草野 嘉一 (昭7高)

近頃はめったに泳ぐこともありませんが、お陰様で元気にしております。読書、国内・海外の旅行、世界のワインのテイスティング等を楽しんでおります。

三吉 吉郎 (昭6高)

好成绩にて御芽出度う。小生、相変わらず体調良好。陸上マスターズ競技で頑張っています。7月末、秋田市全国大会参加の節に、 学兄にお会い出来ました。皆様に宜しく。

小山 賢之助 (昭7学)

来る10月中旬、豪州ブリスベン第2回マスターズ水泳世界選手権に出場します。10月7日発、同17日帰国。 昨年度対外試合、好成绩をお祝いします。

板野 亀八郎 (昭9学)

身体の中に爆弾を2つ抱えており、専ら、これ等を怒らさぬ様に、仲良くつき合うことに専念しています。もっとも一見元気そうに見えるので、「元気そうだね……」とよく言われますが、自身の体のことは本人が一番良く知っていると思います。

宮本 伯夫 (昭9学)

会社をやめ早6年。何時まで生きられるやら。殆どわずかの余生を何とか有意義に暮らしたいと常々考えていますが、老化した体は、所々故障があって思う様に動きません。80才もあと僅かです。時候のよい時、ゴルフに行ったり、下手な囲碁をやって楽しんでいます。これも若い時、水泳をやって鍛えたお陰です。最後になりましたが、皆様に宜しく。祈盛会。

本間 孝之助 (昭10学)

平素御無音に打過ぎ申訳ありません。皆々様、御元気で御活躍のことと存じます。御陰様で小生、本年満77才を迎えました。元気に過ごして居ります。他事御休心下さい。未だ一度も月見の宴に参加したことがありませんが、過去神戸を訪れた際、六甲台プールを見て

きました。懐旧の念未だ心の底に留めて居ります。

池谷 俊一（昭10学）

元気に暮して居りますが、未だ体調不十分な為、残念ながら欠席致します。

古賀 克己（昭11学）

本年も月見の宴のご案内を頂き有難う。家族病氣療養との関係で2人とも欠席致します。私は相変わらず元気に毎日通勤しております。神戸凌霜昼食会には時々出席します。凌泳会諸行事幹事の方はご苦労様です。

小池 三郎（昭11学）

輝かしい戦績を残され敬意を表します。小生、至極健康、元気しております。遙かにご盛會を祈る。

伊藤 英二（昭13学）

いつも身体のどこかが故障して居るものの、月平均4回のゴルフを楽しんでいる。だが翌日は、一日休養日のため外出しないことにしているので、約束事は御免蒙っている次第です。汽車旅行は苦手、年一度故郷に行くのみ。但し、10月初旬奈良へ行くので、ついでに何年かぶりに神戸を見物する予定です。

大内 義仁（昭14学）

身体を動かすことに留意して暮しております。お陰で元気です。目下のところ、郷土チームたるカーブの応援に力を入れています。ご案内頂いた月見の宴の盛會を祈ります。

満野 公介（昭14学）

毎年連絡を受けるので参加致し度い、と思いながら都合により欠席しております。本年も残念ながら都合により欠席させていただきます。皆様によろしく。

吉野 栄（昭15学）

元気です、老人にしては。

大西 眞博（昭15学）

本年度の御立派な成績を拝見し、御奮闘に敬意を表します。当方、お陰様にて元気で過ごし、茅ヶ崎市営プール（室内）にて月1回ほど泳いでいます。但し、350 m位で上がります。続けてゆくつもりです。皆様によろしく。

秋霜の上りて迎う朝の空 雲切れるまま青く澄みゆく

山口 宗樹（昭16学）

今年も立派な戦績、感謝して居ります。私は62年の12月で勤めの生活から完全にお別れを致しました。新しい人生の生き方を模索致して居ります。そして忙しく過して居ります。

今迄の応援、有難うございました。

堀部 喜代次 (昭16学)

皆々様によろしく。

平井 洋 (昭16学)

私の今の生活の基調は、俳句、詩、エッセイ、碁の四つです。毎日でもできるものですから、生活のリズムがこわれません。老後はとくに生活のリズムを守る事が大事です。寿命とは授かるものよ今年

前田 寿 (昭16学)

変わらずポチポチやっていますか。そろそろ全国大会を考えて下さい。月見の宴、欠席かさね半世紀。

尾上 信三 (昭17学)

一部昇格おめでとうでございます。毎回の欠席で申し訳ありません。近いだけにつらいです。体調安定に努めて居ります。来年のご活躍を大いに期待して居ります。皆さんのお元気を。

岡本 忠男 (昭17学)

9月18日は、福岡県海友会の大学が開催され、その委員長のため残念ながら欠席させていただきます。皆様によろしくお伝え下さい。(日曜日は会が重なって困っています)

熊野 泰己 (昭18学)

昨夏より背骨をうって調子が悪いので欠席させていただきます。皆さんによろしくお伝え下さい。

荻野 茂希 (昭18学)

毎日自由な生活を愉しんでおります。昨今、カメラに熱中。AEカメラの進歩に驚いております。このところ凌泳会には2年ほどごぶさたしていますが、国立大としては想像以上に活躍している現役の方々の一層のご奮闘をお祈りします。

富中 暁 (昭18学)

毎晩飲みたいが故に、相かわらずヘルスクラブの水泳とサウナに励んでいます。目下の処健康です。皆様の御健康と御発展を祈り上げます。

石川 七郎 (昭19学)

61年6月、脳梗塞にて倒れ、以来引き続き療養中です。

井上 清 (昭19学)

勝手続きで済みません。御盛會を祈ります。

山内 利男 (昭20学)

今年も9月～10月、11月～12月と訪インドの予定。

三宅 林 (昭20学)

他の用件と重なり失礼します。マスターズ(東京)で東京の会友と会い、有意義でした。盛会を祈ります。

今井 政一 (昭24専)

戦後、空腹を訴え乍ら泳いでいた吾々の時を想い起こし、今のオリンピックを見ていると、スケールの大きさ、迫力を感じますね。大いに体力をつけて頑張ってください。

佐脇 鷹平 (昭25学)

神戸に居を移しましたが、職場は東京が続いていますので、会社の寮に入って独身生活です。いつまでも忙しくて仲々出かけられません。

石井 義章 (昭27営)

いよいよ選層に突入して益々元気。過日、神戸市の長寿ゴルフ(60才以上)に参加、38+44=82で回りました。来年は神戸でフェスピック大会。また忙しくなりそうです。

小原 祥男 (昭29営)

この6月、6年ぶりに米国勤務を終え帰国しました。方々へご無沙汰しましたが、これからは凌泳の会合に出席しますので、お付き合いの方、よろしく願います。

辻村 亮介 (昭30経)

勝手ながら欠席致します。皆様に宜しく。

田淵 五郎 (昭30営)

100背 1-22-40(5月、短水路日本マスターズ)、50背 37-90(7月、習志野市民、8月、千葉県民大会の年令別で優勝、同タイム)、200背は今の所、練習タイム 3-15-0くらいが、それぞれの今年のベストです。10月のプリスペイン(世界マスターズ)に初めての海外遠征します。

堂本 直正 (昭30工)

今年もまた欠席させていただきます。会社関連の行事がありますので。宴の盛会与皆様のご健勝を祈ります。

富岡 道雄 (昭31営)

今シーズンも、とうとう1回も試合には行けませんでした。申し訳ありません。

松田 司朗 (昭32法)

10月、世界マスターズ・プリスペイン大会には、小山会長と出場致します。400m、200m、100mフリーにエントリーしております。皆様に宜しく。

山口 仁 郎 (昭 32 営)

美容と健康のために家内と2人でテクテク歩いております。8月は通念小屋、燕山荘に泊り、コマクサの満開を楽しんできました。9月は槍、大天井、10月は奥穂高の予定です。
「歩ける」という事は非常に気分の良いものですね。

高 橋 靖 周 (昭 33 経)

今年6月の異動で取締役人事部長から取締役営業部長にかわりました。9月18日はソクルオリンピックへ「出張」ですので、欠席させていただきます。月見の宴の盛会をソクルから祈念いたします。

岡 見 晴 児 (昭 33 法)

相変わらず南に西に飛びまわっており、仲々ゆっくりさせてもらえません。YMCAのプールにも、ここ2~3ヶ月ご無沙汰です。それでも、テニスと「夜の部」(誤解しないで下さい。アルコールのことです)は、ペースを落さず頑張っています。18日は出席できません。ご出席の皆様によろしく。

山 本 哲 弘 (昭 34 営)

御無沙汰ばかりで本当に申し訳ありません。皆様によろしくお伝え下さい。

酒 井 孝 栄 (昭 36 経)

北海道に来て早くも5年余、身体もすっかり慣れて、今や本州出張の折には、あの暑さと湿気にゲンナリとする様になりました。本年の部員の活躍、会報にて拝見、見事なものです。今年も頑張ってください。

米 田 啓 祐 (昭 37 教)

兵庫県の但馬地方に住み続けています。ようやく車で30分程のところ、年中泳げる室内プールができて、大いに利用しようと思っています。但馬地方には未だ中学にも高校にも水泳部のある学校はありません。小学生の間では、かなり水泳は盛りあがってきました。

高 岡 保 宏 (昭 37 教)

前略、当日は学校の行事の為出席できません。皆様どうぞよろしくお伝え下さい。今年の夏は全国高校総合体育大会の水泳競技(神戸ボーアイプール)に数日間、役員として参加させてもらい、久しぶりに充実した夏休みを過ごしました。

柳 本 正 雄 (昭 37 営)

最近、水泳とは少々無縁になっていますが、お陰様で元気に過ごしています。御盛会でありますように祈念いたしております。

萩 原 武 (昭 37 工)

水泳部の盛況を大変うれしく存じます。在阪神の会員の皆のBac up と、水泳部現役諸君の情熱とが合わさって現在の隆盛が生まれていることと思います。いつも失礼ばかりですが、月見の宴の盛會を祈り、先輩諸氏はじめ出席の皆様御健康を祈ります。

井上 隆 史 (昭37営)

今シーズンは好成績の由、御苦勞様でした。私も年1回はマスターズの試合に出場すべく練習をしておりますが、50才近くなった人で、年々早くなっている人がいるのには感心しています。

平岡 昭 朗 (昭38教)

近くに居ながら御無沙汰しております。小生、相変わらず元気で、日曜日なしで高校野球をやっております。姫路西高から女子800m全日本高校総体優勝者が出ました。小柄な子ですが、きれいな泳ぎをしています。現役諸君の活躍、うれしく思います。今後も頑張ってください。

藤岡 治 男 (昭38教)

返信、遅くなり申し訳ありません。社会体育にたずさわると、日曜、祝日、夜間が本業になり、生活のベースが全くつかめない毎日です。

鈴木 正 弥 (昭39経)

毎週末、海釣りに出かけております。東京湾と相模湾、各々の場所で季節によって異なる魚がいて楽しませてくれます。魚種の多さは申し分ないが、数はやはり少なく、N.Y.での大釣りがなつかしく思われます。月見の宴の盛會をお祈り申し上げます。

武 政 英 幸 (昭39営)

8月27・28日、千葉県民水泳大会に参加、田淵さん(習志野市)、岩切君(船橋市)、後藤君(松戸市)、小生(流山市)と、凌泳マスターズの諸君が活躍しました。

前 田 和 秀 (昭40法)

マスターズ入賞を目指し、近くのプールでポチポチ泳いでいますが、練習には程遠い混雑です。御出席の諸氏よろしく。

丸 山 登 也 (昭40工)

残念ながら欠席です。9/11(日)に家庭サービスが出来ない分の埋め合わせの為、今シーズン、御苦勞様でした。

手 嶋 忠 之 (昭41理)

本年も立派な成績を残されておられますが、御苦勞様でした。当方、本年の日本マスターズは、長・短水路のどちらも仕事の都合で出場出来ませんでした。

真喜志 好 一 (昭41工)

仕事のかたわら「白保」の海を守る、新石垣島空港建設阻止の運動に没頭しています。現役の皆様は一部昇格おめでとうございます。

宮 部 高 博 (昭42文)

長水路マスターズは、色々と御先輩方にお目にかかれ楽しかったです。東京凌泳会の幹事役を後輩諸兄に引継ぐことが出来て一段落つききました。今年の現役諸兄の成績はいかがでしたか？ 朗報を期待しています。東京凌泳会はメンバーも増え、皆それぞれ水泳を楽しんでいます。

阿 部 洋 三 (昭42工)

7日よりビッグプロジェクト(東京湾横断道路)の計画に参加しているため、連日遅くまで働いています。おかげで水泳の時間がなかなかとれず、いささか欲求不満の状態です。ソウルオリンピックの水泳を見て、再度記録に挑戦(?)しようと考えています。

井 上 与志男 (昭47法)

東京へ転動して半年が過ぎようとしています。朝晩の通勤ラッシュには、なんとか慣れてきましたが、どこへ行っても人、人、人の数にはうんざりしています。やはり東京は、人が気持よく生活するには、あまりふさわしくない土地かな…と思う今日この頃です。

以 西 吉 一 (昭48工)

土建業界は、これから年度末に向け、公共事業発注の増加と共に非常に忙しくなります。みなさまによろしく。

長谷川 健 (昭49経)

博多へ転動以来、4ヶ月余となりました。

佐 敷 定 雄 (昭49農)

六甲台プールのことを考えることは多々ありますが、仕事の多忙さゆえ立ち寄り寄ることさえできません。自分で自由になる時間をつくりだすことさえできないダメな人間になりました。これではいけないと、週1回は泳ぐようにしております。皆様の活躍を祈っております。出席の皆様によろしくお伝え下さい。

印 南 修 三 (昭49農)

先日、1年ぶりにスポーツクラブのプールで泳ぎました。

家 本 博 一 (昭50経)

1年間のワルシャワ大学留学を終え帰国致しました。先輩諸兄、並びに現役学生諸君の御健勝を祈り上げます。

小林 正夫 (昭52経)

7月転勤の為、転居しました。ハガキ転送されて来た為、返信遅くなりました。

丸末 一之 (昭52経)

今春転居しました。関西に10年ぶりで戻って、もう2年になろうとしていますが、すっかりごぶさたして申し訳ありません。今年は必ず出席します。

星合 正子 (昭53理)

(粟野)

息子(2才)のスイミングスクールの付添で、週2回プールに入っています。自由に泳げないのが残念です。

村田 邦夫 (昭53法)

皆様お元気のことと存じます。今後とも皆様のご活躍を祈ってます。

平石 康 (昭53教)

素晴らしい戦績、おめでとうございます。卒業してもう10年、現役時代がなつかしい。この夏、減量に挑戦しましたが失敗。あんまり泳げませんでした。体力の衰えを感じます。現役諸君のご活躍を期待しています。

木下 修一 (昭54教)

たいしてお知らせするほどもない平凡な人生を続けています。関西インカル1部昇格、おめでとうございます。マネージャーの方々ごくろうさまでした。次シーズンも、さらに皆さんの活躍されることを期待しています。

土井 祐二・紀子(旧姓 寺尾) (昭55法) (昭57教)

皆様のご活躍、おめでとうございます。ここ光市は山と海に囲まれ、家から水着を着て車で3分で海に着き、がらすきのきれいな海でたっぷり泳ぐことができます。おかげで今年 はまっ黒になりました。

館谷 彰司 (昭55工)

杉山君、慈幸君、土井君、平尾君、桑本さん、みんな元気にやっていますか。私は元気です。卒業して早や10年が過ぎようとしています。残念ですが、おなかの筋肉のたるみの進行は時と共に進み、止めることはできないようです。大学当時の写真を見ると、さびしくなります。

桑本 万里 (旧姓 清水) (昭55教)

元気です。娘も2才と6才になりました。ほとんどは主婦をやっていますが、週何回かは、近くで健康づくり及び美容体操の先生のようなことをやっています。凌泳でいっしょに泳いだ方々の近況を拝見するのを楽しみにしています。

上 田 剛 弘 (昭56営)

立派な戦績におめでとう。がんばりましたね。今年は仕事の都合で一度も顔を出せませんでした。来年は私も30才になり、一般の部の選手から30才台の選手になりましたので、現役に混じり練習に参加したいと思っております。水泳は、本当に息の長いスポーツだなあと、我ながら悦に入っております。

P.S 宮崎市長の講座を受講された方には、資料を送りますので連絡下さい。

慈 幸 弘 樹 (昭57教)

6年振りに関西に帰ってきました。御出席の先輩諸兄によりしくお伝え下さい。

白 子 靖 則 (昭57営)

7月に転勤となり、10年間過ごした神戸をはなれました。大学入学後10年も経ったのかと思うと感無量です。当日は、遠地につき欠席とさせていただきますが、ご出席の皆様によりしくお伝え下さい。

富 岡 洋 三 (昭57営)

今年は全日本マスターズ参加など充実した年でした。特に100m平泳ぎでは、短水路ながら1分18秒台で、これは卒業後7シーズンの中では最高記録です。

杉 野 誓 (昭58工)

御出席の皆様によりしくお伝え下さい。

呉 竹 正 人 (昭59法)

今季は、やたらレース前夜に朝まで飲まされました。ゴール・タッチした時の安堵は、この上ありません。

谷 水 利 行 (昭59法)

卒業以来、関西を離れておりますので大変なつかしく、出席したいのですが時間が取れません。ともあれ元気しております。

山 野 和 則 (昭59農)

あいかわらず泳いでいます。泳ぐだけではもの足りなくなり、エアロビクスを始めることにしました。マスターズ水泳も平泳ぎは楽勝なので、自由形に中心を移そうと思っております。来年5月20日(土)に挙式が決まりました。

長谷川 泰 造 (昭59工)

すばらしい戦績おめでとうございます。今年は、とうとう1回も泳ぎませんでした。当日は、残念ながら都合により出席できません。現役部員の、これからのますますの活躍を期待しています。

吉岡 宏之 (昭59法)

結婚で住所が変わりました。今年、会社のプールへ3回程行きました。社内水泳大会では25m自・平共にブッチギリの優勝でしたが、バタフライは、もうあきません。

鈴木 利一 (昭59工)

7月いっぱいまでシャープを退職、8月末から松下電器の方で働くことになりました。結婚、退職と、ここのところ多忙で気疲れて、また太ってしまいました。

坂東 美枝 (昭60教)

今年は全国6位復活おめでとう。あとは水球でおいしい酒を飲みたいですね。神戸大学に勤めている間は、極力お役に立ちたいと思います。

土井 健治 (昭60経)

9/17 友人の結婚式が夜半まで東京であり、月見の宴当日、多少遅れると思いますが、是非出席させていただきます。恐らく来年は転勤。関西にいる間に来とかにゃ!

浦野 敏明 (昭60営)

先日久しぶりにインカレで後輩の水球の試合を見て、現役時代がなつかしい今日この頃です。当日は月見の宴に出席できませんが、皆様にはよろしくお伝え下さい。

坂田 純孝 (昭60法)

長男孝大は1歳9ヶ月、スイミングスクールに通い始めました。当日は野球の試合があり出席できません。今年一度も六甲台にも試合にも行けませんでした。来年は応援に行きます。

酒井 美奈 (昭58準)

酒樽運びが物足りなくなりましたので、"つるはし" かついで土建屋に嫁入りします。夫婦会員になりますので、今後とも皆様のご健闘を陰ながら応援させていただきます。

黒川 良介 (昭61経)

酒漬けの毎日を送り、若干疲れてはいるものの、労働組合とスッタモンダやりながらがんばっております。尚、1989年は年貢の納め時となりそうです。現役の皆さん、就職相談には乗りますが、とりえず水泳の方をしっかりと頑張って、いい結果を出すよう祈ります。

太田 久美子 (昭61文)

25日なら関西にいたんですけどね……残念。21日からソウル・オリンピックへ行くんですけど言うところ、「まあ、久美子さん、相変わらずミーハーしてるわ」と、皆さんは思いになるでしょうね。その通りです、ハイ。でも、今"とらば一ゆ" を考えてます。「いざ都心へノ」です。早く勤務先変更の通知を出せる日がくればいいのですが……。できれば

ソウル・オリンピック観戦記を送りたいと思います。

楠 戸 祐 子 (昭 60 準)

9月1日に2860gの女児を出産しました。絵梨子と命名。髪の毛振り乱して育児に専念しています。今流行の「醬油顔」なので、人は皆「マー美男子」とほめて下さいます。当分水泳部の行事には参加できなくなるとありますが、皆様の益々の御活躍を心より念じております。

中 川 善 雄 (昭 62 工)

後日投函することをお許し下さい。当日は楽しい一日を過ごせました。あの約束は、決して酔った勢いで口走ったものではありませんので。是非皆さん頑張ってください。

三 好 岳 (昭 62 法)

最近やっと殺人的多忙から解放され、少し余裕ができました。今になっても水泳部時代は懐かしい限りです。月見の宴にはぜひ参加したいと思ってますんで、またゆっくり飲みましょう。

林 曆 智 子 (昭 62 教)

去年の関ボロ以来ずっとご無沙汰して申し訳ありません。今年の4月から学校勤めしていますが、もう半年になるのに慣れなくて失敗ばかりしています。うちの学校は、ほとんどの子供が車イスを使っていて、移動やトイレでの介助が必要なのですが、たまに車イスを押しながら、よそ見をしてカベにぶついたり、抱っこしていて落としたり、とんでもないことをしています。水泳は週1回、1時間程度のペースでのんびりやっています。8月28日にハーフマラソンに出て、2時間かかって完走しました。まだまだ体力は衰えていないみたいです。

甲 野 賢 (平 1 理)

4回生の皆様、御苦労様でした。益々大きくなって下さい。近況といっても、現役諸君も御存知の様に、秋のスポーツ大会に備え、自主トレの日々を送っています。

郡 幸 雄 (平 1 工)

市大戦、インカレの結果を聞きました。この負けをどう来年につなぐか。幹部に期待します。

近 藤 直 明 (昭 63 営)

今期もご苦労さまでした。就職が決まった人、おめでとう。当方、NISSHO IWAI 東京水泳部を設立、商社対抗戦で兼松の後藤氏と再会。週1~2回は近くのアスレチックに通い、100×10-1'35" ぐらいは、まだまだ大丈夫です。

坂田 亨（昭63農）

現役の皆様、お元気でしょうか？ 夏の間、一度も顔を出さずじまいでした。どうもすみません。みんなの活躍ぶりは、電話などでちょくちょく聞いていますが、非常に良く頑張っているようで、一緒に練習できないのが残念で残念で……。18日の月見の宴も、出張なので欠席します。みなさんにヨロシクお伝え下さい。4回生の方々、就職決まってオメデトウございます。

加地 恵（昭63法）

10月の京都国体にて炬火リレーのランナーをすることになりました。距離は短いのですがトーチが重そう……。

井口 恵理（昭63工）

部員の皆さん、御苦労様でした。結局、仕事の関係上、一度も試合に顔を出せなくて残念に思っています。長い研修も7月いっぱい終わり、今は営業所に落ち着き、図面を書く毎日を送っています。日曜日は仕事ですので欠席させていただきます。（ふゅーん）
楽しい宴であることを祈っています。御出席の皆様によろしくお伝え下さい。



マスターズコーナー

世界マスターズ（豪州）で 小山先輩が2種目世界新記録の偉業

（昭30営） 田 淵 五 郎

国際水泳連盟並びに国際マスターズ協会主催の、第2回世界マスターズ水泳選手権大会が、1988年10月10日から15日迄、オーストラリア・ブリスベン市で開催された。

第1回の東京大会（1986年7月）では、「凌泳」昭和62年版に報告した通り、7名の参加者が活躍した。今回は凌泳会からは、小山会長と小生が東京から、松田司朗君（昭32）が大阪からのクラブツアーで参加し、計3名であった。

小山先輩は1985年8月に、カナダ・トロントでの第1回ワールドマスターズゲームズの水泳部門に参加して金メダル2個を獲得された実績を持たれ、それ以外にも御夫妻で年に何度か海外旅行を楽しんで居られる。ところが、松田君も小生も海外大会は初めてで、幸い時差の殆どない国とはいえ、不安な気持ちで大会に臨んだ。

結論は写真の笑顔を見て頂きたい。小山先輩は、80～84歳の部平泳50m及び100mともにマスターズ世界記録で優勝され、立派な金メダル2個を獲得されたのである。

第1日50mのタイムは51秒41（従来の記録は米国選手による54秒29）、第3日100mは2分0秒89（従来の記録は同じく2分4秒08）の堂々たる内容で、2位以下には大差をつけての優勝であった。

前の記録保持者が米国から来ていたが、膝を痛めたのかサポーターを着けたまま、ついに棄権された由。仮にその人が一緒に泳がれても小山先輩の圧勝であったと思う。50mのレースは終始応援したが、スタート直後の水に乗った泳ぎを、ゴール迄無理なく持続して居られた。

余談だが、レース後スタンドに坐ってすぐに、遅い昼飯のお握り弁当（日本料理屋が約600円で予約配達）を、缶ビール2本と共にペロリと平らげられたその健啖ぶりに、80歳の強さの秘密を見た思いがした。

参加日本選手の男子では、個人の世界記録は遂に生まれなかった中で、小山先輩の2つの世界新の金メダルは稀有の好成績であった。写真の後方に見える北村久寿雄マスターズ協会会長以下、有志皆で万歳してお祝いをしたことであった。

日本から往年のオリンピック選手だった古川（平泳52才）、大崎（平泳49才）、長谷（背泳53

才)等も参加したが、米国、豪州、西独等の層の厚さにはかなわない。女子では、竹宇治(旧姓田中)聡子の背泳(46才)の2種目世界記録での優勝があったが、木原光知子(背泳40才)は銀に終わった。

今大会プログラムに記載されている各年令・種目・男女ごとの世界記録(総数455)を小山先輩が分析されたところ、米国362、豪州31、英国14、西独14、日本11、ブラジル8、カナダ7、その他8の分布で、約8割が米国で占められていることになる。

序でながら小山先輩は1988年2月の"TIME"で、「米国の白人の平均寿命が1985年現在71.2で、2020年になっても74.2にしかならない」との記事を読まれて、日本人の平均寿命は既に75.5であるから、80になればライバルが減って日本人に世界記録の可能性が高まる、と力説して居られる。

そして、その所信に則って練習計画を消化され、見事に記録を更新して2種目優勝を実現された偉業には感服するばかりである。

さて、今大会には28ヶ国から約3800人も参加(うち、豪州1161、日本1097、米国631)したので、その運営には無理も生じ、特に初日の最後の種目400m自由形が終わったのは、翌日の午前2時という事態になった。

松田君はその深夜に空腹にめげず、7分15秒21で力泳されたあと、バスで1時間も離れたゴールドコーストのホテルで就寝できたのは、果たして何時であったのやら……。

ついてないことに、翌日のバスが交通渋滞にあって、第2日目の100m自に遅刻されて誠に残念。第4日の200m自は応援することが出来たが、3分12秒34の軽い泳ぎぶりは、往年のチームメイトとして心強く感じた。

私の戦績は(何れも背泳55~59歳の部)、第1日200m、3分13秒04(9位)、第2日50m38秒00(8位)、第4日100m、1分25秒21(6位)であった。金、銀、銅はとても無理として、ブロンズメダルは3個貰えたり、200mの記録はここ数年の長水路のベストだったので、まずは満足している。

今大会から飛び込み競技も行われ、市内の別のプールでは水球も開催されたが、とても見る暇もなし。

東京大会でも一緒に泳いだサンジェゴのS氏、今回同じ組で競ったニュージーランドのM氏、台湾のT氏から記念品を貰ったのに、お返しを出来ないまま失礼してしまって、今でも心残りである。

最終日の賑やかなサヨナラパーティーも、夜間の大遊園地で僅か2時間くらいのため、我々5人(小山、田淵各夫妻と松田君)が何とか落合って、乾杯し記念撮影するのが清一杯であった。

大会終了後、小山御夫妻はニュージーランド経由で帰国された。私と家内は、最初に成田から到着したシドニー、並びに会期中滞在したブリスベーンとその周辺を、大会の合間を縫って観光した。

初夏の輝くばかりに美しい空と海、咲き乱れる花々、沢山の植物、大陸独得の可愛い動物たち…。建国 200 年記念レジャー博の日本館には、姉妹都市の関係で神戸市も出展していた。ゴールドコーストの広大なビーチは垣間見たが、グレートバリアリーフはとても行く時間がなかった。内陸部も見たかったし、もっと食べてみたいシーフードも色々あったのに……。

ともあれ、水泳のお陰で得難い10日間の経験が出来た。次回の第3回世界マスターズは、1990年にブラジル・リオで開催されることになっている。今度は、日本人よりも米国人の方が参加者が多くなるのではなかろうか。

昭和 63 年度 短水路大会

4月10日より5月22日の間に、全国12ヶ所の会場（神戸、金沢、川崎、各務原、岡山、東大阪、与野、静岡、東京、京都、札幌、国立）に於て開催されました。

以下、各会場に於ける凌泳会員の活躍振りを御報告致します。

◎ 兵庫会場（神戸市）

プール スポーツクラブ N A S ポートピア

日時 昭和63年4月10日

本会場に出場するのも3回目となり、次第に参加者増加、今年は6名の会員が出場しました。三宅先輩は今年から65+の層に代変りし益々お元気。100m平泳ぎではメルボルン五輪の優勝者、古川勝選手と同じ組で力泳されました。私は前日、風邪熱のため出ないつもりでいましたが、プログラムを見ると、55+の層はエントリー1人なので、これはチャンスとばかり飛び込み、後で女房に叱られました。

記

氏名	(卒年)	年区分	種目	順位	タイム
三宅林	(昭21学)	65+	50平	1	43 [〃] 9
			100平	1	1 [′] 41 [〃] 2
石井義章	(昭27学)	55+	50平	1	50 [〃] 3
			25平	2	22 [〃] 3
上田剛弘	(昭56営)	25+	100個	6	1 [′] 20 [〃] 1
			50自	7	30 [〃] 2

山本 隆 (昭57経)	25 +	100 個	4	1' 17" 7
		400 自	3	5' 37" 1
山野和則 (昭59農)	25 +	200 自	2	2' 27" 4
		100 平	1	1' 17" 9
藤本栄美 (昭59準)	25 +	50 自	1	32" 9
		100 自	1	1' 14" 4

(昭27学 石井義章 記)

◎ 大阪会場

プール 近畿大学室内プール

日時 昭和63年5月8日

神戸の三宅先輩もエントリーされていたのですが、風邪のため欠場され、私一人の参加となりました。大阪の皆さん、来年は奮って御出場願います。

成績

山野和則 (昭59農)	25 +	200 平	1	2' 49" 1
		400 自	4	5' 24" 8

(昭59農 山野和則 記)

◎ 東京会場

プール 江戸川スポーツセンター

日時 昭和63年5月15日(日)

凌泳マスターズから9名が「凌泳会」の団体名で出場しました。92クラブ、1978名の参加があり、熱戦が繰り広げられました。出場者及び記録は以下の通りでした。

田淵五郎(昭30営)(55+)

50 m 背泳 38 秒 38 優勝

100 m 背泳 1 分 22 秒 40 優勝

※ 年をとるにつれて、一般に水泳経験者は、ポッチャリ型、デブリ型になるのが常であるが田淵氏は、筋肉質でスリムな体形をしておられ、日本マスターズの参加資格にもあるように、定期的に競泳の練習をしている者(競技規則第2条に該当)であります。レース展開は、終始余裕をもって泳いでおられ、応援する我々凌泳会チームにとって、安心感を与えてくれました。2種目共優勝という立派な成績は、凌泳会チームの誇りであります。100 m 背泳の Rap Time は 25 m 18-54、50 m 39-46、75 m 1-01-48、100 m 1-22-40 であり、終始安定したペースであった。

武 政 英 幸(昭39管)(45+)

100 m個人メドレー 1分22秒12 第3位

50 mバタフライ 34秒71 第6位

※ 凌泳会チームの常連であり、買物好きである。水泳会場のTシャツ、水着売場にはよく顔を出し、カラフルな競泳パンツなどの収集では凌泳会No.1である。勤務先の㈱クラレのイメージ通りオシャレであり、年齢の割にはカッコイイのであります。

前 田 和 秀(昭40法)(45+)

25 m背泳 20秒04 第2位

50 m背泳 43秒35 第2位

※ 横浜の新居より会場まで、早朝にもかかわらず参加して下さいました。性格は実に陽気で、周りが明るく感じられ、御本人も水泳を楽しんでおられるようです。レース前は緊張感を感じられず、「ちょっと行ってくるわ」の言葉でレースに出場し、立派な成績を挙げられます。レース後の談話を聞くと、競争相手のことをよく観察しており、「あの人を抜けば、絶対2位は確保できると思った」などと、にこやかに話して下さいます。

宮 部 高 博(昭42文)(40+)

25 m自由形 14秒24 第3位

25 m平泳ぎ 18秒09 第3位

※ 田淵先輩と違い、競技規則第2条に若干違反するのですが、持ち前のガッツと粘りで堂々3位を獲得しました。ここ2~3ヶ月泳いでない、ということで、上記の種目に熟考の末エントリーしました。凌泳マスターズの影の支配者であり、凌泳会の面々を先導し、本部席にて観戦、応援できる実力者であります。又、凌泳会チームの貴重なリレーメンバーであり、40才前後の若いOBを物色中であります。一度一緒に泳いで下さい。根性がつきます。

岩 切 博(昭46理)(40+)

100 m平泳ぎ 1分25秒58 第4位

50 mバタフライ 34秒28 第4位

※ 惜しくも入賞を逃がしたが、今回の100 m平泳ぎでの後半の力泳は、凌泳会の面々も若干の興奮をおぼえたものでした。最近、週に1~2回は泳ぐようになり、背泳をマスターすれば完璧な個人メドレーの泳者になります。只今、秘密練習中です。この大会の前に行われたマスターズ水泳長距離大会に凌泳会より唯一人出場し、スタミナのあるところを見せて下さいました。凌泳会の貴重なリレーメンバーの一人です。これからの活躍を期待しております。

佐 敷 定 雄 (昭49農) (35+)

25 m バタフライ 14 秒 15 第3位

50 m バタフライ 30 秒 63 第2位

※ 競技規則第2条を完全に無視した男で、中年に片足を突っこむ年齢になると、日頃の練習に消費するエネルギーを温存し、レースで一発かます、という岡本太郎氏の「爆発だ」を実践しているのである。しかしレース後、肩の強度の筋肉痛の為、一週間元気のない生活を送り、神の天罰を身をもって体験し、これからは真面目に自分の為、いや、凌泳会の為に心を入れ換える、と誓っている今日この頃です。

呉 竹 正 人 (昭59法) (25+)

100 m 自由形 1 分 06 秒 60 第10位

※ 凌泳会では唯一人、激戦の100 m 自由形に出場。このクラスの優勝タイムは56秒26であり、25歳にもなってこのような記録で泳ぐ人がいるなんて、真面目に日頃、仕事をしているのかと若干の腹立ちをおぼえます。今回はメンバーのタイムや Rap などを計時することに注力してくれ、貴重な凌泳会の世話役をつとめております。

浦 野 敏 明 (昭60営) (25+)

100 m 個人メドレー 1 分 13 秒 89 第4位

50 m 平泳ぎ 37 秒 76 第3位

※ 現在の凌泳マスターズ会員の一番の若手であり、また実力者。現役時代と変わらず力強い泳ぎをしており、まともに練習すれば、まだまだ現役と対等に勝負できる実力あり。貴重な戦力である。新入会員の獲得係としても活躍してもらっています。

安 井 啓 史 (昭63経Ⅱ)

※ 只今マスターズ登録中。今回も色々と便利屋を勤めてくれました。一日も早く一緒に試合に出て、凌泳会の新戦力になってくれることを期待しております。

☆ リレー種目

100 m メドレーリレー 5 位

(160~199歳) 田淵、岩切、武政、宮部 1 分 04 秒 04

100 m メドレーリレー 10 位

(119歳以下) 安井、浦野、佐敷、呉竹 1 分 00 秒 74

100 m フリーリレー 8 位

(160~199歳) 岩切、宮部、武政、佐敷 58 秒 29

100 m フリーリレー 8位

(119歳以下) 浦野、安井、呉竹、佐敷 52秒73

☆ なお当日、他の所属クラブより出場なされた諸兄も立派な成績で泳いでおられます。

後藤 信人 (昭54 営)

100 m 個人メドレー 1分16秒50 2位

100 m 平泳ぎ 1分20秒80 1位

阿部 洋三 (昭42 工)

100 m バタフライ 1分17秒10 1位

50 m 平泳ぎ 39秒15 3位

(昭49 農 佐敷定雄 記)

長距離リレー大会

(昭46 理) 岩切 博

4月30日及び5月2日、東京・代々木プールにおいて、第4回マスターズ長距離リレー大会が開かれ、凌泳会から唯一人、小生が出場致しました。成績は下記の通りです。

1500 m 自由形 26'02"9 (5位) (40+)

400 m 個人メドレー 6'53"55 (4位) (〃)

長水路のせい、タイムは予想を下回り、特に1500mでは1分以上の遅れです。途中で投げ出しなくなりましたが、何とか完泳できた、という程度です。ただ、個人は短水路日本記録を破っていません。

ジャパン・マスターズ '88

(昭46 理) 岩切 博

梅雨の肌寒い中、7月15、16、17、代々木オリンピックプールにて、第5回ジャパンマスターズ水泳大会が催され、凌泳会からは神戸から参加された方も含め14名が出場し、好成績を収めました。また、他クラブからも3名出場されました。

成績は下記の通りです。

小山 賢之助 (75+) 50 m 平泳 50"12 1位

〃 100 m 平泳 2'03"07 1位

三宅 林 (65+)	50 mバタ	46"4	6位
"	50 m平泳	44"77	2位
"	100 m平泳	1'43"05	3位
"	200 m平泳	3'57"07	4位
田淵 五郎 (55+)	50 m背泳	38"47	3位
井上 隆史 (45+)	50 m背泳	39"87	12位
"	100 m背泳	1'29"24	5位
武政 英幸 (45+)	50 mバタ	35"4	14位
"	100 mバタ	1'30"34	6位
"	50 m自	30"14	14位
"	200 m個メ	3'14"12	9位
前田 和秀 (45+)	50 m背泳	44"73	23位
宮岡 高博 (40+)	50 m平泳	42"68	28位
"	100 m平泳	1'36"76	23位
岩切 博 (40+)	100 m平泳	1'26"50	4位
"	200 m平泳	3'12"5	3位
"	200 m個メ	3'10"35	8位
佐敷 定雄 (35+)	50 mバタ	30"8	4位
"	100 m自	1'07"25	7位
富岡 洋三 (25+)	50 m平泳	36"37	9位
"	100 m平泳	1'23"20	12位
藤田 弥門 (25+)	50 m平泳	36"42	8位
呉竹 正人 (25+)	100 m自	1'08"87	30位
浦野 敏明 (25+)	50 mバタ	33"4	24位
"	100 m自	1'08"09	27位
藤本 栄美 (25+)	50 mバタ	40"0	8位
"	50 m自	32"88	4位
"	100 m自	1'18"06	7位
"	200 m自	2'55"44	4位

メドレーリレー 200 m

井上、岩切、佐敷、武政 (160+) 2'18"68 7位

浦野、藤田、富岡、呉竹 (119-) 2'17"89 13位

この他、他クラブ所属

松田 司 朗 (55+) 100 m 自 1'21"82 12位

" 200 m 自 3'18"29 13位

阿部 洋 三 (40+) 100 m バタ 1'18"89 2位

後藤 信 人 (30+) 100 m 平泳 1'22"28 3位

" 100 m バタ 1'26"19 10位

昭和63年度日本マスターズ短水路大会 10傑入賞者

昭和63年度日本マスターズ短水路大会は4月から5月にかけて、全国12会場に於いて開催され、凌泳マスターズ諸兄も多数参加されましたが、その内、下記の方々が全国ランキング10位以内に入賞されました。ここにご報告しお喜び申し上げます。

記

氏名	卒年	区分	種目	順位	時間
三宅 林	(昭21学)	65+	50 m 平	2	43"90
"			100 m 平	4	1'41"20
田淵 五郎	(昭30宮)	55+	50 m 背	2	38"38
"			100 m 背	1	1'22"40
武政 英幸	(昭39宮)	45+	100 m 個メ	10	1'22"12
岩切 博	(昭46理)	40+	100 m 平	9	1'25"58
佐敷 定雄	(昭49農)	35+	25 m バタ	9	14"15
"			50 m バタ	4	30"63
山本 隆	(昭57経)	25+	400 m 自	8	5'37"70
山野 和則	(昭59農)	25+	200 m 自	10	2'27"40
"			400 m 自	6	5'24"80
"			100 m 平	4	1'17"90
"			200 m 平	1	2'49"10

藤本栄美 (昭59準)	25+	50 m自	5	32" 90
〃		100 m自	3	1' 14" 40

マスターズへのお誘い

(事務局) 石井義章

この泳誌にマスターズ水泳の事が載りかけてから数年になりますので、概略御承知頂いている事と思います。要は、5歳きざみの年代層に区分して、その内でタイムを競うものです。国内では春に短水路大会、秋に長水路大会があり、この他にも各地スイミングクラブが主催するローカル大会が数多く開かれています。一方、世界大会もあり、63年10月にはブリスベーンで第2回世界選手権大会が開かれ、当会からも3名出場、殊に小山会長には2種目に世界新記録で優勝されました。

現在登録を済ませたのは下記の方々ですが、貴方も是非健康増進のためマスターズに登録し、かつて親しんだ水泳に再度取り組んで頂きたくお誘い申し上げます。

興味ある方は小生まで御一報下さい。資料をお送り致します。

[昭和63年11月現在登録者 31名]

小山賢之助、三宅 林、中井三郎、石井義章、田淵五郎、細田忠雄、野田浩志、岡田重義、山田貴彦、米田啓祐、浅間啓介、武政英幸、井上隆史、前田和秀、宮部高博、日野 康、玉置 明、岩切 博、佐敷定雄、平石 康、金 一波、山本 隆、上田剛弘、富岡洋三、藤田弥門、山野和則、藤本栄美、南谷昌広、呉竹正人、長崎真人、浦野敏明



現役部員寄稿



～部員達に対して一言～

「大学生だからこそ……」

主将 岡崎 憲之

練習や試合の苦しい場面、一生懸命やらなければならない場面で「大学生にもなって、こんなことやってくれるかあ」と、つい口に出してしまう時はないだろうか。口に出して言わないにしても心の中でそうつぶやいた経験のあるものも少なくないのではないだろうか。しかし、ここで少し考えてほしい。本当にそんな考えを持ってよいのだろうか。大学生は、高校生のように真剣に闘志を燃やすことができないのだろうか。

確かに我々大学生は、高校生たちに比べると“根性”というものが足りないように思う。しかし我々大学生は、高校生たちに比べてずっと“自由”が多い。まず高校生と決定的に違うのは、受験勉強をしなくてもよいということである。苦勞して大学に入った人も、生まれつきの天才で楽に大学に入れた人も、どちらにしろ一通りの勉強をして、大学入試というものを経験しなければならなかった。でも今は、それから解放された身である。学部の勉強は、受験勉強よりもはるかに高度で厳しい。けれども、それは自分で選んだ道であり、仕方のないことである。それでも高校生に比べれば、休みの期間は長いし、スキーや海外旅行などにも自由に行くことができる。服装も思う存分おしゃべりすることができる。アルバイトをして金をたくさん貯めることもできる。夜通し酒を飲み歩くこともできる。就職だって、普通にしていれば人並みのところにはいける。その他、いろいろな面で大学生は自由だといえる。逆にいえば、それだけ高校生は拘束された身なのである。そんな身でありながら高校生たちは、インターハイや国体を目指して情熱を燃やし、日々苦しい練習に励んでいるのである。それに比べたら大学生というものは、本当に楽なものではないか。自分の好きなことをしながら、自分の選んだクラブ活動に思う存分打ち込むことができるのだから。

こうしたことを考慮すると、大学生だからこそ、一生懸命努力して闘志を燃やし、一つのことに余裕を持ちながら取り組むことができるのではないだろうか。

シーズン初めの現在、我々神大水泳部にとって必要なことは、筋力や技術より何よりも、まず、一生懸命やる心構え、努力する態度、「勝つんだ」という気迫、といった精神的なものを身につけることではないかと思う。すべての部員が気迫や闘志に欠けているとは言わない。何人かの者は、

自己ベストを更新するために、また、水球でレギュラーになるために、各自の目標を胸に、情熱をもってクラブに取り組んでいる。しかし中には、「大学生にもなって……」とか、「こんなだるいこと……」とか言って、他人のやる気までも吹き飛ばしてしまう者もいる。そんなことは決してしてはいけない。大学生だからこそ、一生懸命何にでも取り組むことができるのである。一生懸命やろうとしているやつをバカにしてはいけない。一生懸命やることを恥じてはいけない。たとえ恥ずかしくとも、その闘志を捨ててはいけない。秘めた闘志として自分の心にしまっておけばいいのである。

シーズンに入れば「大学生にもなって……」という考えは一切捨て、“大学生だからこそ”できることをやるのではないかと。そして、熱い闘志を抱いて、関ボロを始めとする数々の試合の目標に向かって前進していこうではないか。

強くなるためには

競泳主任 小笠原 朝 隆

スポーツをしている者は誰にでも、伸び悩みの時期というものがあるものである。よく「壁にあたる」などと言われる。特に競泳ではタイムによって明確に表れ、こんな時我々は、もうタイムが伸びないのではないかと、自分には素質がないんじゃないかと考えてしまう。はっきり言って私は「スポーツは素質」であると考え。だからといって、壁にあたったらもうあきらめろ、と言っているのではない。自分の素質を出しきっているような選手は、世界のトップ、あるいは日本のトップを競っている選手だけだと思う。個人差があるにしても我々は、素質を隠しもっているはずである。まだまだ速くなる可能性をもっているのである。では、どうすれば眠っている素質を呼び起こし、壁を越えることができるか、まず自信をもつことである。わずか1/100秒でもベセットができれば自信がつくはずである。これが大きな飛躍につながるのである。それには練習である。また、練習によって「これだけやったんだ」という自信でもいいと思う。いずれにせよ練習をするのである。泳いで泳いで、自分の素質を最大限に出す努力をするのである。そして、一つの壁を越えた時、強くなるのである。当然ではあるが、神大水泳部には強くなって欲しいし、強くしようと思う。そのために、部員の一人一人が強くなるように、努力と工夫をして欲しいものである。

水球への意欲

水球主任 林 均

水球は団体競技だ。また、7人だけが旨ければそれでよい、とも言えない。レギュラーの7人だけが水球を知っていてもチーム力が上がるわけがない。部員全員が水球をよく知り、レギュラーメンバー7人に、いや、13人に入るにも個々の部員同士の激しい競争があることが、強いチームであるための必要条件だろう。今、我がチームには数々の先輩方の協力を頂いてはいるが、上から見てもらえるコーチがいない。上からたたかれることなく自分達で考えて練習していかなければならない。自分の意志というものが水球の技術の向上に大きく影響するわけだ。うちのチームで感じることは、皆冷めていること。レギュラーだから、どうせ練習しても試合に関係ない、という雰囲気蔓延している。上級生は責任感や緊迫感などからヤル気は出てくる。下級生に言っておきたいことは、上になってくるとどうせやらなければならない、ということである。その時になって焦るのだ。その時になって、きっと後悔するのだ。自分はボロがわかっていないから口出ししにくいとか、自分はうまいから言われなくていいとか、プレーを後で言い訳するとか、きっと誰もが思い当たる節があるだろう。それらは何一つチームの向上にはつながらない。あまりわかっていなくても、上級生に対してであろうと、思ったことは何でも言えばよい。団体競技にはコミュニケーションが必要だ。冬の間は体を維持しておくだけでいい。しかし4月になったら、せめてClubの時間だけでも水球のことを考え、何でもいいから水球について話してみよう。まずそうすることがボロを知る上で最短距離であろう。聞けばきっと、誰でも答えてくれるはずだ。

マネージメントの重要性について

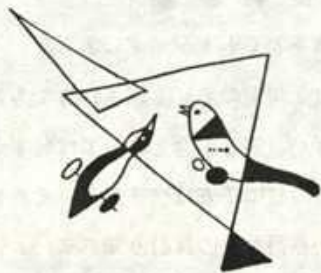
主務 古谷拓裕

我々の目標は、全ての試合において勝利することである。マネージメントは、その目標達成のために派生的に生じたものと言えるかもしれない。したがって、現在の水泳部では軽視される傾向にある。しかし、敢てマネージメントの重要性を述べたい。

水泳部の活動は、OBの方々や大学当局から受ける種々の援助なしには成立しない。援助=期待の表れ、であるならば、我々は期待に応えるために一体何をなすべきなのか……。私は“勝利”と“誠意”であると信じている。“勝利”とは、種々の試合において勝つことであり、これ以上言及の必要はない。ここで問題としたいのは“誠意”である。これは、クラブの運営を誠意をもって行い、常に信用を維持していくことにはかならない。

水泳部は、その運営を部員自身の手によって行っているのであるから、各部員は、与えられた仕事を責任をもって遂行すべきである。しかし、全ての部員がマネージメントに参加する必要があると受け取られていないためか、いいかげんな仕事をする者が多い。また、マネージメントは主務及び副務に任せておけばいい、雑務に関係したくない、という考えが存在する。これらは、水泳部が誠意をもった運営を求められていること、マネージメントには部員全員が参加しなければならないことの認識の欠如からおこる。

なぜそうすることが必要かを理解し、責任をもって与えられた仕事を遂行することが、全部員に求められる。このことを自覚することによって、マネジメントの体制は理想的なものとなり、真に誠意ある運営がなされるだろう。また、問題の多いクラブという評価も払拭されるにちがいない。部員の自覚を喚起して筆を置きたい。



ていた、と言うことが出来るからである。

しかし私は、大学生活のその全てを水泳部に注ぎこんだとは決して言えない。人並に単位は欲しかったし、遊びもしたかった。しかし、私の高校時代を思い起こすと、その全てはスポーツと勉学に注ぎ込まれていたといえよう。その純粋な気持ちを持ち続けて、神戸大学水泳部も完遂したかった、というのが唯一の、私の後悔しても後悔しきれない点である。

最近の風潮として、結果のみが重視され、中身が軽視される傾向がある。が、私が思うに、一つ一つのイベントが、そしてその結果が重要なのではなく、その目標に向かって、即ち、勝利に向かって純粋に自分をぶつけていく、そしてそこから何かを得て、自分のものにするそこそが重要だと思うのである。神大水泳部もその点を充分認識してもらいたいと切に希望する。

最後に、御世話になりっぱなしであった諸先輩方、私の我儘を暖かく見守ってくれた同輩達、支えてくれた後輩達に感謝の意を表しつつ、筆を置きたいと思う。

(平1 農) 黒田 茂

4年間の大学生活を振り返ってみれば、そのほとんどを“水泳部”が占めていた。本当の様々なことがあった。色々なことを経験した。

しかし今思えば、よく4年間続けられたものだと思う。ちょっとしたこだわりと劣等感から始めた部活であった(もちろん、水泳は好きだったが……)。一時は「やめる、やめない」とグダをこね、クラブ——特に同回生の人——には迷惑をかけた(結果的には、これがうちの学年をまとめるキッカケとなった?!)。また、ある時はマネージャー業にまで進出した。そして再び選手復帰。こんなわがままな私に愛想もつかさず優しくして下さった先輩方、副務として、主務として、先輩として頼りない私に従って来てくれた後輩達、そして私をいつも励ましてくれた同回生の皆さん、本当にありがとうございました。

私はクラブを通して多くのことを経験し、多くの人々と知り合い、それによって人間的に少し成長したように思います。ろくな記録も残せなかったけれど、水泳部で得たものは何にもかえがたい大切な宝です。

後輩の皆さんも水泳部を通じて多くのことにchallengeし、様々なことを経験して、自分自身をひとまわりもふたまわりも大きなものにして行って欲しいと思います。

それでは See you /

(平1 工) 竹本和広

ため池、禁煙パイポ、サンコトブキ、態度のでかい1年生、松陰のマネージャー、いきなりしん

どい練習、ビールをあてにビールを飲む、刈り上げの女の子、けだるそうな奴、生き残りゲーム、松田聖子のコンサート、高校が気に入らん、溺れるノ、物静かな男、丈夫な女、嘔み付いて御免なさい、対面バス、左利き、関ボロジュニアは優勝だノ、がんこの筆筒、P.S コンバ、貢さん、やめてノ、川上のスカート、地獄、名古屋の夜、私の知らない世界、ユニバ、ギョーザ、国分寺のゴミ箱、駅伝、本田美奈子、岩岳、八方尾根、師匠、タケちゃんわがままなんだから一、壁の向こう、シュナイダー、ホテル青山、ウィッキー、サーフィン、守沖の下宿、こたつ、運転免許、死霊の餌食、なかなかの遊び人、前庭の花見、あかんノ、通り抜け、復活、ジャリ研、くやしい、1-2-3、ポロポロ、中州、平和公園、東大、学習院、仮進、暗闇、イタチ、女学院、アドルフでボン、辞めてしまえノ、モロッコ料理、合コン、火事、カラオケ、カルチャーショック、もうええわ、ビデオ、俺の友達やけど、怪気炎、好きにして、ジェイソン、和歌山の悪口、浅草、テレビ?、マジ?、そっとしといて、お前は間違っている、根性焼き、鬱、卒研、トモコ先生の場合、メニュー?、別世界、御無沙汰、見納め、スリッパ、150万、催促、おしまい。

(平1 法) 守 沖 敦

— SENTIMENTAL REVIEW FROM EDINBURGH —

卒部の辞を書くなんて、遠い先のことだと思っていた。現在遠い異国にいれせいか、クラブのことを思い出すと、心がただ熱くなり、何を書いているのかわからない。

初心者の、しかも田舎者を、ただ修道出身ということだけで歓迎してもらった4年前。今思えば俺の選択に間違いはなかったと信じる。何もかもが新しい体験、鬼の様に冷たい水、一生つかっていたいと思った熱い風呂、疲労と空腹で歩くこともままならなかった練習後、六甲下宿面の人達に連れて行ってもらった飯屋、最初から生活の全てが水泳部だった。水泳部を親のように頼っていた。ところが主将になって、今度は俺が部の面倒を見なければならないとなると、そいつは、勝手気ままな鬼子に変身する。俺の手には負えない、何度そう思ったことか。だが、なんとかやり終えることができたのは、金さん、田中さん、原田さんを始めとするOBの方々、特に在部中は我がまま大集団だと思っていた一つ上の、多数大学に残られた先輩方、そして、やはり同学年の奴らの頼まれなる協力のお陰であろう。CYNICALに言えば、それだけ俺が情けなく見えたのであろうが…。

水泳部が好きだ。バカな先輩、アホな同輩、そして、もうどうしようもないくらいに、とんでもない奴らばかりの後輩が大好きだ。これからの健闘を祈る。

(平1 教) 川 上 景 子

水泳を続けたくて、まだ記録に可能性があると思っていて、神戸大学水泳部に入った。この4年間、

記録に伸びはなかったけれども、女子でリレーを組み、団体として得点争いをする中で、初めて団体競技としての競泳を感じる事ができた。最初是指導者のいない練習にとまどい、少々さぼることも覚えてしまった。それでも飽きもせず練習を続けてこられたのは、自分がやらなければチームが成り立たない、という自負が強かったからだと思う。楽しくて練習に集中した日もあれば、嫌で仕方のない日もあった。でも、そんな日でも六甲台に足を運ばずにいられなかった神戸大学水泳部への思いを、後輩たちにも持っていて欲しいと思う。

最後に、4年間、私のまわりにおいて私を支えて下さった方々に対して、心から感謝致したいと思います。多くの思い出をありがとうございました。

(平1 教) 村上 美和

やっと4年間の大学生活が終わります。「大学生になったのはまちがいだ」とか、「水泳部やめたん？」とか色々言われ続けてきましたが、ようやくここまでこぎつけました。

そして15年間という私の競技生活が、昭和といっしょにあっけなく終わってしまいました。思えば、高校卒業が転機だったのでしょうか。それよりもずっと以前だったようにも思います。長かった、本当に長かった。水泳をこんなにもひきずってしまったことは、私にとって生涯唯一、そして最大の過失となるであろうことを今、自分のことながら悟らざるを得ません。これまであまりに順調で、つまづくことなく過ごして来れたことのしっぺ返しなのかもしれません。

しかし、他に夢を追う勇氣も持たず、過去の貧しい栄光を捨て切れずに、再び水泳にすがりついた私が、この神戸大学体育会水泳部で費した4年間に、偉大な先輩方、気兼ねない同輩たちや、可愛い後輩たちを与えられた幸福は、例え望んでも得られるものではありません。何ひとつ先輩らしいこともできず、何を残してあげることもできない私を、それでも慕ってくれた後輩たち、今まで自分の一匹狼っぽい生き方をよしとし、割り切っていたはずであった私に、人のつながりとは温く有難い、と感じさせてくれました。

自分のしたこと以上のものが必ず返ってくる、ここはそんなところです。最後になりましたが、水泳は人によってそれぞれ目標は異なりますが、いつも目標を見失わずに向上し続けて下さい。

継続は力なり、夢は抱き続けなければ、手にいれることはできません。

健闘をお祈りします。

彼は、いったんしゃべり出すと止まらない。まるでマシンガンのように、ドドーと言葉がとびだしてくる。さあ、たいへんだ、たいへんだ。誰か彼をとめてくれよ。

彼のフリーの泳ぎは、まるで巨大なツニが突然おそってきたかのような感じがする。はつきりいって、恐怖を感じる。ああ、食べられたらどうしよう。

こんな彼でも、麻雀の強い、見た目とはちがって、とても優しいお兄さんなんだぞー。わかったかー。ワッハッハッ。

羽 瀬 智 文 (副務外渉) ; 法 4 : 自短 : 港高

水泳部の中でいやらしい人の一人と言われている彼は、筋力トレーニングにも余念がない。練習には非常に厳しく、六甲祭が終わってもまだ泳げる、との言葉に怖れを抱いたのは私だけではないはずだ。余りにも練習熱心な為、彼はこの夏、専属マネージャーを連れて沖縄に遠征に行ってしまった程である。

彼は又、“変なおじさん”とも言われている。それに“少年ジャンプ”を愛読していたりする。彼には家が2つあったりする。1つは大阪に、もう1つは六甲台水泳部部室に…。こんな彼ではあるが、今年は「俺も男だ!! 二度目は……」という考えを心の内に残しながらも、六甲台のプールでまっ黒に日焼けしながら、一発やってくれるであろう。

林 均 (水球主任) ; 工 4 (化工) : 平 : 膳所高

彼は、一見バツフルに見える外見に不似合いな、なよなよした物腰、ニヤニヤしたしゃべり方、ヘラヘラした顔が魅力のすてきなセンパイです。彼の回りには、いつも女の影がちらほら。彼の車の助手席のシートのスプリングの具合がどうもおかしいとか、彼の肩越しにみ×こが見えるとかいった噂も耳にします。又、コンバの席に「むいおちゃん」という、あの独得の口調で、いつも3回生Kさんを独占しています。人のくつ下をむやみやたらと脱がせたり、人の足をかんだりするのも、実は彼の仕業なのです。何はともあれ、彼は水球主任。自慢の胸毛のおかげでTV出演をカットされようと、水球において最も輝いている彼。頼りにしてますよ。

古 谷 拓 裕 (主務) ; 営 4 (商) : 自長 : 大田高

彼の試合にのぞむ姿勢は非常に厳しく、思わず周りにも緊張を与えてしまう。彼の自分自身に対する厳しさのゆえであろうか。少々謙虚すぎるのではないか、と思うほどの冷静な分析で反省をくりかえし、そのおかげで、記録をどんどんぬりかえるすばらしい結果を、毎試合ごとに生みだしているのである。ほんとうにすごい人だと思わずにはいられない。しかしながらコンバの席においては、すぐに酔いつぶれてしまい、まっ赤になって周りにいる女の子を口説いたりもするお茶目な一面ももっているのである。

村田 功；営4（経営）：個：洛星高

彼には独得の雰囲気があるんやね。せやから彼の一言は、とてもパワーがあるわけやね。なんでかっていうと、こんなしゃべり方やからやね。でも、お酒を口にすると一変して、妙に明るいおしゃべりな変な奴になるわけやね。そのときにも冷静さは失わないで、話が自分の方にふられると、のらりくらりとうまいこと逃げてしまうわけやね。試合で泳いでるときも、なぜかいつも「村田、もっとまじめに泳げよー」と、皆に言われてしまうわけやね。彼は、いくら一生懸命していても、どこかさぼっているように見られてしまうわけやね。最近では、あのヴェールに包まれていた私生活が少しずつ明らかになっているようで、少女Mさんとの幸福な日々も噂されているわけやね。なにはともあれ、彼のますますの御活躍を我々は期待しているわけやね。

枝澤 百合子；教4（教育衛生）：自短：明石清水高

いつもニコニコ笑顔の絶えないエダコさんは、お陽さまのようなあったかい人です。そして、そのあたたかい心でいろんな虫さんともお友達になってしまったり、時計屋さんにサジを投げられたような故障したストップウォッチさんも分解・修理し、現役復帰させてしまうのです。でも練習には、普段とは別人のように厳しい表情で真剣に練習に取り組む、ほんとうに頑張り屋の先輩です。「変なエダコ」と言われ続けた先輩ですが、今では2回女子のMさんに「変な」という形容詞を受け渡し、女子面の主将として、ますます活躍してくださることでしょう。

（三回生）

赤木 大輔；経3：自：白陵高

昭和63年秋、どこからともなく水泳部に現れ、いつの間にか水泳部員となっていた彼の正体は黒いヴェールに包まれていて、いまだ謎のままです。毎日クラブに来ては、表情ひとつ変えずに黙々とトレーニングメニューをこなす彼。しかし、マイペースでおっとりしたしゃべり方に、イライラを感じたのは僕だけではないはずだ。こんな彼が原田さんに似ていることは、隠しきれることではない。

井上 達晃；理3（生物）：背：六甲高

合コン、ダンバにそのひげ面をちらつかせ、女のためにクラブの某行事を欠席したと噂されたりする、ちょっぴりLIGHTな彼。遅刻しちゃって全種目泳がされちゃったりする彼。今年は私生活において、大どんでん返しの危機にさらされ心を痛めたときもあったけど、車の免許も取ったことだし、人生楽ありゃ苦もあるさっ。第二の〇〇さん目指してスタン

バイOKのようです。競泳においてもベストタイムを更新して絶好調の彼。今年もがんばって下さい。

笠田 幸介；法3：平：長崎青雲高

彼は幸せ者の一人である。彼は今年、バイクを新調してのりにのっている。また、今シーズンはベスト・タイムを出すなど好調であった。ところで、これは噂であるが……、インカレで東京に行った時の話である。彼は試合の終わったあと、夜の町をぶらぶらして、ふと入ったDISCOで女の子をナンパして、そして「彼女、彼氏いるん？ おれ、おらんねん」と、まあ、ぬけぬけとうそこきしたそうな。その後、彼は夜の町へと消えていったような。信じられん奴である。

柴田 英之；農3（農化）：自長：金蘭千里高

ぼくは、しばたせんばいはとてもかわいそうなひとだとおもいます。いつもなにかという、があるふれんどのことで3かいせいや2かいせいのひとたちからひやかされています。でも、しばたせんばいには、かのじょはいないそうです。ちゅうがく、こうこうをだんしこうですごしたせんばいは、6ねんかんで3かいしか、おんなのことはなしたことがないそうです。そのほんどうでいまは、じょうねつのすべてをおんなのひとにかけ、「ギラギラの柴田」とあだなされています。それでもしばたせんばいは、げんきにごうこんとかにいかれたりします。それからまた、せんばいにひやかされています。とてもかわいそうです。このあいだは、しょうえいのへるめつとにらくがきされていました。でも、くらぶのだれからもどうじょうしてもらっていませんでした。きっと、このよでせんばいにどうじょうしてくれるのは、“ひでゆきちゃん”とよんで、せんばいをかわいがっておられる、せんばいのおかあさまと、このぼくだけではないでしょうか。ぼくは、しばたさんはかわいそうだけど、とてもえらいひとだとおもいます。

当麻 尚正；農3（農工）：蝶：畝傍高

魔女の悲鳴か、やまんばの雄叫びを思わせるかん高い大きな声にグリグリ眼鏡、なんだこいつ、来るとこ間違えてるぞ、といった感じの、一見我が水泳部には全く不必要な人物に見えるのが彼である。コンバで暴れだすと手をつけられなくなり、逃げまわる女の子を追っかけてはビールをぶっかけ、無差別に近くの人間をなぐる、ける、噛みつく、と、危ないことこの上ない。また、農家に生まれて、幼少の頃より一日一度はクワを持ったため、土の香りのする汗をかくという奇特な人間であるが、泳ぐたびにベストを出し続ける、競泳面を支える一人となっているのです。

中 川 篤 俊；医3：自短：韭山高

彼とはあまり顔を合わすことがない。それは、彼が練習に来ないからだろうか、それとも僕が練習に行かないからだろうか。それは定かではない。僕が彼を見た数少ない機会の中で最も印象深いものは、京阪神戦で同志社大学へ行った時、何を感じたのか、彼が女子更衣室に入って行ったことである。また、彼はお酒が大好きである。進級を左右するテストの前日ですえも、コンパで焼えつきてしまったという“すすめられたら拒まない”というポリシーをもつ彼は、時々そのせいで自分を失ったりもするが、いつもは気の良い人間である。

東 圭 紀；工3（建築）：個：桐蔭高

彼の名は「モンキー東」またの名を「さるよしき」。和歌山水泳界において「モンキー」という言葉を聞いて彼を想像しない者はいない。聞く所によると、10年余りもの間、一度も本名では声をかけられず、いつも「モンキー、モンキー」と呼ばれていたそうである。本人はそのことに全く違和感を覚えず、また最近、こう呼ばれることがめったになくなったので、いらだちを覚えるという。その彼が我々に一番心配させたのは関カレの日だった。その日彼は、何とアップの時間が終わっても姿を見せず、「何かあったのでは」という心配の中、予戦の寸前になって現れたのであった。しかし、アップなしでも予戦に通るなど泳ぎの速さには素晴らしいものがある。今年はぜひ、泳ぐ速さもさることながら、集合に来る早さも磨いてほしいものである。

三 宅 正 樹；経3：平：摂陵高

彼はかわいい。いつ、ジャニーズ事務所からおさそいがあってもおかしくないほど。“女の子”と言われつづけた彼であるが、男に目覚めたのか、強じんな肉体を求めて(?)日夜練習に積極的に励んでいる。そればかりか、他方面にも積極的だとか……。A氏に誘われて行ったダンパで、A氏と3回Tさんが話をとりつけ、1回Iがやっとの思いで聞きだした電話番号を、とんびが油あげを取るかの如く、かわいそうなIの手からかさらい、個人攻撃をかけてしまうほどである。そんな彼も、OFFに影ながら地道な努力を重ねていたので、今シーズン、おおいに期待できることだろう。

寛 朋 子；法3：背：豊橋南高

テスト休み中に中型BIKEの免許をお取りになり（実は免許取得前にすでにBIKEを購入していたとか…）、パチッと皮ジャンで決めて、ブンブン飛ばしておられます。一見ほっそり(?)として、かよわそうに見えますが(??)、バーベルをひょいひょいと持ち上げられます。何と言っても、元体操部のせいか体が柔かい。ストレッチでは、みんなの目

が点になってしまう。唯一の3回生女子SWIMMERですが、これからもがんばって頂けると期待しております。

P.S. BIKEでこないように気を付けて下さいね。「えっ!」

小島 未央;教3(初等):マネージャー:長田高

コンバの席ではビールを抱きしめつきまくる……と噂の高かった彼女だが、つがれる側にまわった某コンバでは、顔を赤らめて、飲むわ飲むわ。いったい何が彼女を変えたのか? インカレで男子部員が東京に行ってしまうと、いきなりプールサイドに水着で現れ、女子面と共に軽くメニューをこなしておしまいになり、「私、長田高校出身ですもの」と、のたまう。また、この秋、突然化粧はじめ、車まで購入した彼女。いったい何がそうさせたのか? このように行動パターンの全くよめない先輩であるが、仕事の方は正確そのもの。頼りになるマネージャーだ。

戸井 浩子;教3(初等):マネージャー:長田高

とりあえずデカイノ 体も大きいけど心も大きい。ひもじい下宿生に、実習でつくったサラダをくれたりするほど優しい大きな心を持っている。その大きい体については、いつも4回生からいろいろ言われるけど、少しもそれに動じない大きな心を持っている。そんな彼女には、またまた大きい足の長い彼氏がいたりする。でも、電卓よりも正確にタイムを計算する能力には驚くばかりである。

P.S. 図書館でデートなされると、すぐ見つかりますよ!!

(二回生)

青木 浩介;経2:個:小倉高

全くもって、おろかな奴としか言いようがない。ただでさえ貧乏なのに、見栄を張ってバイクを購入したため、3ヶ月もの間、来る日も来る日もカップラーメンをすすって生き延びたという。しかし、それでも借金は消えず、この年にしてすでにサラ金地獄を体験している。しかし天性の器用さによって、水球においては抜群のセンスを見せている。中でも骨と皮だけなのではないかと思われるその体からくり出される必殺の「あばらばねシュート」は、元全日本水球選抜チームの某コーチをして、「やるじゃない」と言わしめたほどのキレの良さを持つのだ。「ありゃま……」

一 越 健治;経2:水球:奈良学園

酒好きということに関しては、おそらく彼の右に出る者は全国を探してもいないであろう。しかし、その性格が災いとなり、かつて試合後のコンバで、大ジョッキ20杯ものビールを

飲み干して意識を失っていたにもかかわらず、さらになみなみとつがれたコップ2杯のウイスキーのストレート(総量約500ml)を続けざまに飲み、その直後、滝のようにグロを吐いたという経験をもつ。そのため彼は「グロ越」という異名を持つのである。さらにその日の彼の進撃はそれだけにとどまらず、その夜お世話になった先輩の下宿の床という床をグロの海にしたうえ、翌日、グロが奇妙な模様をかもし出している汚ない服を着たまま、六甲から奈良まで電車に乗って帰ったという。まさに歩く大気汚染である。

井上 聡；工2：自短：北須磨高

「あっ、すぐるさん、こんにちわ」と、会うと思わずさんづけで呼んでしまう。理由は、OBのような外見に秘められている。コンバの席では、会社帰りのくたびれたおっさんの如く、どんよりした目つきで酒をお飲みになり、すぐ横になられる。と思いきや、コンバにおける部内の恋模様などを、ひそかに観察されたりもしちゃうCHECK男でもられる。そんな彼も試合においては、「なぜ、あの野ブタのようなBODY LINEで?」と思わずうめいてしまう体型で、ちゃっかりリレーなんかにも出ちゃうのです。

小南 裕明；医2：蝶：桐蔭高

意味不明の和歌山弁でさわぎまくり、「なたチョップ」であばれまくり、手のつけられない彼であるが、「少年ジャンプ」と「機動戦士ガンダム」をこよなく愛する彼の精神年齢は、まるっきり小学生と変わらない。彼はコンバで酔っては、看板を盗んだり、人からんだり……。彼の被害者となった者は、1人や2人ではないはずだ。そんな彼も、水泳に向かう姿勢には目をみはるものがあり、冬でもせっせとSwimmingに通っては体をきたえている努力家である。又、動物に対しては彼の優しい一面を出し、周りの者をほんわかムードにしてくれるのである。今後も競泳面のPoint Getterとしてがんばってくれるだろう。

城 一 男；営2：自短：戸畑工

“いるかに乗った少年”“あしたのジョー”などと言われ、そのインパクトの強い名前とはうらはらに、案外影のうすいのが彼である。ちゃっかり者の彼は「無口な城」と呼ばれながらも、やることは、しな一と人知れずやってしまう奇妙な男である。仲良しのA君をだしぬいて、バイトはするわ、Dioは買うわ、筆者に女は嫌いだと言いながらも、しっかりダンバにも行ってしまふ。いつもは無口な彼も、愛車Dioを購入したときは舞いあがって“Dio買ったよおん”と、おどけてみせたらしい。酒屋の息子である彼は、酒に弱いふりをしながら、飲むときは底がないようである。いろいろ驚かされることの多い彼であるが、初心者ながら練習中とは一転した試合での泳ぎは、こわいものなし……。か

どうかは知らないが、期待できます。その長い手足を活かして、競泳に水球に頑張るでしょう。

染谷 光裕；理2：自短：住吉高

かつてバイクを買う金欲しさに2週間もの間、地底で下水工事のアルバイトをし、それがもとで視力が落ちて、眼鏡をかけることを余儀なくされた彼も、最近ではオモチャのバイクにまたがって神戸の街を走りまわる走り屋にまで成長した。そして彼のモットーは“手早く、手広く、まめに”である。何のことかって？ それは、お・〇・なのことさ。彼が女の子と歩いている姿を目撃した人は、1人や2人ではない。そんな彼も以前の地底生活のなごりか、長時間太陽に照らされると気分が悪くなる、という弱点もある。しかし、彼には弱体フリー陣のためにも頑張ってもらわなければならない。

高岡 英一郎；工2：蝶：新居浜西高

彼は短気だ。新歓では某先輩を殴り、試合後のコンパでは同輩をぶちのめす。ほんの些細な原因でも、一旦頭に血がのぼると、彼のパンチは止まらない。しかし、彼はとても貧乏である。下宿にはあまり食べ物もなく、いつも疲れきっている。また、彼の顔は無表情なダチョウに似ている。口をポカンと開けて放心状態になるのは日常茶飯事だ。ところが、たたみがかつがせれば彼の右に出る者はいない。

中村 勇；理2：水球：鴨沂高

京都出身の彼は京都が大好きである。京都のことなら隅から隅まで知っていて、何でも丁寧に教えてくれる。そして、その京都にある水球の名門校で水球を学んできた彼は水球も大好きで、水球のエースである。彼の生活の実態はナゾにみちている。パチンコ好きで、新装開店を求めてうろついている、ということ以外を知る人は少ない。いつもマイペースで自分の道を歩んでいる、という感を与えている。昨シーズンも水球面ですばらしい活躍をした。しかし、彼は黙って部屋に入り、黙って部屋から去って行く無口な奴だ。

安居 武彦；法2：自短：西宮高

奴は無謀だ。野口Gに入って司法試験をひそかにねらう。奴はSingerだ。ビートルズをこよなく愛し、ギターをつまびく。奴はLightだ。曾根Gに入ったからといって文学部へ転部したが。奴はカバだ。Endless Nightを毎回ビデオ保存し、喜ぶ。奴はDangerだ。初心者J君にTimeをつめられ、尻に火がついている。奴はUnluckyだ。コンパでは、いつも隣りの人間のグロを浴びる。奴はしたたかだ。東京インカレで女の家で一夜を過ごす。だけど、そんな彼ももしかしたら、ちょっとはいい奴なのかも知れない(フォローになってない)。

山 崎 秀 樹；法2：自短：清風高

ギンギラギンのグラサンに、やたらと派手な吊りバンド、時によっては、ここにあずき色のネクタイが加わり、さらによれよれのGパンのポケットに両手をつっ込んで、肩をいからせて歩く黒い物体を見かけたら、彼と違って間違いない。自分では完璧だと思っているのであろうこのファッションも、傍目から見れば「あほとちがうか、おっさん」のひとつとで片付けられてしまう。しかし、そんなことなどものともせず、今日もグラサン、吊りバンド、アズキネクタイの三種の神器を身につけて、三宮の街をクロクロ歩きまわる。おまけに、卵のカラやティーバッグ、果ては馬フンまで食べてしまうという、まさにゴミ箱のような奴である。ところがどっこい、なぜか女の口には人気があって、常時十数人もの彼女をはべらせているという。全く理解不可能なおやっさんである。

大 江 千 晶；教2：平：神戸女学院

彼女は病弱である。去年の夏は、あのHardな練習をこなし、数々の試合に出ては貧血をおこしながら泳いでいた。そのせいか、ただ今療養中である。しかし、彼女は一見ふつうに見えるが、やっぱり水泳部員だなあと思わせる妙な子である。彼女の考え方は、6年間女子校にいたせいであろうか、やはり妙である。でも、彼女は非常に努力家であり、我慢強い子であることは間違いない。ケーキの差し入れをするなど、優しい面もある。彼女は付き合えば付き合うほど変な子であることが判明してくる。

小 澤 佳 代；文2：マネージャー：四日市南高

「私の好きなものは、厚化粧、ディスコ、夜遊び、長電話、みかん、いもさくくん、とかいっぱいあるの。欲しい車は、やっぱりジャガーね。それから、クガするの得意！ 新車の原チャリでドブにつっこんで、ひざに穴あけたり、下宿の階段を踏み外してころげ落ちて廊下に穴あけたり、いっつもなんだ。あは。そしてコンパの時は、いっぱいお酒飲むの。でも、いくら飲んでも酔わないの。だって私、お酒に強いんだもん……。」
こんな彼女は、やっぱり親不幸娘にちがいない。

北 岡 由 香；理2：自短：奈良高

彼女は、シーズン・オフに入部した将来有望の新人だ。陸トレの時のコーディネートにも気を使う程オシャレだ。私としては女子部員が増えて、とってもとっても嬉しいが、幾つか心配なことがある。そう、彼女はまだ知らない、あの真夏のプールの「不吉な国防色」を……。体育会水泳部の自己紹介を。それらはあまりにもポップだ。トレンドリーにしてハードだ。新鮮にして狡猾だ。体育会の根源的な世界観は、おそらく常人の概念をはるかに、原則的に、本格的に、徹底的に越えているであろう。そのカテゴリーは、彼女の認識

の外にある。しかし近々、きっと立派な「水泳部の女子メン」となってくれるはずだ。

宮 下 静 子；教2：平：四天王寺高

「ムダめし食らいのデカ女」と言えば、誰もが真っ先に彼女を思い浮かべるであろう。本人は全く自覚していないが、月収20万円という強みを悪用した横暴な振る舞いは、とどまるところを知らない。しかも、ひとたび悪魔の水(=酒)を口にすると手がつけられなくなり、辺りをドタバタと走り回り、「ギャハハハ」と大声で笑う。その姿は、キチガイのあほんだらクツババアという言葉以外で表現できるものではない。しかし、「パワー全一丁で上がり」というフレーズを、内心とても気にしてるらしい。また部屋の中には、かわいいぬいぐるみがたくさんあることは、あまり知られていない。

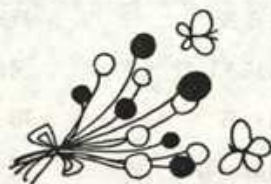
村 本 由里子；営2：自短：光丘高

「そうですねえ、僕が彼女を見た初めての感想は、何か、か弱そうな女の子だなあ、ってことでしたねえ。泳いでもすぐに疲れて息が切れるし、コンバの時も、ずっとおとなしくしていましたねえ。ところが彼女、実はものすごく強いんですよ、これが。泳ぎも日増しに上達して、今では男子部員Yよりもバタフライが旨いぐらいでしてね。それに、全国じゃあ、某男子部員と酒の飲みくらべをして勝ってしまうほど大酒飲みだったんですねえ、これが。まあ、人は見かけによらないってことですかねえ。」

しかし、彼女が突然ショートカットにした理由は、今だに謎である。

山 口 明 子；営2：マネージャー：長崎西高

彼女は外見のみならず行動まで中学生、いや、小学生のようで、自分で自分のことを「あっちゃん」と言うなど、とても大学生とは信じられないのは私だけではないはずだ。また彼女は、酔っばらってしまうと、何をしたか覚えてないそうだ。長崎育ちなのに、口から出てくる言葉は変な標準語である。そんな彼女が、もう2回生になるかと思うと頭が痛い……。 「えへっ」





1988年度 活動報告



昨シーズンは、関西インカレ二部昇格、悲願の関ボロ制覇も成らず、シーズン最終戦の関ボロJrでは、第3位という戦績に終わった。競泳、水球両面での主力選手が抜けた新チームは、前途多難な来シーズンに向けて、オフシーズンのトレーニングを開始した。冬季は、例年のごとく週3回、神戸イトマンで練習させてもらい、陸上では、ウェイトトレーニングを中心に、個々の練習量をノートに綿密にチェックしながら着々と筋力強化を進めた。3月からは、関学の温水プールを使わせてもらえるようになり、水球の合同練習を行った。春合宿では、OB金ヘッドコーチの御尽力で、奈良のレイクフォレストリゾートという、学生の分際では勿体ない程の絶好の環境・施設のもとで泳ぎ込みを行うことができた。そして、何とんでもプレシーズンでの一大改革は、“ウェットスーツの導入”であった。夏でも暑さを感じない程の我が六甲台プールにおいて、ウェットスーツはまさに天の恵み、いや“OBの恵み”であった。そのおかげで4月下旬から六甲台プールにおいてボロ合宿を行うことができ、ボロの下地も十分にき上がっていた。そしてシーズンイン……。

今シーズンの目標は数々ある。競泳では、関西インカレ一部復帰を柱とし、兵庫インカレ連覇、関国優勝、そして、神大の名を全国に轟かす絶好の機会である全国国公立大会での上位入賞。水球では、勿論、関ボロ優勝。我々は、燃ゆる思いを胸に今シーズンに望んだ。

P.S. 春合宿において、いろいろとお世話になった金ヘッドコーチ、ならびにウェットスーツのために寄付金を集めてくださった田中克己氏を始めOB諸兄に、誌面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(岡崎 記)

4月上旬	春季合宿	京都府レイク・フォレスト・リゾート
4月29日～5月3日	水球合宿	六甲台プール
5月7日	新入生歓迎コンバ	六甲台生協食堂
5月15日	凌泳総会	六甲台教官食堂
6月5日	京阪神三大学戦	同志社大学プール
6月18・19・25・26日	関西学生水球リーグ戦	大阪市大プール
7月3日	兵庫県学生選手権	西代プール
7月16・17日	関西国公立戦	大阪府大プール
7月24日	旧三商大戦	六甲台プール
7月29～31日	関西学生選手権	大阪プール
8月12・13日	全国国公立大会	島根県立プール

8月20日	対大阪市立大戦	大阪市大プール
8月22・23日	近畿国立大学体育大会	大阪大プール
8月27～31日	日本学生選手権	中央大プール
9月10・11日	関西学生水球リーグJr戦	大阪市大プール
9月18日	月見の宴	六甲台プール
11月12・13日	六甲祭	
1月8日	初泳ぎ	県立健康センター
3月18日	追い出しコンバ	ランス

京阪神三大学戦

今シーズン初の競技大会となった京阪神三大学戦は、緑の広がる同志社大学の Campus 内の、六甲台のプールとは比較できないほどきれいなプールで行われた。

大学に入学してから水泳を始めた私にとっては、生まれて初めてのレースである。50mでさえ、ろくに泳げなかった私が、100m Fr を泳ごうというのだから、朝から緊張の連続であった。スタートのピストルが鳴り響き、飛び込んだ。無我夢中だった。良いタイムを出すことよりも、完泳することだけを考えざるをえない状況だった。そしてゴール。泳ぎきった後のすがすがしさというものは、この上ないものだった。なによりも、プールから上がった私に声をかけてくださった、(当時)憧れのO先輩の「よくがんばった」という一言が、今も忘れられない。

私の記念すべき第一戦は、先輩方の力泳で京大を抑え、みごと1位で幕を終えた。

最後になりましたが、Beginners をご指導くださった甲野氏、郡氏、後呂氏に厚く御礼申し上げます。

(村本 記)

☆京阪神三大学戦

6月5日 於 同志社大学プール(50m)

・50m 自由型

田中	28-0	1位
羽瀬	28-8	2位

・400m 自由型

小笠原	5-11-5	2位
井上(聡)	5-22-5	3位
柴田	5-39-3	6位

・200m バタフライ

小南	2-26-5	1位
当麻	2-37-7	3位
岡尊	2-47-1	4位

・100m 自由型

井上(聡)	1-02-0	1位
羽瀬	1-02-5	2位
奥村	1-03-6	3位

・800m 自由型

東	9-51-3	1位
柴田	11-55-9	6位
是枝	12-48-0	

・200m 背泳

小笠原	2-34-6	1位
井上(達)	2-41-3	2位
竹本	2-50-1	4位

• 200m 平泳

守沖 2-56-4 3位
植松 3-02-8 5位

• 200m 個人メドレー

当麻 2-32-5 1位
村田 2-39-2 4位
青木 2-56-2 5位

• 400m 個人メドレー

村田 6-13-2 4位
青木 6-41-8
黒田 6-50-1

• 400m メドレーリレー

井上(聡)、林、小南、東
4-34-5 2位

• 800m リレー

古谷、東、井上(聡)、小南
9-17-4 1位

• 200m リル

奥村、羽瀬、田中、白石
1-55-2 3位

総合

1位 神戸大 108点
2位 京都大 100点
3位 大阪大 22点

関西ポロリーグ annual 第2位

昨年度の凌泳に、今年は必ず優勝する、と書いておきながら、その報告ができないのは非常に心苦しい限りだ。

今年は例年になく水球に力を入れ、春合宿前は関西学院大学の屋内プールで合同練習、春先の冷たい水に備え、田中基金の援助で全員ウェットスーツを購入し、連休中に水球合宿を組み、練習試合も数こなして本番に臨んだのだが……。

阪大戦での、あの盛り上がりはどこに消滅してしまったのか？ 主力選手が次々と風邪で倒れ、間の1週間は、ろくにセット練習もできない有様、結果は御覧の通り。

チーム競技において、メンバーのベクトルを一つに集めることができれば、持っている以上の力を発揮することができるが、一つにまとめることができなければ、持てる力も出せない。選手の、いや、チームの関西ポロにかける情熱を一つにまとめ、持続させることができなかった責任は、主将かつ水球主任であった自分にある。

(守沖 記)

☆関西学生水球リーグ戦 6月18・19・25・26日 於 大阪市立大プール

神戸大	Q	関西学院大
4	1	0
5	2	0
4	3	1
6	4	2
19	計	3

1 田中	6 東	11 林 (6)
2 岡崎 (1)	7 村田 (2)	12 守汚 (4)
3 古谷	8 黒田	13 中村 (1)
4 是枝	9 三宅	
5 小笠原(4)	10 羽瀬 (1)	

神戸大	Q	京都教育大
4	1	1
7	2	2
7	3	0
5	4	1
23	計	4

1 田中	6 東 (1)	11 林 (6)
2 岡崎 (2)	7 村田 (1)	12 守沖 (5)
3 古谷 (1)	8 笠田	13 中村 (2)
4 植松	9 柴田 (1)	
5 小笠原(3)	10 羽瀬 (1)	

神戸大	Q	大阪大
2	1	1
3	2	3
1	3	0
2	4	3
8	計	7

1 田中	6 東	11 林
2 岡崎	7 村田 (2)	12 守沖 (2)
3 古谷	8 当麻	13 中村 (2)
4 羽瀬	9 是枝	
5 小笠原(2)	10 井上	

神戸大	Q	立命館大
0	1	2
2	2	0
2	3	1
1	4	2
5	計	5

1 田中	6 東	11 林
2 岡崎 (2)	7 村田	12 守沖 (2)
3 井上	8 当麻	13 中村 (1)
4 羽瀬	9 笠田	
5 小笠原	10 古谷	

神戸大	Q	京都大
1	1	3
3	2	4
0	3	2
2	4	2
6	計	11

1 田中	6 東 (1)	11 林 (2)
2 岡崎	7 村田	12 守沖 (1)
3 井上	8 当麻	13 中村
4 羽瀬	9 笠田	
5 小笠原(2)	10 古谷	

神戸大	Q	大阪市立大
1	1	2
3	2	1
2	3	3
3	4	3
9	計	9

1 田中	6 東	11 林 (2)
2 岡崎	7 村田	12 守沖 (5)
3 井上	8 当麻	13 中村 (1)
4 羽瀬	9 笠田	
5 小笠原(1)	10 古谷	

1位 京都大	6勝	5位 立命館	2勝3敗1分
2位 神戸大	3勝1敗2分	6位 関西学院大	1勝5敗
3位 大阪大	4勝2敗	7位 京都教育大	6敗
4位 大阪市立大	3勝2敗1分		

兵庫県学生選手権

“関カレ優勝のために、まず兵カレは余裕で優勝”これが我々に果たせられた課題であった。どんよりと曇った空の下、同じ日に高校生たちは室内プールで雨に濡れる心配もなく、ポートアイランドで県大会が行なわれているというのに、我々は西代プールで兵庫インカレを戦わなければならなかった。

内容としては、全員がしかるべきところでしかるべきことを無駄なくこなし、当然のように男子は優勝の美酒に酔ったのであるが、実際のところは、ほっと一安心といったところであった。そして女子は、昨シーズンほどの深刻な選手不足はないものの、やはり戦力的には不安であるし、4年生の抜けた後はどうなるのか、というのも大きな心配の種でもある。

以上がその日の私の記憶のすべてである。というのもその日の夜、あまりにもショッキングな出

来事が私を待ち構えていた。私の人生最後のレースになるであろう大会であるとか、10年間、毎年泳いできた西代プールに別れを告げる大会である、といった感傷的なことは、ガードレールによつて大破したインタークーラーとともに、どこかへぶっとんでしまったのである。

(竹本 記)

☆兵庫インカレ

7月3日 於 西代市民プール(50m)

[男子]

• 50m 自由型

奥村 26-7 3位
田中 28-0 4位
守沖 28-4

• 100m 自由型

奥村 1-01-0 5位
井上(聡) 1-01-4
羽瀬 1-03-4

• 200m 自由型

井上(聡) 2-20-7
羽瀬 2-25-0
染谷 2-30-1

• 400m 自由型

古谷 4-44-3 2位
染谷 5-27-9
是枝 6-15-0

• 1500m 自由型

古谷 18-55-0 2位
岡崎 20-09-8 3位
柴田 21-51-5

• 100m バタフライ

小南 1-04-0 2位
当麻 1-04-8 3位
高岡 1-09-0

• 200m バタフライ

小南 2-22-0 1位
当麻 2-28-5 3位
岡崎 2-40-8

• 100m 背泳

小笠原 1-08-7 2位
井上(達) 1-10-3 3位
竹本 1-19-4

• 200m 背泳

小笠原 2-30-9 2位
井上(達) 2-33-5 3位
竹本 2-55-4

• 100m 平泳

林 1-13-6 1位
守沖 1-16-4 5位
笠田 1-18-7

• 200m 平泳

林 2-46-6 3位
笠田 2-54-8
植松 2-58-9

• 200m 個人メドレー

東 2-22-6 1位
村田 2-39-4 5位
黒田 2-55-1

• 400m 個人メドレー

東 5-13-4 2位
村田 5-54-0 4位
青木 6-16-6 5位

• 400m メドレーリレー

小笠原、林、小南、奥村
4-26-7 1位

• 800m リレー

東、奥村、古谷、小南
8-59-8 2位

総合

1位	神戸大	105点
2位	関西学院大	82点
3位	甲南大	78点
4位	神戸商船大	44点
5位	兵庫教育大	15点
6位	神戸商科大	9点

〔女子〕

• 100m 自由型

枝沢	1-22-7	
上西	1-36-2	
村本	1-47-0	

• 200m 自由型

枝沢	3-04-9	4位
上西	3-46-0	
村本	4-14-0	

• 400m 自由型

川上	5-27-4	4位
----	--------	----

• 100m 背泳

村上	1-19-5	3位
寛	1-31-8	6位

• 200m 背泳

村上	2-55-7	2位
寛	3-21-7	6位

• 100m 平泳

宮下	1-23-6	4位
大江	1-44-3	

• 200m 平泳

宮下	3-21-0	6位
大江	3-44-8	

• 200m 個人メドレー

川上	3-01-9	4位
----	--------	----

• 400m メドレーリレー

村上、川上、宮下、枝沢	
	5-39-4 2位

• 400m リレー

宮下、枝沢、村上、川上	
	4-58-0 2位

総合

1位	武庫川大	193点
2位	関西学院大	40点
3位	神戸大	34点
4位	兵庫教育大	32点
5位	神戸商船大	11点
6位	神戸市外大	10点

男女とも関国優勝はまだ遠い

今年の関西国公立は、得点源となる先輩方が多く卒部され、1500 Frの種目がなくなることも重なって、去年以上に苦しい戦いになるのは明らかだった。しかし、去年の近国では、新戦力の頭張りが見られ、優勝のチャンスは充分にあった。

初日、京大のFr陣、Br陣が予想通りに強く、あれよあれよという間に20点差がついてしまった。このままいって、何もあとに残らない試合になってしまう。二日目、神大はなんとか京大にへばりついた。そして最後には、林の奇跡(?)の100 Br 優勝があった。接戦負けの多いこの試合で、価値ある優勝だったと思う。その直後、最近パツとしない800 Fr リレーが神大新を出して、2位を取って流れを盛り返したものの、一日目の得点差は埋められなかった。

女子は、最後のリレーに勝てば団体優勝、という大健闘を見せてくれた。惜しくも優勝は逃がしたが、4年間頑張ってきた村上さん、川上さんには、ほんとに頭が下がる思いである。

関国は久しく勝っていない。来年こそは……。

(村田 記)

☆関西国公立戦

7月16・17日 於 大阪府大プール(50m)

〔男子〕

・50m 自由型

井上(聡)(予) 27-3
(決) 27-1 5位
奥村 27-5
田中 28-5

・100m 自由型

井上(聡)(予) 1-00-5
(決) 1-00-4 5位
奥村 (予) 1-01-0
(決) 1-00-7 6位
染谷 1-04-8

・200m 自由型

古谷 (予) 2-13-7
(決) 2-12-4 6位
羽瀬 2-27-7
是枝 2-52-9

・400m 自由型

古谷 (予) 4-57-5
(決) 4-39-2 2位
柴田 5-26-9
羽瀬 5-27-2

・100m バタフライ

小南 (予) 1-05-5
(決) 1-03-6 2位
(大会新)
当麻 (予) 1-07-8
(決) 1-04-9 3位
高岡 1-08-2

・200m バタフライ

小南 (予) 2-26-4
(決) 2-21-4 1位
(大会新)
当麻 (予) 2-35-2
(決) 2-27-6 4位
岡崎 2-45-9

• 100m 背泳

小笠原(予)1-10-0
 (決)1-07-1 3位
 (大会新)
 井上(達)併1-11-4
 (決)1-11-7 (7位)
 黒田 1-25-1

• 200m 背泳

小笠原(予)2-32-9
 (決)2-28-6 2位
 井上(達)併2-35-0
 (決)2-32-9 4位

• 100m 平泳

林 (予)1-16-9
 (決)1-14-1 1位
 守沖 (予)1-17-8
 (決)1-16-6 (7位)
 笠田 1-18-3

〔女子〕

• 50m 自由型

村上 (予) 32-2
 (決) 30-9 4位

• 100m 自由型

枝沢 1-27-7
 村本 1-50-0

• 200m 自由型

枝沢 3-11-8
 上西 3-49-3

• 200m 平泳

林 (予)2-50-4
 (決)2-49-1 (8位)
 笠田 (予)2-52-3
 (決)2-53-0 (9位)
 植松 3-01-8

• 200m 個人メドレー

東 (予)2-37-3
 (決)
 村田 (予)2-39-2
 岡崎 2-39-6

• 400m 個人メドレー

東 (予)5-27-0
 (決)5-12-6 2位
 村田 (予)5-51-0
 (決)5-49-1 (7位)
 青木 6-09-9

• 400m フリーリレー

奥村、古谷、井上(聡)、東
 3-59-6 3位

• 400m メドレーリレー

小笠原、林、小南、東
 4-22-0 1位
 (大会新)

• 800m フリーリレー

東、古谷、当麻、小南
 8-56-1 2位

総合

1位	京都大	91点
2位	神戸大	76点
3位	大阪大	39点
3位	大阪府立大	39点
5位	神戸商船大	34点
6位	滋賀大	15点

• 100m 背泳

村上 (予)1-21-8
 (決)1-18-0 1位
 (大会新)

• 200m 背泳

寛 (予)3-23-6
 (決)3-23-4 (8位)

• 100m 平泳

宮下 (予)1-31-5
 (決)1-29-8 2位
 大江 1-40-7

• 200m 平泳

宮下 (予)3-17-9
 (決)3-16-8 3位
 大江 3-45-0

• 200m 個人メドレー

川上 (予)2-59-7
 (決)
 寛 3-43-4

• 400m 個人メドレー

川上 6-06-2 2位

• 200m リレー

宮下、枝沢、村上、川上
2-08-6 1位

• 400m リレー

宮下、枝沢、村上、川上
4-53-4 2位

• 400m メドレーリレー

村上、宮下、川上、枝沢
5-27-5 2位

総合

1位	大阪教育大	49点
2位	神戸大	46点
3位	京都大	37点
4位	京都教育大	35点
5位	奈良教育大	30点
6位	兵庫教育大	28点
	和歌山大	〃

旧 三 商 大 戦

今年の旧三商大戦は、雨模様の中、六甲台プールで行われた。前日まで緑色をして底が見えなかったプールを、試合当日に白っぽい色にして、又、その中で泳いだことは、今考えても、病気にならなかったのが不思議なくらいだ。(市大の方が、プールの中にブラックバスの魚を投げこむなどのハプニングもあった)。

さて試合の方であるが、まず午前中に行われた競泳の部においては、前日までの強化練習の疲れも残っていたのであるが、まずまずの成績であった。初心者2名が、この試合で初めて800mFrを泳ぎきったことが記憶に残っている。

次に午後から行われた水球の部においては、またもや一橋大に苦戦を強いられてしまった。市大もパワーアップしているみたいで、これも延長戦の末、辛くも逃げきった、という結果であった。

関東のレベルの高さを再認識する一方、神大の水球のレベルアップに努めていかねばならない。来年こそ完全優勝を達成できるよう全力を尽くしたい。

試合終了後のコンパであるが、今年は残念ながら恒例のプールサイド・コンパができなかった。そのおかげといっは何だが、被害者が出ずにすんだ。結局、グラウンド六甲の屋上において、コンパは盛大にとりおこなわれた。

最後になりましたが、本大会に御協力、御声援をいただいたOBの皆様方、応援団の皆様方に誌面を借りて厚く御礼を申し上げます。

(宮下 記)

☆旧三商大戦

7月24日 於 神戸大学プール(25m)

〔競泳〕

• 100m 自由型

東	57-2	1位
奥村	59-5	2位

• 400m 自由型

当麻	5-00-0	1位
井上(聡)	5-01-0	2位

• 800m 自由型

古谷	9-39-9	1位
柴田	11-19-0	4位

• 200m バタフライ

小南	2-20-5	1位
岡崎	2-43-3	2位

• 200m 背泳

小笠原	2-34-7	1位
当麻	2-43-6	2位

• 200m 平泳

林	2-49-7	2位
笠田	2-57-0	3位

• 200m 個人メドレー

村田	2-38-5	1位
井上(達)	2-47-4	3位

• 800m リレー

東、古谷、井上(聡)、奥村	8-57-4	
---------------	--------	--

• 400m

小笠原、笠田、小南、井上(聡)	4-30-7	1位
-----------------	--------	----

総合

1位	神戸大	92点
2位	大阪市立大	56点
3位	一橋大	37点

〔水球〕

神戸大	Q	大阪市立大
0	1	1
2	2	1
0	3	1
2	4	1
4	計	4

1 田中	6 林 (1)	11 青木
2 守沖 (1)	7 古谷	12 是枝
3 岡崎	8 当麻	13 中村 (2)
4 村田	9 東	
5 小笠原(3)	10 羽瀬	

<延長>

神戸大	Q	大阪市立大
0	1	0
1	2	1
1	3	0
1	4	1
7	計	6

神戸大	Q	一橋大
2	1	2
2	2	0
1	3	3
0	4	2
5	計	7

1 田中	6 林	11 青木
2 守沖 (2)	7 古谷	12 是枝
3 岡崎 (1)	8 当麻	13 中村 (1)
4 村田	9 東	
5 小笠原(1)	10 羽瀬	

関西インカレ

男子2部優勝 1部昇格
女子1部残留

今年の競泳は、この試合に照準を合わせ、秋から練習を積んできた。

強力な新人を多数備えた立命相手に苦戦が予想されたが、3回生では、エースの古谷、小笠原が安定した力を見せ、岡崎、村田、林が点をもぎとり、2回生においては、全員が過言でなく、初心者からエースに至るまでが驚異的な伸びをみせ、チームを盛り上げてくれた。1回生は、まだひ弱さが残るものの、将来の活躍が期待できる泳ぎをしてくれた。

女子は、今年も大黒柱である川上、村上がチームを引っ張り、少ない人数ながら4年間一度も2部落ちすることなく、立派に務めを果たした。来年度からは苦しくなるが、枝沢が後を継いでくれるであろう。

マネージャーや、裏方に回ってくれた者も含め、2部ではあるが全員で勝ち取った優勝は、これで引退する4回生の心を熱くさせてくれた。

(守沖 記)

☆関西インカレ

7月29・30・31日 於 大阪プール(50m)

〔男子〕

・50m 自由型

奥村 (予)	27-28
(決)	27-16 4位
田中	28-50
城	32-41

・100m 自由型

井上(聡) (予)	1-00-0
(決)	1-00-16 (7位)
奥村 (予)	1-00-34
(決)	1-00-46 (8位)

・200m 自由型

井上(聡) (予)	2-16-67
(決)	2-14-70 (9位)
羽瀬	2-21-81
安井	2-37-01

• 400m 自由型

古谷 (予)4-49-90
(決)4-36-06 1位
染谷 5-19-09
是枝 5-52-66

• 1500m 自由型

古谷 18-28-53 1位
岡崎 20-14-76 6位
柴田 21-29-36

• 100m バタフライ

小南 (予)1-05-46
(決)1-03-57 1位
当麻 (予)1-05-95
(決)1-04-40 2位
高岡 (予)1-05-94
(決)1-06-19

• 200m バタフライ

小南 (予)2-21-85
(決)2-19-34 1位
当麻 (予)2-27-4
(決)2-25-39 2位
岡崎 (予)2-37-13
(決)2-40-20 6位

• 100m 背泳

小笠原(予)1-10-34
(決)1-07-90 2位
井上(達)併1-13-70
(決)1-08-86 3位

• 200m 背泳

小笠原(予)2-37-78
(決)2-27-53 2位
井上(達)併2-36-0
(決)2-31-15 5位

• 100m 平泳

林 (予)1-15-06
(決)1-15-11 6位
守沖 (予)1-17-69
(決)1-16-66 (9位)
笠田 1-18-89

• 200m 平泳

笠田 (予)2-49-22
(決)2-50-5 9位
林 2-51-31
植松 2-56-93

• 200m 個人メドレー

東 (予)2-31-49
(決)2-21-50 2位
村田 (予)2-37-66
(決)2-38-07 6位

• 400m 個人メドレー

東 (予)5-32-19
(決)5-06-10 2位
青木 (予)6-07-73
(決)6-01-29 (7位)

• 400m フリーリレー

東、奥村、井上、小南
3-57-11 2位

• 800m フリーリレー

古谷、当麻、井上、東
8-53-53 4位

• 400m メドレーリレー

小笠原、林、小南、東
4-20-68 2位

—総合(男子2部)—

1位	神戸大	84点
2位	立命館大	79点
3位	関西大	66点
4位	大阪府立大	43点
5位	大阪大	38点
6位	大阪工業大	22点

〔女子〕

• 100m 自由型

枝沢	1-21-4
村本	1-48-2

• 200m 自由型

枝沢	3-06-1
村本	4-09-61

• 100m 背泳

村上 (予)	1-17-75
(決)	1-16-54
寛	1-30-1

• 200m 背泳

村上 (予)	2-51-9
(決)	2-49-46
寛	3-14-87

• 100m 平泳

宮下	1-28-46
大江	1-41-28

• 200m 平泳

宮下	3-12-65
大江	3-39-5

• 200m 個人メドレー

川上 (予)	2-52-79
(決)	2-50-57

• 400m 個人メドレー

川上	6-07-66
----	---------

• 200m フリーリレー

2-09-18	6位
---------	----

• 400m メドレーリレー

5-23-10	3位
---------	----

—総合—

1位	武庫川女大	155点
2位	天理大	134点
3位	大阪体育大	35点
4位	関西外語大	16点
5位	大阪教育大	6点
6位	神戸大	4点
7位	兵庫教育大	2点

全 国 国 公 立 戦

関西インカレ一部復帰を果たした神戸大学水泳部の次なる目標は、ここ数年、惨敗を続けている全国国公立戦での上位入賞である。新戦力、小南、井上聡の加入で、上位入賞は容易なことであると私は思った。また、小南の西日本医大戦での好記録も伝わり、夢はますますふくらんだ。

試合は島根を舞台に、食中毒警報が出るほど暑い天候の中で行われた。そして我々は、6位入賞を果たしたのである。この結果に満足する部員もいると思う。しかし、内容を考えれば、とても満足できるものではなかった。個人種目の得点は、個々の東の3位、4位によるものだけで、他の種目では決勝進出者を出すだけに終わった。またリレー種目においては、3位入賞も可能では、と思われた混雑でやっと5位、400継、800継は予選落ち、と惨々たるものであった。やはりリレー種目が弱くは、チームとしても盛り上がり欠けていたように思われる。全国の壁は、まだまだ厚

いのである。

女子は、川上先輩の6位入賞はあったが、層の薄さが目に付いた試合であった。今後は宮下の成長に期待したい。

最後になりましたが、試合に出て下さった奥村先輩、女子面のリーダーとして頑張ってお下さった川上、村上両先輩、どうもお疲れ様でした。島根まで応援に来て下さった板東さんを始めとする諸先輩方、大変ありがとうございました。
(小笠原 記)

☆ 全国国公立大学選手権水泳競技大会

8月12・13日 於 島根県立プール

〔男子〕

・50m 自由型

奥村 26-82
染谷 29-64
安居 30-14

・100m 自由型

井上(聡) 59-83
田中 1-03-72
中川 1-16-90

・200m 自由型

井上(聡) 2-15-26
羽瀬 2-26-80
是枝 2-46-49

・400m 自由型

古谷 4-37-72
岡崎 5-01-60
柴田 5-25-48

・100m バタフライ

小南 (予)1-03-05
(決)1-03-76(9位)
当麻 1-03-92
高岡 1-06-68

・200m バタフライ

小南 2-23-31
当麻 2-25-62
岡崎 2-41-25

・100m 背泳

小笠原(予)1-07-58
(決)1-07-17(9位)
井上 1-10-09
山崎 1-53-52

・200m 背泳

小笠原(予)2-27-65
(決)2-26-86(8位)
井上 (予)2-26-86
(決)2-27-86(9位)
青木 2-50-86

・100m 平泳

林 1-15-01
笠田 1-17-87
三宅 1-32-16

・200m 平泳

林 2-48-19
笠田 2-49-62
三宅 3-19-83

・200m 個人メドレー

東 (予)2-26-76
(決)2-20-92 3位
村田 2-38-75
青木 2-47-70

・400m 個人メドレー

東 (予)5-14-21
(決)5-08-30(4位)
古谷 5-20-78
村田 5-52-27

• 400m リレー

奥村、井上、古谷、小笠原

4-02-34

• 800m リレー

東、古谷、当麻、井上

8-54-26

• 400m メドレーリレー

小笠原、林、小南、林

(予)4-25-02

(決)4-22-67

総合

1位 筑波大 101点

2位 鹿屋体大 80点

3位 新潟大 27点

4位 群馬大 12点

5位 東京学芸大 10点

6位 神戸大 9点

〔女子〕

• 100m 自由型

枝沢 1-23-33

村本 1-44-85

• 200m 自由型

枝沢 3-12-39

村本 3-54-74

• 100m 背泳

村上 (予)1-18-12

(決)1-17-55 8位

• 200m 背泳

村上 3-17-66

寛 3-18-42

• 100m 平泳

宮下 1-27-59

大江 1-40-77

• 200m 平泳

宮下 3-15-50

大江 3-42-96

• 200m 個人メドレー

川上 (予)2-50-51

(決)2-49-05 7位

• 400m 個人メドレー

川上 (予)6-08-52

(決)6-06-32 6位

• 200m リレー

2-10-08

• 400m リレー

5-01-80

• 400m メドレーリレー

5-26-93

総合

1位 鹿屋体大 100点

2位 筑波大 82点

3位 東京学芸大 31点

4位 福岡教育大 26点

5位 静岡大 13点

6位 大阪教育大 11点

：

14位 神戸大 1点

市 大 戦

市大戦といえば、プールサイド・コンパ。プールサイド・コンパといえば、狂乱。……定石である。という訳で、第60回（試合後、必ずコンパがあったかどうかは私は知る由もないが、約70回になろうとする市大戦のうち、このくらいは多分行われているであろう）プールサイド・コンパが始まった。ここでは、その時悲劇をみた某神大部員の話をしてみる。

当時2回生の彼は、あいかわらず3・4回生に吞まされていた。突然3回生の呼ぶ声。行くと、自称3回生の市大の女性が彼についてくれる。どこからか、彼女は1回生という情報をキャッチ。怒る彼。彼女はすかさず、神大3回生と対等に話を始める。平謝りに謝って、飲むだけ飲んだ彼。つぶれかけた時、自己紹介が始まる。なぜか自己紹介している彼女。……バリバリの1回生である。怒り狂った彼。彼女の顔、その他の部分にからしをぬるぬる。本物の市大の3回生に怒られて、飲まされて、完ぺきにつぶれて駅で2時間も寝ていた彼。私は話を聞いて涙ぐんでしまった。

（柴田 記）

☆ 対 大 阪 市 立 大 定 期 戦

8 月 20 日 於 大 阪 市 立 大 プール

〔競泳〕

• 100m 自由型

井上(聡) 1-01-0
村田 1-03-4
田中 1-08-5

• 400m 自由型

岡崎 5-12-3
染谷 5-25-0
安居 5-34-8

• 800m 自由型

古谷 10-18-8
柴田 11-29-0
城 14-09-8

• 200m バタフライ

小南 2-26-1
当麻 2-28-7
高岡 2-34-5

• 200m 背泳

井上 2-41-8
青木 3-01-4
山崎 4-09-8

• 200m 平泳

林 2-52-0
笠田 2-54-0
三宅 3-20-5

• 200m 個人メドレー

東 2-33-8
是枝 3-16-5

• 400m メドレーリレー

井上(達)、笠田、小南、東
4-36-1

• 800m リレー

田中、柴田、村田、林

総合

1位 神戸大 105点
2位 大阪市立大 73点

〔水球〕

神戸大	Q	大阪市立大
0	1	2
2	2	3
1	3	0
1	4	4
4	計	9

1 田中	6 古谷	11 井上
2 岡崎 (1)	7 東	12 青木
3 小笠原(1)	8 是枝	13 中村 (1)
4 林 (1)	9 当麻	
5 村田	10 羽瀬	

近 国 体

今年も近国体は快晴の下で行なわれた。全国国公立から9日目、対市大戦からはわずか2日後のことである。当然のごとく、誰もが疲れ切った表情をしていた。だが、競泳における今季の第一目標である「打倒京大」を果たす最後のチャンスとあっては、疲れたなどとは言われてられない。まして、この試合の結果は直接来季の展望にもつながるとあれば、なおさらであろう。試合前の予想では勝算も充分にあったことなどにも勇気づけられて、我々は会場の阪大プールへ乗り込んだ。

ところが、いざフタを開けてみると、一時、僅差でリードをしたものの、初日終了時点では、11点差の2位、さらに、こんなはずでは、と思いつつ迎えた2日目も追い上げ届かず、その差は縮まらないまま結局、京大に10点差の2位に終わった。10点差といっても、内容的にみれば神大は完敗であり、例えば最終種目の男子800メートルリレーなどでは、王者京大の足元にも及ばないどころか、神戸商船大の急迫をかろうじてかわすのがやっと、という状態であった。

たしかに前述のような強行日程の下では、コンディションを万全に整えて大会に望むというのは相当困難なことだろうが、それだからといって、負けたことの言い訳にはならないはずである。今回は毎試合、得点源となる選手が不調だったのが特に目についた。自分のコンディション作りに関して優れていなければ、どんなに速く泳げても優秀な選手とは言い難い。このような状態では、全国国公立総合6位はまぐれだったのか、と言われても仕方がないだろう。京大に対してここまで「負け慣れ」してしまった神大水泳部が再び復活するには、各選手が体力面はもとより、精神面においても強くなるのが今後の課題であるのは間違いない。とにかく少人数というハンディを背負いながらも大健闘した女子に比べると、余りに情けない結果であった。

(小南 記)

〔男子〕

• 100m 自由型

井上 (予)1-00-1
 (決)1-00-2 4位
 羽瀬 1-04-4
 染谷 1-04-8

• 200m 自由型

井上 (予)2-17-28
 (決)2-16-54 4位
 柴田 2-34-14

• 400m 自由型

古谷 (予)5-03-1
 (決)4-38-1 2位
 (大会新)
 柴田 5-26-8
 是枝 5-58-9

• 800m 自由型

古谷 (予)10-27-46
 (決)9-36-84 2位
 (大会新)
 染谷 11-14-53
 是枝 12-35-85

• 100m バタフライ

小南 (予)1-05-17
 (決)1-02-82 3位
 当麻 (予)1-15-69
 (決)1-04-12 5位
 高岡 1-07-68

• 200m バタフライ

小南 (予)2-32-6
 (決)2-19-5 1位
 (大会新)
 高岡 (予)2-35-1
 (決)2-32-4 (6位)
 岡崎 (予)2-38-3
 (決)2-38-9 (8位)

• 100m 背泳

小笠原(予)1-12-69
 (決)1-06-69 3位
 井上 (予)1-11-99
 (決)1-08-80 4位
 青木 1-21-65

• 200m 背泳

小笠原(予)2-36-2
 (決)2-26-2 1位
 井上 (予)2-44-0
 (決)2-30-2 2位
 青木 2-53-5

• 100m 平泳

林 (予)1-15-6
 (決)1-14-9 5位
 笠田 1-17-94
 三宅 1-31-03

• 200m 平泳

林 (予)2-55-5
 (決)2-46-9 5位
 笠田 (予)2-51-0
 (決)2-52-2 (7位)

• 200m 個人メドレー

東 (予)2-36-5
 (決)2-21-2 1位
 (大会新)
 当麻 (予)2-34-7
 (決)2-29-6 5位
 村田 2-37-2

• 400m 個人メドレー

東 (予)5-36-26
 (決)5-10-25 1位
 (大会新)
 岡崎 (予)5-48-18
 (決)5-41-96 (6位)
 村田 (予)5-52-59
 (決)5-46-35 (8位)

• 200m リレー

(予)1-47-49
 (決)1-46-61 3位

• 400m メドレーリレー

(予)4-34-12
 (決)4-20-3 1位
 (大会新)

• 800m リレー

東、古谷、当麻、小南

(予)9-13-7

(決)8-52-9 2位

総合

1位 京都大 96点

2位 神戸大 86点

3位 神戸商船大 41点

4位 大阪大 35点

5位 滋賀大 32点

6位 奈良教育大 13点

〔女子〕

• 100m 自由型

枝沢 1-22-7

村本 1-44-6

• 200m 自由型

村上 4-00-2

• 100m 背泳

村上 (予)1-23-64

(決)1-17-52 2位

• 200m 背泳

村上 (予)3-00-4

(決)2-48-2 2位

寛 3-13-4

• 100m 平泳

宮下 (予)1-30-98

(決)1-28-28 2位

大江 1-40-74

• 200m 平泳

宮下 (予)3-16-3

(決)3-17-3 5位

大江 3-41-1

• 200m 個人メドレー

寛 (予)3-30-1

(決)3-29-3 8位

枝沢 3-30-6

• 200m リレー

宮下、枝沢、寛、村上

(予)2-16-8

(決)2-16-5

• 400m メドレーリレー

(決)6-02-0

(決)5-27-2 2位

• 400m リレー

(予)5-02-5

(決)4-53-1 2位

総合

1位 兵庫教育大 44点

2位 京都教育大 42点

3位 京都大 40点

4位 大阪教育大 37点

5位 神戸大 30点

6位 奈良教育大 26点

全 国 イ ン カ レ

インカレ——インターカレッジ、すなわち大学生の行う試合としては最高峰であり、わが水泳部の参加する全試合の中でも一番レベルの高い試合である。しかし、だ。レベルの高い試合に参加する者がレベルが高いとは必ずしもいえない。

決勝リーグへ進むための予選。対戦相手は専修大学であった。去年の慶応よりも数段強いチームである。2年連続で、この晴れ舞台にキーパーとして出場できたことに対する満足感のその裏で、「去年(3Q途中1-16コールド)以上に、惨めな結果になるのであろうか」という得も言えぬ一種、卑屈な思いがあったことも否めなかった。元主将、甲野氏の言葉ではないが、「勝負をするかぎりには、勝たねば」の心は私にもあった。けれども、気持ちだけはどうしようもなく、結果は惨々なものであった。去年は何度か、丸太の如きこの私の腕にあたったボールも、今年は一度もかすことなくゴールを割ること15回、2Q半ばにさしかかる頃であった。

現在は、関西の大学に早く地元にかえってもらい、関東の上位校だけで試合をするためにあるような予選であるが、神大水泳部の水球における目標は、あえてインカレ決勝リーグ進出と掲げたい。関ボロ優勝もままならないこの現状で、この目標はお笑い草と思われるも仕方ないとも思うが、大目標のもと、チームが結集できるのならばそれでよい。目標達成は、5年10年先、ともすれば30年50年先、あるいはもっと……、となるかもしれないが、その日のスタートを今きりたい。小さな目標を達成していき、個人・チームともにレベルアップをはかる。その積み重ねによって“大きな目標”が自分たちに近づいてくるのだ。

いつの日か、インカレで「関西に神大あり」と言われる日が、関東の大学と対等以上に渡り合える日がやってくることを私は信じてやまない。

(田中 記)

☆日本学生選手権

8月7日 於 中央大学プール

〔水球〕

神 戸 大	Q	専 修 大
0	1	12
0	2	3
	3	
	4	
0	計	15

- | | | |
|-------|------|-------|
| 1 田中 | 6 古谷 | 11 井上 |
| 2 岡崎 | 7 羽瀬 | 12 青木 |
| 3 小笠原 | 8 是枝 | 13 中村 |
| 4 林 | 9 当麻 | |
| 5 村田 | 10 東 | |

関 ポ ロ Jr

いつもはリーグで戦うところが、今回はトーナメント。しかも、初戦が阪大戦。勝てば関学戦、即ち2位確定ということで、いやが上にも阪大戦には緊張が高まり、気合いが入った。ところが、結果は楽勝。林、中村、小笠原が中心になった、思い通りのゲーム展開となった。そして問題の京大戦。見事に押さえ込まれた、という試合であった。また、我がチームに課題を与えてくれた試合でもあった。冷めた雰囲気。練習させられている気分になること。個々の消極性。主任としての私の力量不足もあるが、もっと熱血になって、意地でも勝つぞ！ という気迫をもって積極的なチームになろう。

また、この場を借りて、原田さん、並びに力になって下さったOBの方々に感謝の意を表します。来期もお力添えを宜しくお願いします。 (林 記)

☆ 関 ポ ロ Jr

9月10・11日 於 大阪市立大ブルー

神戸大	Q	大阪大
5	1	0
5	2	1
3	3	1
3	4	2
16	計	4

1 田中	6 羽瀬 (1)	11 井上
2 岡崎 (1)	7 小笠原(4)	12 笠田
3 村田 (1)	8 是枝	13 中村 (4)
4 林 (3)	9 東 (1)	
5 古谷	10 当麻 (1)	

神戸大	Q	関西学院大
3	1	1
2	2	0
3	3	1
4	4	2
12	計	4

1 田中	6 羽瀬 (1)	11 井上
2 岡崎 (3)	7 小笠原(1)	12 柴田
3 村田 (3)	8 是枝	13 中村
4 林	9 東 (2)	
5 古谷 (1)	10 当麻	

神戸大	Q	京都大
2	1	4
0	2	1
1	3	4
2	4	0
5	計	9

1 田中	6 羽瀬	11 井上
2 岡崎	7 小笠原(1)	12 笠田
3 村田	8 是枝	13 中村 (1)
4 林 (1)	9 東 (1)	
5 古谷 (1)	10 当麻	

現 役 自 己 へ

男子の部	自 由 型					
	50m	100m	200m	400m	800m	1500m
岡崎 憲之			2-14-9	5-01-6		20-09-8
小笠原 朝隆		1-01-3	2-18-7	5-11-5	11-18-5	
是枝 良文		1-14-9	2-48-0	5-57-9	12-22-0	
田中 和彦		1-03-3		6-40-9	13-39-7	
羽瀬 智文		1-02-0	2-21-8	5-27-3		
林 均		1-03-5	2-25-6			
古谷 拓裕		1-00-0	2-10-7	4-36-0	9-36-8	18-28-5
村田 功		1-02-0		5-29-5		
井上 達晃					13-19-3	
笠田 幸介					11-19-0	21-29-3
柴田 英之		1-08-9	2-32-5	5-25-4		
当麻 尚正		59-6	2-12-3	4-53-8		
中川 篤俊		1-15-4				
東 圭紀		57-3	2-10-9			
三宅 正樹		1-20-7				
青木 浩介						
一越 健治	27-1	1-25-0				
井上 聡		59-8	2-14-7	5-01-0		
小南 裕明						
城 一男		1-15-7				
染谷 光裕		1-03-3				
高岡 英一郎						
中村 勇						
安居 武彦		1-07-2				
山崎 秀樹		1-19-8				
女子の部						
枝沢 百合子		1-21-3	3-04-8	6-36-7		
寛 明子				6-33-2		
大江 千晶						
宮下 静子	33-1	1-15-0				
村本 由里子		1-44-8	3-54-7			

ス ト ー 覧 表

バタフライ		背 泳		平 泳		個人メドレー	
100m	200m	100m	200m	100m	200m	200m	400m
1-08-8	2-34-0	1-06-6	2-26-2	1-26-7	3-10-2	2-39-6	5-41-9
						2-32-7	6-00-4
		1-23-0	1-34-2	3-24-0	3-39-2	8-07-1	
					3-13-4	7-39-1	
		1-22-5	1-34-2	2-46-5			
3-30-2	1-23-0	3-32-7	1-13-6	2-46-6	2-47-3		
1-07-6	2-39-0		2-40-7			2-33-2	5-20-7
1-09-6	2-52-3	1-21-8	2-53-6		2-59-0	2-34-4	5-34-6
1-41-6	2-25-3	1-08-8	2-26-8				
		1-39-6	1-41-1	1-17-4	2-49-2		
				1-38-6	2-29-5	2-59-9	7-14-5
		1-03-9	2-25-3				
1-06-2						2-20-9	5-06-1
				1-31-0	3-19-8	3-31-6	8-38-5
1-01-4	2-17-0			1-37-0		2-44-5	6-01-6
1-05-9	2-29-0						
		1-50-3					
1-27-8		1-39-3	3-40-2	1-52-7			
		1-29-9	3-12-5			3-35-2	
				1-27-5	3-12-6	2-58-1	

歴代 10 傑表

(男子の部)

○ 100 m 自由型

1	後呂 忠詳	56-7(S)	S.61
		58-0(L)	62
2	川原田 貢	57-1(S)	57
		57-3(L)	59
3	東 圭紀	57-3(S)	63
4	金 一波	58-6(S)	56
		58-9(L)	57
5	浜川 広海	58-8	26
	杉山 和広	58-8(S)	53
7	吉田不二彦	58-9(S)	59
		59-8(L)	59
8	浜田 昌己	59-2(L)	61
	奥村 直樹	59-2(S)	62
		59-7(L)	62
10	当麻 尚正	59-6(S)	63

○ 400 m 自由型

1	古谷 拓裕	4-36-0(L)	S.63
2	久保田勝己	4-37-4(L)	58
3	川原田 貢	4-46-9(S)	57
4	近藤 直明	4-49-7(S)	62
		4-54-0(L)	61
5	浦野 敏明	4-53-1(S)	59
		5-00-9(L)	58
6	当麻 尚正	4-53-8(S)	63
7	中川 善雄	4-54-0(L)	60
8	上田 剛弘	4-54-3(S)	55
		5-02-8(L)	55
9	山本 隆	4-55-1(L)	53
10	杉山 和広	4-55-2(S)	52

○ 200 m 自由型

1	川原田 貢	2-07-5(L)	S.59
2	久保田勝己	2-08-5(S)	58
3	浜川 広海	2-09-0	26
4	後呂 忠詳	2-10-2(S)	62
5	古谷 拓裕	2-10-7(S)	62
6	東 圭紀	2-10-9(S)	62
		2-11-4(L)	62
7	当麻 尚正	2-12-3(S)	63
8	郡 幸雄	2-12-4(S)	62
9	金 一波	2-13-8(S)	57
		2-16-5(L)	56
10	杉山 和広	2-14-0(S)	52

○ 800 m 自由型

1	古谷 拓裕	9-36-8(L)	S.63
2	久保田勝己	9-47-4(S)	56
		9-49-0(L)	57
3	近藤 直明	10-11-7(L)	60
4	中川 善雄	10-19-2(S)	60
		10-25-0(L)	60
5	山本 隆	10-22-1(S)	53
6	上田 剛弘	10-26-4(S)	51
7	浦野 敏明	10-33-2(L)	57
8	丸末 一之	10-36-3	51
9	松野 圭	10-38-0(L)	57
10	酒井 康司	10-40-5(S)	55

○ 1500 m 自由型

1	古谷 拓裕	18-28-5(L)	S.63
2	久保田勝己	18-37-5(L)	58
3	近藤 直明	19-20-1(L)	62
4	中川 善雄	20-07-0(L)	60
5	浦野 敏明	20-08-3(L)	57
6	岡崎 憲之	20-09-8(L)	63
7	松野 圭悟	20-31-4(L)	57
8	上田 剛弘	20-40-0(L)	55
9	酒井 康司	20-55-0(L)	55
10	安井 啓史	21-22-1(L)	62

○ 100 m バタフライ

1	小南 裕明	1-01-4(L)	S.63
2	当麻 尚正	1-03-9(L)	63
3	吉岡 宏之	1-04-0(L)	58
	坂田 純孝	1-04-0(L)	59
5	佐敷 定雄	1-04-8(L)	48
6	郡 幸雄	1-05-0(L)	60
7	高岡英一郎	1-05-9(L)	63
8	東 圭紀	1-06-5(S)	62
9	山本 隆	1-07-4(S)	54
		1-08-4(L)	53
10	古谷 拓裕	1-07-6(S)	62

○ 200 m バタフライ

1	小南 裕明	2-17-0(L)	S.63
2	郡 幸雄	2-24-6(L)	60
3	当麻 尚正	2-25-3(L)	63
4	坂田 純孝	2-26-6(L)	59
5	高岡英一郎	2-29-0(S)	63
6	佐敷 定雄	2-29-6	48
7	吉岡 宏之	2-34-0(S)	57
		2-35-9(L)	58
8	岡崎 憲之	2-34-6(L)	62
9	山本 隆	2-35-2(S)	53
		2-36-9(L)	53
10	浦野 敏明	2-35-6(L)	56

○ 100 m 背泳

1	徳永 守	1-06-2(S)	S.62
		1-07-9(L)	60
2	小笠原朝隆	1-06-6(L)	63
3	杉山 和弘	1-07-7(S)	53
		1-08-4(L)	53
4	吉田不二彦	1-08-6(L)	59
5	坂田 純孝	1-08-7(S)	58
6	井上 達晃	1-08-8(L)	63
7	川原田 貢	1-09-6(S)	59
8	浅川 明弘	1-10-3(S)	62
		1-11-(L)	
9	太田 雅彦	1-10-9(S)	56
10	田淵 五郎	1-11-8(S)	27

○ 200 m 背泳

1	小笠原朝隆	2-26-2(L)	S.63
2	井上 達晃	2-26-8(L)	63
3	徳永 守	2-29-7(L)	60
4	坂田 純孝	2-30-4(S)	56
5	吉田不二彦	2-31-2(S)	58
6	杉山 和弘	2-34-1(S)	54
		2-34-2(L)	53
7	木村多加緒	2-34-8(S)	43
		2-37-0(L)	43
8	酒井 正人	2-35-2(S)	52
9	浅川 明弘	2-36-8(L)	62
10	竹本 和広	2-40-2(L)	62

○ 100 m 平泳

1	後呂 忠詳	1-10-5(L)	S.61
2	林 均	1-12-9(S)	62
		1-13-6(L)	63
3	長崎 真人	1-13-6(S)	57
		1-14-0(L)	58
4	鈴木 俊彦	1-14-2(S)	42
		1-14-7(L)	42
5	慈幸 弘樹	1-15-3(S)	53
		1-16-8(L)	53
6	浦野 敏明	1-15-6(S)	58
7	守沖 敦	1-16-4(L)	63
8	池辺 正雄	1-16-5(L)	56
9	山野 和則	1-17-1(S)	55
		1-17-2(L)	57
10	富岡 洋三	1-17-4(S)	55
		1-18-5(L)	53
	平石 康	1-17-4(S)	51
		1-19-1(L)	52
	笠田 幸介	1-17-4(S)	63
		1-17-8(L)	63

○ 200 m 平泳

1	後呂 忠詳	2-37-9(L)	S.60
2	長崎 真人	2-40-5(L)	58
3	林 均	2-44-6(S)	62
		2-46-6(L)	63
4	平石 康	2-45-3(S)	52
5	鈴木 俊彦	2-45-5	43
6	有利 英明	2-45-6	62
7	慈幸 弘樹	2-49-2(S)	53
		2-52-5(L)	53
	笠田 幸介	2-49-2(L)	63
9	山野 和則	2-50-0(S)	57
		2-50-1(L)	57
	中塚 泰弘	2-51-1(S)	61
		2-51-6(L)	60

○ 200 m 個人メドレー

1	東 圭紀	2-20-9(L)	S.63
2	浦野 敏明	2-29-5(L)	59
3	当麻 尚正	2-29-6(L)	63
4	後呂 忠詳	2-31-0(L)	60
5	原田久富美	2-32-7(L)	60
	小笠原朝隆	2-32-7(L)	63
7	慈幸 弘樹	2-33-0(S)	52
		2-35-6(L)	53
8	古谷 拓裕	2-33-2(L)	61
9	坂田 純孝	2-34-0(L)	58
10	富岡 洋三	2-34-2(S)	56
		2-35-2(L)	55

○ 400 m 個人メドレー

1	東 圭紀	5-06-1(L)	S.63
2	浦野 敏明	5-20-3(L)	59
3	古谷 拓裕	5-20-7(L)	63
4	山本 隆	5-25-9(S)	53
		5-43-6(L)	53
5	当麻 尚正	5-27-5(L)	63
6	村田 功	5-34-6(S)	62
7	久保田勝己	5-38-4(S)	56
8	原田久富美	5-40-1(S)	60
9	坂田 純孝	5-40-7(L)	57
	三好 岳	5-40-7(L)	60

○ 400m メドレーリレー

1	小笠原、林、小南、東	4-20-6	S. 63
2	小笠原、後呂、郡、浜田	4-21-1	61
3	徳永、後呂、郡、川原田	4-21-6	60
4	小笠原、後呂、郡、奥村	4-22-1	62
5	吉田、後呂、坂田、川原田	4-22-8	59

○ 400m リレー

1	川原田、浜田、原田、後呂	3-56-4	S. 60
2	川原田、吉田、浜田、後呂	3-57-0	59
3	東、奥村、井上、小南	3-57-1	63
	川原田、浜田、島崎、後呂	3-57-1	60
4	奥村、郡、東、後呂	3-57-4	62
5	浜田、原田、郡、後呂	3-57-7	61

○ 800m リレー

1	東、古谷、当麻、小南	8-52-9	S. 63
	東、古谷、当麻、井上(聡)	8-53-5	63
2	浦野、坂田、後呂、川原田	8-56-5	59
3	後呂、郡、古谷、東	8-56-7	62
	東、郡、古谷、後呂	8-56-8	62
4	浦野、金、久保田、川原田	8-57-2	57
	東、古谷、井上、奥村	8-57-4	63
5	川原田、浦野、坂田、久保田	8-59-8	58
	郡、浜田、後呂、川原田	8-59-8	60
	東、奥村、古谷、小南	8-59-8	63

(女子の部)

○ 100 m 自由型

1	川上 景子	1-07-9(L)	S.61
2	村上 美和	1-10-7(L)	60
3	坂東 美枝	1-11-7(S)	56
4	木村 典子	1-12-9(L)	59
5	土井 紀子	1-13-6(L)	54

○ 200 m 背泳

1	村上 美和	2-48-4(L)	S.63
2	坂東 美枝	2-58-6(S)	56
3	加地 恵	3-04-8(L)	61
4	石本日和子	3-10-6(S)	
5	桑本 万里	3-11-3	

○ 200 m 自由型

1	川上 景子	2-26-4(L)	S.62
2	坂東 美枝	2-32-6(S)	56
3	山口 敦与	2-37-4(L)	60
4	土井 紀子	2-41-5(S)	
5	木村 典子	2-44-2(L)	59

○ 100 m 平泳

1	宮下 静子	1-27-5(L)	S.63
2	松井 玲子	1-30-3	
3	川島えみこ	1-32-0(S)	56
4	国本 温代	1-33-1(S)	
5	坂東 美枝	1-33-8(S)	56

○ 400 m 自由型

1	川上 景子	5-15-2(L)	S.60
2	坂東 美枝	5-18-5(S)	56
3	山口 敦与	5-28-7(L)	60
4	土井 紀子	5-45-0(S)	
5	桑本 万里	5-54-3	

○ 200 m 平泳

1	川上 景子	3-06-2(S)	S.61
		3-10-2(L)	60
2	宮下 静子	3-12-6(L)	63
3	川島えみこ	3-16-6	58
4	坂東 美枝	3-17-6(S)	
5	松井 玲子	3-20-3	52

○ 100 m バタフライ

1	坂東 美枝	1-14-3(S)	S.57
2	川上 景子	1-20-9(L)	60
3	大野 智恵	1-25-6(S)	52
4	石本日和子	1-26-6(S)	55
5	宮下 静子	1-27-8(L)	63

○ 200 m バタフライ

1	坂東 美枝	2-44-7(L)	S.57
2	川上 景子	3-00-7(S)	60
3	大野 智恵	3-26-9	
4	嶋田 陽子	3-32-4(L)	55
5	石本日和子	3-44-9	

○ 100 m 背泳

1	村上 美和	1-16-8(L)	S.61
2	坂東 美枝	1-21-7(S)	58
3	加地 恵	1-24-7(L)	61
4	石本日和子	1-25-5(S)	55
5	竹島 作子	1-27-9	

○ 200 m 個人メドレー

1	川上 景子	2-48-5(L)	S.60
2	坂東 美枝	2-54-5(L)	56
3	村上 美和	2-54-8(L)	61
4	宮下 静子	2-58-6(S)	63
		3-02-6(L)	63
5	石本日和子	3-07-5	

○ 400 m 個人メドレー

1	川上 景子	5-53-0(L)	S.62
2	坂東 美枝	6-04-0(S)	56
3	村上 美和	6-35-2(S)	61
4	石本日和子	6-52-5(L)	
5	嶋田 陽子	7-00-9(L)	55



凌 泳 会 会 則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 (名 称) 本会は凌泳会と称する。
- 第 2 条 (事 務 局) 本会は事務局を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。
- 第 3 条 (目 的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は前条の目的を達成する為に下記の事業を行なう。
1. 会誌「凌泳」の発行
 2. 会員相互の連絡
 3. 定例総会及び各種の親睦会合
 4. 神戸大学水泳部発展の為に指導及び援助
 5. その他、本会の目的を達成するに必要な事項
- 第 5 条 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第 2 章 会 員

- 第 6 条 (会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員、準会員及び在学会員とする。
- 第 7 条 (正 会 員) 正会員とは、次のものを云う。
- 国立神戸高等商業学校、国立神戸商業大学、神戸経済大学、同附属経営学専門部、神戸大学 以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。
- 第 8 条 (特 別 会 員) 特別会員とは、次のものを云う。
1. 前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者、及び現在ある者
 2. その他、総会の決議によって推薦した者
- 第 9 条 (準 会 員) 準会員とは、前 2 条に該当する者以外の者で神戸大学水泳部と行動を共にし、その活動に協力した者の内、本人が入会を希望し、且つ在学会員より推薦のあった者を云う。
- 第 10 条 (在 学 会 員) 在学会員とは、次のものを云う。
- 現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者
- 第 11 条 (会 費) 正会員は、会費として年額 8,000 円を当会へ納入する。但し、卒業後 44 年を経過した者は会費を免除する。準会員は、会費として正会員の半額を当会へ

納入する。

第 3 章 役 員

第 12 条 (役 員) 本会に次の役員を置く。

会 長 1 名

副 会 長 2 名

監 事 若干名

幹 事 長 1 名

本 部 幹 事 若干名

支 部 幹 事 若干名

第 13 条 (改 選) 役員の変更は、総会の決議によって行なう。

第 14 条 (任 期) 役員任期は1年とし、再選を妨げない。

第 15 条 (会 長) 会長は本会を代表し、且つ統轄する。

第 16 条 (副 会 長) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第 17 条 (監 事) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第 18 条 (幹事長及び本部幹事) 幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し、総括的会務の執行に当たる。

第 19 条 (支 部 幹 事) 支部幹事は、各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第 4 章 総 会

第 20 条 (招 集) 総会は、少なくとも2週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集する。

第 21 条 (時 期) 総会は、毎年5月に開催するものとし、臨時総会は、必要に応じて招集する。

第 22 条 (議 長) 総会の議長は、会長がこれに当たる。

第 23 条 (議 決) 総会の決議は、出席正会員の過半数を以って決する。但し、当該議事につき書面を以ってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第 5 章 会 計

第 24 条 (経 理) 本会の経理は、会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。

第 25 条 (決 算) 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。

第 26 条 (期 間) 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

第 6 章 凌 泳 の 送 付

第 27 条 本会で会費を 3 年間滞納した者には「凌泳」の送付を停止する。但し、特別の事情がある者(海外駐在員等)は除くものとする。

第 7 章 雑 則

第 28 条 本会則は、昭和 58 年 5 月 29 日より発効する。

付記(退会者の取扱について)

昭和 57 年度総会において下記のとおり決定した。

文書その他の方法で退会の意思を表明した者は退会を認めることとし、その事実を明確にする為、名簿の最後に退会者欄をもうける。

凌 泳 会 役 員 名 簿

会 長	小 山 賢之助(昭 7 学)	
副 会 長	吉 野 栄(昭15学)	山 口 宗 樹(昭16学)
監 事	伊 藤 英 二(昭13学)	三 宅 林(昭21学)
幹 事 長	岡 田 重 義(昭37営)	
幹 事	富 岡 道 雄(昭31営)	
	上 田 剛 弘(昭56営)	
会計担当幹事	山 本 隆(昭57経)	
凌泳編集幹事	石 井 義 章(昭27経)	
支 部 幹 事		
(関 東)	支部長	山 口 宗 樹(昭16学) 鈴 木 正 弥(昭39経)
		佐 敷 定 雄(昭49農) 吳 竹 正 人(昭59法)
		浦 野 敏 明(昭60営)
(中 部)	支部長	井 上 隆 史(昭37営)
(中 国)	支部長	大 内 義 仁(昭14学)
(四 国)	支部長	中 村 市 治(昭15学)
(九 州)	支部長	印 藤 勝 美(昭18学)
(関 西)	支部長	吉 野 栄(昭15学)
	京 都	柳 本 正 雄(昭37営)
	阪 神	橋 本 力(昭30工) 富 岡 道 雄(昭31営)
	姫 路	山 口 仁 郎(昭32営)
運 営 委 員		三 宅 林(昭21学)
		石 井 義 章(昭27学)
		富 岡 道 雄(昭31営)
		岡 田 重 義(昭37営)

物 故 会 員

氏 名	卒業年次(回)	氏 名	卒業年次(回)
藤 井 正太郎	特	太 田 清	7 26
多 田 徳 雄	特	土 肥 駒次郎	昭 7高26
山 田 幸 男	特	鈴 木 栄二郎	7学 1
田 口 寛 治	特	鍵 本 芳 次	8 2
北 村 五 良	大 6高11	熊 野 利 夫	8 2
小笠原 房 穂	10 15	小 西 熊 雄	9 3
白 山 源三郎	10 15	糸 川 義 男	10 4
中 村 精 一	10 15	片 山 四 郎	11 5
天 野 俊 一	10 15	野 村 弘	11 5
加 納 茂	11 16	栄 口 昌 二	12 6
野 田 曾 一	11 16	村 上 秀 造	13 7
岡 本 幸 一	12 17	高 橋 徴	13 7
榊 原 零 一	12 17	富 岡 喜一郎	13 7
山 村 馨	12 17	岡 野 巖(旧姓)土屋	13 7
山 下 虎 蔵	13 18	和 泉 真 弘	14 8
中 村 信 三	13 18	松 本 勇	14 8
鈴 木 不羈雄	14 19	福 永 拓 造	14 8
繁 益 繁治郎	14 19	新 原 拓 夫	15 9
古 林 喜 楽	14 19	尾 原 芳 行	16 8
高 森 安 夫	14 19	部 坂 克 夫	16 10
三 輪 嘉一郎	15 20	恩 地 正 伍	16 10
高 田 寿 三	15 20	鈴 木 啓 介	16 10
大 谷 親之輔(旧姓)井関	昭 2 21	井 上 正 平	16 11
大 島 勝 利	2 21	柏 木 慶 三	16 11
中 村 毅	2 21	稻 垣 懋	16 11
浅 野 猛 雄	3 22	山 口 八 郎	17 12
田 川 亮 一	3 22	池 田 勲 治	18 13
阪 本 豊 一	3 22	前 田 礼 之	19 14
作 田 耕 三	3 22	伊 藤 一 郎	21 16
白 井 儀 三	3 22	斉 藤 嘉一郎	21 16
東 光 武 三	4 23	衣 川 昭	24専 1
尾 上 長三郎	4 23	鈴 木 富 夫	25学20
川 西 武 雄	7 26	中 島 功	28経 1
		今 井 彰	30法 3

昭和63年度物故者
田口寛治
(平1.1.21)

高森安夫
糸川義男

退会者

(本人の希望により退会された方です。氏名の次の数字は卒業年次・回生・退会年次を示す。)

吉田隆喜	昭16・学11・昭58
稲木俊男	昭17・学12・昭57
岩永威	昭23・学18・昭57
石尾嘉嗣	昭24・専1・昭57
山口尚彦	昭40・T13・昭59
天野孝司	昭51・A24・昭57
松本克江	昭55・P28・昭61
松本幸恵 旧(友近)	昭58・準会員・昭61

商

神

1. 商神彩なす翹をあげて
 靈杖遙に東を指せば
 靈しき果実は雲間を漏りて
 秋津島根に落つとぞ見えし
 所はここぞ菊水かおる
 湊河原の近きほとりに
 かく伝わりし天のさとしも
 人はさとらで幾年か経ぬ

2. 神の息吹のこもりて成りし
 靈果いかで地に朽つべき
 豊栄のぼる朝日のかげに
 八州の外の潮風吹きて
 いつしか催す気運に乗じ
 わが学校ぞ世に生まれたる
 眠る 商界夢さますべき
 使命は天の授けし所

3. 此処摩耶の山六甲の峰
 連り亘る山ぶところに
 数の若鷹はぐくまれ居て
 静かにうかぶ雲の行きかひ
 朝妙なる琴のひびきは
 敏馬の浜に松を吹く風
 夕やさしき舞の姿は
 茅渚の浦曲に白帆行く影

4. 希望に満てる春の潮の
 寄せてはかえず清き渚や
 熱誠もゆる夏の盛りを
 いたわる風の葦合の里
 須磨や明石をかけて照るらん
 月には物のあわれをぞ知る
 冬は凍たる後に嵐
 奔馬空行く勢示す

5. 天れ山水の秀麗の気は
 偉人傑士を起たしむとかや
 天の使命を胸に収めて
 清き自然に抱かれながら
 筋骨鍛え智徳を研く
 切磋琢磨の三年の春秋
 養い得たるうつ物の意気
 抱負を語れや千余のおのこ

6. 金歌無欠の三千余年
 かがやく光は剣の誉
 心はおなじ大和男子の
 我等は牙嚙を執って起ちなん
 日出ずる旗を高くかさして
 日入らぬ国と手を携えて
 目ざす平和の戦の場に
 匂り御国の花ぞ咲かせむ

7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
 野に立出ずる蒼瀨幾羽
 爪も研ぎぬ力も足りぬ
 尋にも余るつばさを張れば
 枝の百鳥皆おそれ伏す
 扶揺万里の風を起して
 おのが向々東に西に
 雲に突き入る勢見るや

商 神



宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

ま や ろ っ こ う に い だ か れ て
 み ど り の そ の に は な ふ り か へ る
 こ こ お か の ー べ の わ こ う ど が
 も ゆ る お も い を む ね に ひ め
 ま な ぶ や ゆ う ひ の と き を き し

一

摩耶六甲に抱かれて
 緑の園に花ふりかかる
 ここ丘の上の若人が
 燃ゆる思いを胸に秘め
 学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて
 茅渚の浦ゆ紀伊の山
 右手に四国よ淡路島
 左手にうかぶ金剛山
 大らかにぞ抱負わく

三

燃ゆる紅葉たそがれて
 宵闇せまる山路を踏めば
 真理に挑む若鷹が
 ネオンの海を見おろして
 いよよ決意をかたむ哉

四

身に沁みわたる峯おろし
 冬来りなば春近し
 巢立つ晴れの日時せまる
 翼ひろげて悠然と
 宇宙を股に羽ばたかん

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄
作曲 黒田 浩一
編曲 土橋 康宏

たて や たー て われらがえらばれ
しせんし ぼころのたかき ほまれにかけ て た
だ めざす しゅうりのかむり
ふる えいざ ふるーえ ちからのかぎり かがやかんえい
ころはつーねに われらーにー
ころべころべころべ われらがころべだいがーくゆけ

<p>三</p> <p>聞けや聞け われらが選ばれし戦士 青春の若き血潮たぎらせ 相和するかちどきの歌 振るえいざ振るえ意気いや高く 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>	<p>三</p> <p>征けや征け われらが選ばれし戦士 若人の大き誇を秘めて 胸深く制覇の誓 振るえいざ振るえ雄々しく強く 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>	<p>一</p> <p>起てや起て われらが選ばれし戦士 母校の高き誓にかけて ただ目指す勝利の栄冠 振るえいざ振るえ力の限り 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ り に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
 2. フ リー ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク リ レー に
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ り だ い の



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ
 ポ ロ ま で も ぬ り え い け ん じ の い き た か し い ざ
 ブールベに つ き み の え ん で お よ ぎ や め く る



き(しぶき) を あ げ る け ん だ ー ん じ
 や(いざや) ー き そ わ ん う で を ー ぶ し
 な(くるな) つ ま っ ー て い き り ー た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し
 茅渚の浦曲を見下して
 しぶきをあげる健男子

二、フリープレスト バタフライ

バックリレーにポロまでも
 凌泳健児の意気高し
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に
 月見の宴で泳ぎ止め
 来る夏待っていきり立つ

平成元年六月一日発行

発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌 氷 会
神戸大学水泳部

原稿等郵送宛先

〒657

神戸市灘区六甲台町
神戸大学体育会水泳部

会費等振込口座

郵便振替口座番号

神戸 一の二一八四一

加入者名

神戸大学凌氷会

編集責任者

石井義章
三宅正樹

発行責任者

古谷拓裕

印刷所

神戸市灘区将軍通四丁目三十一十六
青野出版印刷株式会社
電話〇七八一八六一一四〇八九
八七一―二八三八